

プリキュアオールス  
ターズ&コロッケ  
3！サンサンキングダム  
危機一髪！

スーパーケロロ

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

プリキュアとバンカーが深海世界を救って月日がたつ中。妖精の国、サンサンキングダムが何者かに襲われる。新たなプリキュア、キラキラプリキュアアラモードはバンカーコロツケと出会いサンサンキングダム、先輩プリキュアを救う為に戦う旅に出るのだった！

# 目次

第1話	太陽の国を救う旅へ！プリキュアとバンカー！	1
第2話	悪の兵士襲来！	15
第3話	狙われた覆面バンカー！	28
第4話	捨てられたプリキュアの協力者	36
第5話	クリスタルミニシャインの秘密	46
第6話	砂漠の魔獣！	58
第7話	輝きのバンカー参戦！	71
第8話	エクリプスの狙いはコロッケ？	

第9話	強力！アユとドロップ！	80
第10話	ダイフクーを探せ！	89
第11話	サンサンキングダム の姫、ルイーザ！	97
第12話	ルイーザの悲しみ、 クリスタルの手がかり	107
第13話	完成の秘密兵器、 Gシステム	118
第14話	美術館の怪物！	127
第15話	戦う貯金箱！	137
第16話	大激戦！カラスミ軍団！	150

第23話	モナカ島へ！船に……乗れま	217	第22話	プリキュアを思う魔剣士！	202	第21話	ジャングルの野獣！	194	第20話	恐怖の兄弟！ビシソワーズ一	185	第19話	風と爆弾！爆風を起こせ！	177	第18話	極悪の集団、BB7！	159	第17話	コロツケを追って！氷と考古	167	学バンカー！	167	第24話	キャラメル王国の試練！コ	227	第23話	ロッケとあおい！	237	第22話	海のモンスター！	250	第21話	ルイーザの家族	267	第20話	再会！プリンセスバンカー！	276	第19話	ウッドン決戦！コロツケ対ポ	285	第18話	雪原の化け物！	291	第17話	黒い拳！ブルックスの逆襲！	299	第16話	ポトフの師匠！	308	せん！	227
------	---------------	-----	------	--------------	-----	------	-----------	-----	------	---------------	-----	------	--------------	-----	------	------------	-----	------	---------------	-----	--------	-----	------	--------------	-----	------	----------	-----	------	----------	-----	------	---------	-----	------	---------------	-----	------	---------------	-----	------	---------	-----	------	---------------	-----	------	---------	-----	-----	-----

第32話	エクリプスのプロジェクト！	319	第40話	悪魔のコロツケ！	406
第33話	ペペロンチーノと思いの出のハンバーガー！	329	第41話	複雑な決戦、コロツケ対ウイスキー！	419
第34話	岩窟の巨人！	338	第42話	正義か悪か！悩むコロツケの心！	429
第35話	諸刃の剣の正体！	352	第43話	コロツケのストレス！	435
第36話	炎の悪魔！	367	第44話	進化する強さ！リゾット対ウリスの罠！	440
第37話	サンサンキングダムへ！エク	375	第45話	プラレタリウムの罠！コロツケ対ティーボーン！	446
第38話	悪魔の大会！エクリプスカップ開幕！	386	第46話	悪の同対決！ヒート対ウコン	453
第39話	悲しみの気持ち、メンマの怒り！	395			

第47話 命がけの決戦！コロツケ対ウ

コン！

第48話 見守ってた父の魂！

461

第49話 太陽に向かってホイップ・ス

テップ・ジャンプ！

487

# 第1話 太陽の国を救う旅へ！プリキュアとバンカー！

バンカーの世界

コロツケ「気持ちいい風だな。メンチ、スフレ。」

メンチ「ブヒ！」

スフレ「そうですね、海からの風が私達を癒します。」

コロツケ「あの戦いからどれくらいたつのかな？」

スフレ「プリキュアの事かしら？」

コロツケ「うん。」

スフレ「そうですね、今頃みらい達どうしてるのでしょうか。」

その頃 妖精の国、サンサンキングダム

悪兵士長「ぐっはははは！それ！どんどん暴れる！」

悪兵士「「おおー！」」

???「やめて！これ以上サンサンキングダムを荒らさないで！」

悪兵士長「やめてってか？だったらそのサンサンキングダムの秘宝、クリスタルシャ

インを渡したらどうだ？ルイーザ姫よ。」

妖精達 「姫〜!」

ルイーザ 「あなた達にクリスタルシャインは渡しません!みてなさい、必ずプリキュアが来てくれます!」

悪兵士長 「プリキュアか、それはいい、野郎共、プリキュアを捕まえろ!」

悪兵士 「はっ!」

ルイーザ 「絶対あなた達の思い通りにはさせないわ!」

悪兵士長 「それはどうかな、それにこの国の光も邪魔だな。クリスタルシャインの周りの宝石は邪魔だ!」

ルイーザ 「あっ!クリスタルミニシャインが!何するの!クリスタルミニシャインはクリスタルシャインを支える大切な役目を持つ宝石なのよ!」

悪兵士長 「何!危ねえな。」

ルイーザ 「あなたにわたるくらいなら、クリスタルミニシャインよ、別の世界に飛んでいって!」

キラーン

悪兵士長 「あっ!てめえ!」

ルイーザ 「これでクリスタルシャインは光らないわ。」

悪兵士 「隊長!クリスタルミニシャインは全てこの世界にあります!」



悪兵士長「本当か！ちようどいい。計画実行だ！禁貨のある世界に行くぞ！」

妖精「あいつらの思い通りにはさせるもんか。早くプリキュアの所に行かないと！」

そしてプリキュア達の世界

キラキラパティスリ

いちか「みんな、いらっしやいませ！」

みらい「いちかちゃん、久しぶりだね。」

いちか「うん！」

なぎさ「あなた達がいちか達なのね。」

ひまり「はじめまして。」

あおい「どうも。」

はるか「それからあなたがシエルさんだね。」

シエル「そう、よろしくね。」

めぐみ「今日はスイーツパーティーの招待ありがとう。」

あきら「うん、せっかく大勢のプリキュアがそろうんだから。」

ゆかり「さあ、好きなのをえらんでね。」

ペコリン「ペコ！」

咲「うさぎのショートケーキにりするプリンも美味しそうね。」

マナ「このカップケーキ、子豚だ。」

はるか「子豚、なんだかメンチを思い出すね。」

あおい「メンチ? 何でカップケーキでメンチが?」

みらい「食べ物でメンチじゃないの。別世界の友達を思いだしたの。」

いちか「別世界の友達?」

ラブ「コロツケって名前前で私達を助けてくれた恩人なんだよ。」

ゆかり「コロツケ?」

あきら「そんなことがあったんだね。」

ペコリン「どんな人ペコ?」

はるか「一番最初に会ったのは私達で強くて優しい子だよ。」

みらい「うん。」

ひまり「そうなんですか。」

シエル「そのメンチってコロツケのペットの子豚なの?」

のぞみ「ううん、メンチは貯金箱だよ。」

いちか「貯金箱?」

長老「誰か来るジャバ!」

いちか「えっ?」

悪兵士A 「プリキュアだな。」

つぼみ 「何ですかあなた達は！」

悪兵士 「隊長の命令でお前達を捕まえに来た！」

みゆき 「私達を！」

響 「どうやら悪い人達見たいね！」

なぎさ 「みんな、変身するよ！」

悪兵士A 「ふん」

パチン

ザツ

プリキュア達 「きゃあー！」

いちか 「みんな！」

悪兵士B 「あいつらはどうします？」

悪兵士A 「ほっとけ、ただのパティシエに何ができる。行くぞ！」

ニユーン

あおい 「そんな・・・」

ひまり 「先輩プリキュアの皆さんがつれていかれてしまいました」

妖精 「あつ！遅かった！」

あきら「きみは？」

シエル「この子、サンサンキングダム妖精ね！」

ゆかり「サンサンキングダム？」

ペコリン「太陽の国って呼ばれてる国ペコ。」

いちか「太陽の国。」

ソール「僕のサンサンキングダムの妖精、ソール。」

ゆかり「ソール、今の連中はなんなの？」

ソール「あいつらはサンサンキングダムを襲った奴らなんだ！」

あおい「あいつらが！」

ソール「プリキュアに助けを求めていたのに来たのにプリキュアが全員捕まるなんて」

いちか「全員じゃないよ。」

ソール「えっ？」

ひまり「はい！」

あおい「私達がいる！」

ソール「それってキミ達が！」

シエル「私達もプリキュアよ。」

ゆかり「それも新しいプリキュアでね。」

ソール「それなら来て！サンサンキングダムに！」

いちか「うん！みんなを助けよう！」

あきら「まずパティシエ服から着替えよう！」

そして

ソール「みんな、行く準備はいい？」

いちか達「うん！」

ソール「それじゃサンサンキングダムへ！」

キラーン

バンカーの世界

キラーン

コロツケ「ん！なんだ？」

いちか「ついた！」

ひまり「ここがサンサンキングダムですか？」

ソール「違う・・・サンサンキングダムじゃない！」

シエル「えっ！どお言う事？」

あきら「私達はサンサンキングダムに向かったはずなのに？」

スフレ「あの」

ゆかり「あら?あなた達サンサンキングダムの人達?」

コロツケ「サンサンキングダム?なんだそれ?」

あおい「違うみたいだな、やっぱり。」

ペコリン「でもどうしてこの世界に来たペコ?」

悪兵士A「サンサンキングダムはこの世界に移住させたんだよ!」

いちか「あなた達は!」

悪兵士B「まさかサンサンキングダムの妖精に残りがいたとはな。」

シエル「どうしてサンサンキングダムをこの世界に!」

悪兵士A「この世界には禁貨があつてね。」

ひまり「禁貨?」

悪兵士A「ん、そのガキ、バンカー。ちようどいいや、貴様の禁貨をいただくぜ!」

タツ!」

いちか「危ない!」

コロツケ「バンカーか!受けてたつぜ!ハンバーガー!」

悪兵士A「ぐあ!」

あおい「強い!」

スフレ「当然ですわ。コロツケにかかればあの方の1人や2人、楽勝ですから。」  
シエル「コロツケ？」

いちか「まさかみらいちゃん達が言つてたコロツケって！」

コロツケ「みらい？それじゃお前達は！」

悪兵士A「ちくしょ！お前ら！」

悪兵士達「「おお〜！」」

いちか「みんな！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇氣を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しいさとときめきを!」

あきら「強さと愛を!」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアアカスタード「キュアアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり!」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ!できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり!」

悪兵士A「なに!」

悪兵士B「こいつらもプリキュアだったのか!」

コロツケ「やっぱりプリキュアだったんだ!」

スフレ「でもどうしてこの世界に?」

悪兵士A「いくぞ!」

キュアホイップ「はあ!」

コロツケ「ハンバーガー!」



悪兵士A 「うあ！」

スフレ 「竜巻切り！」

悪兵士B 「ぐあ！」

悪兵士C 「てや！」

キュアカスタード 「はい！」

コロツケ 「あいつ速い！」

悪兵士A 「岩に潰れてくたばれ！」

キュアマカロン 「ふふ」

ザキン

バラ

スフレ 「爪で岩を！」

コロツケ 「すげえ！ウスターみたいだ！」

キュアマカロン 「ウスター？」

悪兵士C 「それなら！」

スツ

ペコリン 「姿が見えなくなったペコ！」

コロツケ 「どこだ！」

くんくん

キュアシヨコラ「そこに居る!」

キュアジエラート パルフエ「はあ!」

悪兵士C「ぐあ!何でわかつたんだ!」

キュアシヨコラ「私は鼻が聴くのさ!」

コロツケ「こっちはTーボーンみたいだ!」

キュアシヨコラ「Tーボーン?」

悪兵士達「くそ!」

コロツケ「108ハンバーガー!」

悪兵士達「ぐあ!」

キュアカスタード「すごい!」

キュアパルフエ「ホイップ!」

キュアホイップ「うん!キラキラキラル・キラキラル!」

悪兵士達「うわあ!」

悪兵士A「くそ!覚えてろ!」

コロツケ「へへん。」

キュアホイップ「あなたがコロツケだったんだ。」

コロツケ「うん、俺コロツケ！こっちはメンチ。」  
メンチ「ブヒ！」

あおい「それがメンチなんだ。」

コロツケ「こっちはスフレ。」

スフレ「スフレですわ。」

いちか「私、宇佐美いちか。」

ひまり「有栖川ひまりです。」

あおい「立神あおいだよ。」

ゆかり「琴爪ゆかりよ。」

あきら「劍城あきら。」

シエル「キラ星シエルよ。よろしくね。」

ペコリン「ペコリンペコ！」

スフレ「そちらの妖精は？」

ソール「僕、ソール。サンサンキングダムから来たんだ。」

スフレ「そういえばさつきからサンサンキングダムって言っていましたわ。そもそもどうしてプリキュアがまたここに？」

ソール「サンサンキングダムが今の奴らに襲われて。まさかサンサンキングダムがこ

の世界に移住してたなんて」

ひまり「みらいちゃん達もサンサンキングダムにいるかもしれないね。」

コロツケ「スフレ、協力しよう!みらい達を助ける為に!」

スフレ「ええ!」

シエル「本当!」

コロツケ「プリキュア達は俺の友達だもん!助けに行かなきゃ!」

いちか「ありがとう!コロツケ。」

スフレ「それではまず仲間を集めないで。」

いちか「仲間を?」

コロツケ「よし!行こう!」

いちか「うん!」

つづく

## 第2話 悪の兵士襲来!

いちか「コロツケ達の世界って意外とのどかだね。」

ひまり「そうですね。」

コロツケ「なあ、いちか達は何のプリキュアなんだ？」

いちか「私達？」

スフレ「たしかみらい達の方は魔法つかいでしたね。」

いちか「私達のスイーツのプリキュアだよ。」

コロツケ「スイーツのプリキュア？」

スフレ「でも姿は動物のようでしたが。」

シエル「いちか達のスイーツは動物をイメージしてるの。」

コロツケ「そうなのか、どんなのだろうな。」

スフレ「そういえば、ソールでしたね。あなたの故郷を襲った連中には何の為にやって

きましたの？」

ゆかり「そうね、何か目的があるのかしら。」

あきら「それならキラパティで話をしよう。」

コロツケ「キラパティ?」

あおい「これだよ。ペコリン!」

ペコリン「ペコ!」

スフレ「カバン?」

ペコリン「オープン!」

ボオン

コロツケ「カバンが建物になった!」

いちか「持ち運び可能なスイーツ工房、キラキラパティスリー。略してキラパティだよ。」

キラキラパティスリー

コロツケ「これがいちか達が作ったスイーツか!」

スフレ「本当に動物をイメージしてるのね。」

ペコリン「そうペコ!キラキラルがいつぱいペコ。」

コロツケ「キラキラル?」

長老「スイーツに含まれてるもとジャバ。」

スフレ「えっ?妖精!」

長老「ソナタがコロツケジャバナ。」

コロツケ「うん！」

長老「わしはこのキラパティに潜んでる長老ジャバ。」

スフレ「潜んでる？」

長老「訳があつて実体のない体でここから出られないんジャバ。」

スフレ「それじゃお化けて事ですの！」

長老「いやいや、そう言う事じゃないジャバ。」

コロツケ「お化けなのに怖くないね。」

長老「だからお化けじゃないって！」

あおい「まあ改めて聞くけど、ソール。奴らはなんなんだ？」

ソール「僕もよくわからないんだ、あいつら突然サンサンキングダムに現れてルイー

ザ姫と妖精達を捕らえて……」

ひまり「ルイーザ姫？」

シエル「聞いたことあるわ。太陽のように輝いてみんなに太陽のような笑顔を見せる優しいお姫様つて。」

いちか「そうなんだ！」

コロツケ「何で知ってるんだ？」

シエル「それはこれよ。」

ボオン

キラリン「キラ！」

コロツケ「シエル！妖精だったのか！」

キラリン「キラリンキラ！」

スフレ「あの兵士達が襲ってきたって事は何か目的があるのですか？例えばその国にある秘宝とか？」

ソール「鋭いね。奴らはクリスタルシャインが狙いなんだ！」

あきら「クリスタルシャイン？」

ソール「クリスタルシャインはサンサンキングダムを平和にしてくれる大切な物なんだ。」

ゆかり「それをあの兵士達に取られたのね。」

ソール「でも今のクリスタルシャインはクリスタルミニシャインがないせいで輝きを失ってる。」

コロツケ「クリスタルミニシャイン？」

ソール「虹のように輝く7つの小さなクリスタルシャインだよ。クリスタルミニシャインがあるからクリスタルシャインは輝くんぞ！ルイーザ姫はクリスタルミニシャインをこの世界のどこかに飛ばしたみたいなんだ。」



ひまり「それでサンサンキングダムをこの世界に移住させたんですね。」

ゆかり「話はわかったわ。それにあの兵士、どうしてコロツケを襲ったのかしら？」

スフレ「おそらく禁貨が狙いなんですよ。」

あおい「禁貨？」

あきら「そういえば兵士は禁貨があるって言ってた。」

シエル「ところでその禁貨ってなんなの？」

スフレ「これですわ。」

チャリン

いちか「その薙刀、貯金箱になってるんだ！」

スフレ「正確にはバンカーはバンクって呼んでいます。これが禁貨です。」

いちか「それが。」

ゆかり「キレイなコインね。」

ペコリン「これをどうするペコ？」

コロツケ「貯めるとバン王が出てきて願いを叶えてくれるんだ！」

あきら「そんなこと出来るの！」

コロツケ「うん！」

あおい「それであいつらはコロツケを襲ったのか。」

ペコリン「コロツケの願いは何ペコ?」

コロツケ「俺の願いは父さんを生き返らせる事だ!」

いちか「お父さんを!」

あおい「死んじやってるの!」

コロツケ「うん。次は生き返らせてみせるよ!」

ゆかり「次は?」

コロツケ「俺、何度もバン王を呼んだんだ。」

シエル「そんなに呼んで何でお父さんを生き返らせなかつたの?」

スフレ「悲しい顔した人を笑顔にするためみたいですわ。コロツケの納得がいくよう

な願いでしたわ。私を生き返らせたりしましたし。」

いちか「えっ?あなたを生き返らせた?」

スフレ「はい、私、1度死にました。」

あおい「マジか!本当に生き返らせる事が出来るのか!」

あきら「スフレってコロツケの妹なの?」

スフレ「ちがいますわ。」

コロツケ「俺達恋人。」

ひまり「恋人!」

??? A 「何でここに建物が？」

??? B 「何かのお店みたいでっす。」

コロツケ 「あの声は！」

ガチャ

コロツケ 「やっぱり！リゾットにキャベツ！」

リゾット 「コロツケ！」

キャベツ 「コロツケさん！スフレさんも！」

スフレ 「2人共、久しぶりですわ！」

いちか 「コロツケ、その人達は？」

コロツケ 「俺の仲間だよ。」

シエル 「仲間探しの入ってる人達なのね。」

リゾット 「コロツケ、そいつらは誰だ？」

コロツケ 「こっちはいちか達だ。」

いちか 「よろしくね。」

キャベツ 「コロツケの友達ですか？」

コロツケ 「うん。それにいちか達はな．．」

悪兵士 A 「やいやい！」

あおい「あいつらは！」

リゾット「何なんだ？こいつらは。」

ソール「僕の国を襲った悪い奴らなんだ！」

キャベツ「えっ？妖精ですか？」

悪兵士B「隊長、あいつです。俺達をこけにしたのは！」

悪兵士長「あの小僧か！」

スフレ「あなたが悪の組織のボスですか？」

悪兵士長「残念だが俺はこいつらの隊長だ！悪兵士共を可愛がってくれたお礼に貴様らを倒してやる！」

いちか「みんな！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとトキメキを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

リゾット「変身しただと!？」

キャベツ「まさかその人達、プリキュアですか！」

コロツケ「うん、みらい達の次になったプリキュアだ。」

リゾット「すると新しいプリキュアか。」

スフレ「皆さん、来ますわ!」

悪兵士長「我々の計画を邪魔する奴は生かしておくな!」

悪兵士「おぉー!」

リゾット「108マシンガン!」

悪兵士「ぐあー!」

キュアジエラート「片足で連続キック!」

キャベツ「僕もいきます!びょーんパンチ!」

キュアシヨコラ「舌が伸びてパンチした!」

キュアマカロン「カエルらしい技ね。」

キュアホイップ「私達もいくよ!」

キュアカスタード「はい!」

悪兵士長「食らえ!」

コロツケ「食らわないぜ!捕らえたみらい達を返せ!」

悪兵士長「みらい達?捕まえたプリキュア達の事か。そいつらはサンサンキングダムに居るぜ。捕らえた姫と一緒にには。」

ソール「ルイーザ姫か!」

悪兵士長「野郎共!さっさ倒せ!」

キュアホイップ「させないよ！はあ！」

悪兵士「うあ！身動きがとれん！」

キュアカスタード「ジェラート！」

キュアジェラート「おっしや！」

キュアカスタード ジェラート「キラキラキラル・キラキラル！」

悪兵士「ぐあー！」

悪兵士長「なに！」

コロツケ「ハンバーガー！」

悪兵士長「ぐあー！」

ペコリン「やったペコ！」

悪兵士長「くそ、覚えてろよ！」

スフレ「やりましたね！」

そして

リゾット「するとみらい達は今の奴らに捕らわれて」

キャベツ「そのサンサンキングダムつて国に居るつて事ですか？」

ソール「うん、ルイーザ姫も助けないと。」

コロツケ「リゾット、キャベツ、もう一度力かしてくれないか？」

リゾット「ああ、もちろんだ!」

キャベツ「僕も戦います!」

いちか「ありがとう!リゾット、キャベツ。」

あおい「キャベツ、その背中のおたまじゃくしってバンク?」

キャベツ「はい!バンクのパセリでっす!」

パセリ「ぶによん!」

あきら「動いた!メンチと同じ生きてる貯金箱だったんだ。」

ゆかり「それで仲間集めは?まだ仲間いるの?」

コロツケ「うん!」

リゾット「コロツケの仲間はかなり居るぜ。」

シエル「そんなに居るんだ。まるでプリキュアみたいね。」

ひまり「それからクリスタルミニシャインを探さないといけないですよね。」

リゾット「クリスタルミニシャイン?」

コロツケ「太陽の形をしたクリスタルみたいなんだ。」

スフレ「サンサンキングダム<sup>①</sup>の姫がこの世界のどこかに飛ばしたみたいなんですの。」

リゾット「もしかしてあれか?」

ソール「何か知ってるの!」



リゾット「ああ、昨日太陽の形をした黄色い物が低く飛んでいてな。」  
ソール「それだ！」

キャベツ「僕と会う前にそんな事が。」

ひまり「リゾットさん、どの辺に飛んでいったのか心当たりありませんか？」

リゾット「あの辺はヌカ砂漠に飛んでいった。」

コロツケ「よし、ヌカ砂漠に行こう！あいつらより先に手に入れよう！」

いちか「うん！」

つづく

## 第3話 狙われた覆面バンカー!

リゾット「それじゃあクリスタルミニシャインはクリスタルシャインを支える為の宝石って事か。」

ソール「うん、奴らはそれを知らずに雑にしてたんだ。」

キャベツ「そのルーザーってお姫様は奴らにクリスタルシャインを渡さない為にクリスタルミニシャインをこの世界に飛ばしたって事ですね。」

ソール「そうなんだ。だから奴らからサンサンキングダムを救う為にプリキュアの世界に来たんだ。」

コロツケ「そういうえばあいつら、なんでプリキュアを襲ったんだ?」

スフレ「確かにそうですね。彼ら、プリキュアを操って味方にするのか力を奪って怪物を生み出すのかしら?」

いちか「わからないけどどうなんだろう?」

ゆかり「まあみんなが無事なのを祈るしかないわ。」

あきら「そうだね。」

キャベツ「それにしても驚きでっす。」

いちか「なにが？」

キャベツ「プリキュアって女の人だけなのに男の人もなれるなんて。」

あきら「えっ？」

コロツケ「そういえばそうだな。」

あきら「いや・・・私は」

あおい「あきらさんは女の人なんだ」

コロツケ「えっ！女だったの！」

スフレ「私も気づかなかった！」

コロツケ「リゾットは？」

リゾット「あつ、ああ、俺も気づかなかった。」

あきら「まつよく間違えられるから。」

ひまり「それよりヌカ砂漠へ行きましょう。」

シエル「そうね。」

???「でええええええ！」

あきら「なんだ！」

ゆかり「覆面被った変な子が来るわ。」

スフレ「覆面？」

コロツケ「あれは!」

リゾット「プリンプリン!」

プリンプリン「コロツケ、コロツケじゃねえか!」

あおい「誰なんだ?」

コロツケ「俺の仲間だよ!」

シエル「この人も仲間なんだ。」

プリンプリン「コロツケ、そいつらは誰なんだ?」

コロツケ「友達になつたいちか達だよ。」

いちか「よろしくね。プリンプリン。」

ひまり「ところでプリンプリンさん、どうして慌てて走つてたんですか?」

プリンプリン「あつ! そうだ!」

悪兵士A「待ちやがれこのブサイク野郎が!」

リゾット「あいつらは昨日の奴らだ!」

悪兵士長「あつ! 貴様ら! また会ったな!」

プリンプリン「コロツケ、奴らを知ってるのか?」

コロツケ「うん、あいつらみらい達をさらった悪い奴らだ。」

プリンプリン「みらい達?」

悪兵士長「今度こそお前達を倒してやる！」

いちか「みんな！」

プリキュアアラモード「キュアアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード! できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート! できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン! できあがり!」

キュアショコラ「キュアショコラ! できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ! できあがり!」

プリンプリン「こいつらプリキュアだったのか!」

コロツケ「うん、さあ行こうぜ! プリンプリン!」

プリンプリン「俺も戦うのかよ!」

悪兵士長「覚悟しろ! このブサイクが!」

プリンプリン「ひい!」

キュアジェラート「てあ!」

悪兵士長「ぐあ!」

キュアジェラート「すっかりしなよ、コロツケの仲間なんだろう?」

プリンプリン「あ・・・俺は」

リゾット「魂キャノン!」

悪兵士「ぐあ!」

悪兵士長「このブサイクバンカーめ!」

キャベツ「びよーんトルネード！」

悪兵士長「うあー！」

キュアシヨコラ「あの隊長、さつきからなんでプリンプリンをねらうんだ？」

キュアマカロン「禁貨狙いじゃないのかしら？」

コロツケ「ハンバーガーー！」

悪兵士「ぐあー！」

悪兵士長「もらった！」

コロツケ「プリンプリン！」

ぐにゃ

悪兵士長「ぐげー！なんだこりや！」

プリンプリン「それは俺のトラップウンチヨさ。」

キュアカスタード「あの持つてる物、武器だったんですね。」

キュアホイップ「汚い武器だね。」

キュアジェラート「今がチャンスだ！キラキラキラル・キラキラル！」

悪兵士長「うあー！」

コロツケ「ハンバーガーー！」

悪兵士長「ぐあー！」

悪兵士「隊長!」

悪兵士長「くそ、撤退だ!」

タツ

プリンプリン「だっはは!口ほどにもない奴らが!」

キュアジェラート「さつきまでびびってたくせに。」

キュアアカスタード「撤退してから強気になりましたね。」

コロツケ「ところでプリンプリン、なんであいつらに襲われてたんだ?」

プリンプリン「いや、たまたまあいつらの近くを通ったら変な話をして盗み聞きしてたらな。」

ゆかり「それで襲われてたのね。」

あきら「変な話って?」

プリンプリン「ヌカ砂漠に例の物があるって言ってるな。」

スフレ「それってクリスタルミニシャインの事ではないでしょうか!」

いちか「やっぱり砂漠にあるんだ!」

ソール「間違いないよ!」

プリンプリン「ところでよ、なんでプリキュアがいるんだ?」

リゾット「プリキュア達はソールの国を襲った奴らに捕まったんだ。」



キャベツ「それが今の奴らでっす。」

プリンプリン「そうか、そういえば！」

コロツケ「なに？」

プリンプリン「ヌカ砂漠にフオンドヴオーがいるって噂があるんだが。」

コロツケ「えっ！フオンドヴオーがいるの！」

シエル「フオンドヴオー？」

スフレ「私達の仲間ですわ！」

ペコリン「ペコ！探し物と探してる人がいっぺんに見つかるペコ！」

コロツケ「それなら早く行かなきゃ！」

いちか「ヌカ砂漠に向かってホイップステップジャーンプ！」

つづく

## 第4話 捨てられたプリキュアの協力者!

サンサンキングダム

悪兵士長 「申し訳ございません!」

??? 「無様だな、聞くところによると、プリキュア全員捕まえてないみたいね。」

悪兵士A 「いや、新しいプリキュアとは思ってもいませんでした。」

??? 「それより隊長、クリスタルミニシャインを粗末にあつかったそうね。あれがあればクリスタルシャインはより輝き我らの物になるはずだったのだがこんな面倒な事になつて。」

悪兵士長 「そ、それはまさかあの小さいクリスタルがそんなに重要な物とは思っていませんでした!」

??? 「お黙りこの役立たず!」

ビー

悪兵士長 「ぎゃあああ!」

カチーン

パリーン

悪兵士A「た、隊長！」

???「お前達もこうなりたいか？」

悪兵士「ひい〜！」

???「それがいやなら今度こそ倒してこい！」

悪兵士「はいー！」

???「Dr・ポイズン。」

Dr・ポイズン「お前達か。」

???A「そんな奴らより俺達がやりますよ。」

???B「我々7人がいればクリスタルミニシャインも、邪魔する奴らもあつという間ですよ。」

Dr・ポイズン「言うじゃないの。」

そして

悪兵士「おとなしくここに入ってる！」

プリキュア達「きゃあー！」

ガチャ

なぎさ「こらー！ここから出しなさい！」

ほのか「なぎさ、落ち着いて！」

みらい「どうしよう、プリキュアになるための変身アイテムと妖精は別の檻だし」  
リコ「魔法の杖も取られちゃったし」

ルイーザ「プリキュア? あなた達プリキュアなの!」

あゆみ「えっ? あなたは。」

ルイーザ「私、このサンサンキングダムのお姫、ルイーザといいます。」

ことは「サンサンキングダムのお姫様!」

ルイーザ「ええ。」

そのころ

町

いちか「町についた、少し休んでいかない?」

ひまり「そうですね。」

コロツケ「なあソール、サンサンキングダムってどんな所なんだ?」

ゆかり「そういえば気になるわね。太陽の国って聞いたけど。」

ソール「サンサンキングダムはクリスタルシャインのお陰で妖精や住人が明るく楽しく過ごせる豊かな国なんだ。この中でも豊かにしてくれたのがルイーザ姫なんだ。」

プリンプリン「太陽の国か。月の国を思い出さねえか?」

キャベツ「そうですね。ルナナ元気ですかな?」

あおい「ルナナ？」

リゾット「月の国の妖精だ。俺達が初めてプリキュアと出会ったときの妖精だ。」

あきら「それで先輩プリキュアはコロツケ達の事知ってたんだ。」

ソール「きみ達ルナナの知り合いだったんだ。」

リゾット「お前、ルナナの事知ってるのか？」

ソール「うん！サンサンキングダムと月の国は仲のよい国だからよく一緒に遊んでたよ。でも以前大変事になったって聞いたけど。」

プリンプリン「キングナイトメアと戦ってたときだな。」

コロツケ「そうだな。」

ソール「ルイーザ姫・・・無事なのかな・・・」

コロツケ「元氣出せよ、俺達絶対助けてやるからな！」

シエル「コロツケの言う通りだよ！私達に任せて！」

ペコリン「みんななら絶対救うペコ！」

ソール「みんな・・・ありがとう！」

メンチ「ブヒ？ブヒブヒ！」

コロツケ「どうしたメンチ？」

プリンプリン「コロツケ、あいつ！」

コロツケ「えっ?」

???「お願いします!少しでもいいですから!」

定員「ダメだ、お前みたいなガキにはつとまらん!」

???「そこをなんとか!」

コロツケ「誠司!」

誠司「えっ?コロツケ!」

いちか「誠司君!」

誠司「宇佐美達も!」

そして

リゾット「それじゃお前もあいつらに捕まっていたんだな。」

誠司「ああ」

プリンプリン「けどよく逃げ出せたな。」

誠司「いや、そうじゃないんだ!実はあのときプリキュアではないから俺だけ捨てられたんだ。だからめぐみも真央も連れていかれた。」

ゆかり「それで誠司君はどうしてレストランで働こうと思ったの?」

誠司「いえ、この世界のお金がないからどこでもいいから働いてお金を稼ごうとおもってたんです。」

コロツケ「大丈夫だよ誠司。ここから俺達と旅しよう！」

リゾット「ああ、共にプリキュアを助けたそう。」

誠司「ありがとな、お前達に会えて助かったよ。」

キャベツ「誠司さんプリキュアの皆さんはどの辺に連れていかれたか心当たりはないですか？」

誠司「そういえば海の向こうを通っていった。」

スフレ「海の向こう？サンサンキングダムは海にあるって事でしようか！」

ソール「間違いないよ！」

誠司「コロツケ達はこれからどうするんだ？」

コロツケ「フォンドヴォーとクリスタルミニシャインを探しにヌカ砂漠に行くんだ。」

誠司「よし！とことんついていくぜ！」

コロツケ「よろしくね！」

悪兵士A「そこまでだ！」

プリンプリン「あいつらだ！」

悪兵士B「ん？あのガキプリキュアと一緒に捕まえた奴じゃ？」

ゆかり「あら？今日はあの隊長さんはいないのかしら？」

悪兵士C「お前らのせいで消されちゃったよ！」

リゾット「消された?」

悪兵士A「今度こそ息のねを止めてやる!」

いちか「そうはさせない!」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

ひまり「知性と勇気を!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

あおい「自由と情熱を!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

ゆかり「美しさとときめきを!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

あきら「強さと愛を!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

シエル「夢と希望を!レッツ・ラ・まぜまぜ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」



キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

町の人A「なんだ？」

町の人B「ドラマの撮影かしら？」

誠司「どうするコロツケ、下手したら一般の人も巻き込むぞ。」

コロツケ「そうならないうちに早く終わらせないと。」

悪兵士A「覚悟しろ！」

キャベツ「びよんパンチ！」

コロツケ「テンツドン！」

悪兵士「ぐあー！」

誠司「俺もいくぜ！てや！」

キュアパルフェ「おお、ジャパニーズカラテ！」

プリンプリン「恐怖の大王！」

キュアジェラート「技名のわりに汚な」

キュアホイップ「はあ!」

悪兵士B「うあ!」

リゾット「魂キャノン!」

悪兵士C「ぐあ!ダメだ!敵わねえ!」

悪兵士A「バカ野郎!このままじゃ俺達まで消される!」

リゾット「消される?まさか奴らの上に黒幕が!」

キュアジェラート「ここは私が決める!キラキラキラル・キラキラル!」

悪兵士「うああ!」

キュアジェラート「どうだ!」

悪兵士A「もうダメだ!くそ!」

誠司「何とか追っ払ったな。」

コロツケ「うん!」

いちか「休むどころかこうなっちゃっね。」

誠司「確かフォンドヴォーがいる砂漠に行くんだよな?」

リゾット「ああ。」

誠司「あとはウスターとティーボーンだな。」

シエル「ウスターとティーボーン?」

ゆかり「それって前コロツケが言ってた。」  
あきら「コロツケの仲間の事だったんだ。」

コロツケ「これからまた頼むよ、誠司！」

誠司「ああ、一緒にプリキュアを救おうぜ！」  
つづく

## 第5話 クリスタルミニシャインの秘密!

リゾット「見えた!あの辺がヌカ砂漠だ!」

ひまり「あそこが。」

いちか「あそこにクリスタルミニシャインがあるのね。」

あおい「でも本当に落ちたのかどうかだけど。」

コロツケ「あつ、あそこでキャンプしてよ!」

ペコリン「本当ペコ。」

スフレ「何か手がかりがつかめるかもしれません。」

その頃サンサンキングダム

???「お呼びでしょうか、D r・ボイズン。」

D r・ボイズン「クリスタルミニシャインには面白い仕掛けがあるって事がわかったからな。」

???「面白い仕掛け?」

D r・ボイズン「それを利用して世界を滅ぼすのだ!」

檻

ルイーザ「それじゃプリキュアはまだ残ってるってこと？」

みらい「うん、いちかちゃん達が助けに来てくれるわ。」

ほのか「それにしてもこの王国はどこに移住したのかしら？」

ルイーザ「わからない、確か禁貨があるって言ってたわ。」

はるか「禁貨？それって！」

みなみ「コロツケの居る世界！」

ルイーザ「コロツケ？」

ありす「とても強くて頼もしいお友達ですわ。」

ひめ「もしいちか達がコロツケ達と合流してたら何とかなるかも！」

うらら「そういえばサンサンキングダムってなんか暗いですね昼間なのに？」

ルイーザ「それはクリスタルシャインが輝きを失ってるから。」

ことは「クリスタルシャイン？」

ルイーザ「サンサンキングダムの秘宝で太陽のように明るく輝いてるの。でもその秘

宝はクリスタルミニシャインがないから輝けなくなってる」

六花「クリスタルミニシャイン？」

ルイーザ「虹の色の7つの小さなクリスタルシャインよ。クリスタルシャインはクリ

スタルミニシャインに支えられて輝くの！」

悪兵士「そのクリスタルミニシャインは我々が使わせてもらう。」

ルイーザ「あなた達は!」

悪兵士「あの宝石には面白い仕掛けがあるってな。」

ルイーザ「そんな・・・どうしましょう」

ことは「どうしたの?」

ルイーザ「クリスタルミニシャインにはもろはのつるぎ、使い方を間違えればとんでもない兵器になってしまふの!」

悪兵士「そうだ、そいつでスイーツのプリキュアと赤いヘルメットを被ったハンマーの小僧を倒してやる!」

みらい「赤いヘルメットを被ったハンマーの子供?それって!」

咲「コロツケだ!いちかちゃん達、コロツケに会えたんだ!」

あゆみ「よかった。」

まりあ「喜ぶのはまだ早いわ、今は何とかしてここから脱出する方法を考えないと。そして

コロツケ「なんか変わったキャンプだな?」

ゆかり「どうやらキャラバンのようね。」

リゾット「そうだな。」

あきら「よし、聞き込みしてみよう。」

いちか「そうですね。あの、すみません。」

一族A「なんだい？」

いちか「あの砂漠に何か変わった物が飛んできましたか？」

一族A「変わった物？なんだそりゃ？」

ひまり「太陽のような形をした物です。見かけませんでしたか？」

一族B「いや、見かけてないぞ。」

ひまり「そうですか。」

一族A「でも砂漠に何か落ちたのは見かけたが。」

リゾット「それだ！やはりヌカ砂漠にクリスタルミニシャインが！」

一族B「けど砂漠に近づかないほうがいいぞ。」

ゆかり「なぜかしら？」

一族B「何かが落ちてから変な砂の魔獣が現れて。」

誠司「魔獣？」

キヤベツ「あいつらの新しい手先でしょうか？」

一族A「あいつら？」

シエル「私達を襲って来るとても悪い奴らなの！」

悪兵士A 「その悪い奴らって俺達の事だろ？」

コロツケ 「あいつら！」

あきら 「また来たか。」

悪兵士B 「今度こそお前らを倒してやる！」

ひまり 「いちかちゃん！」

いちか 「うん、いこう！」

プリキュアアラモード 「キュアラモード・デコレーション！」

いちか 「シヨートケーキ！」

ひまり 「プリン！」

あおい 「アイス！」

ゆかり 「マカロン！」

あきら 「チョコレート！」

シエル 「パフェ！」

いちか 「元気と笑顔を！」

ひまり 「知性と勇気を！」

あおい 「自由と情熱を！」

ゆかり 「美しさときめきを！」



あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士「今度こそ始末してやる！でないと今度こそ俺達は消されるからな。」

キュアパルフェ「あなた達、砂漠に何をしたの!？」

悪兵士A「なんの事だ？」

プリンプリン「とぼけるなよ！砂漠に魔獣を送り込んだんだろ！」

悪兵士B「そんなの知るか！俺達は魔獣なんて知らねえぞ！」

キュアホイップ「えっ？」

コロツケ「それじゃ魔獣ってなんなんだ？」

悪兵士C「何を訳のわからん事を言ってるんだ！このやろ！」

コロツケ「ハンバーグー！」

悪兵士C「ぐあー！」

キュアジェラート「何度来ても私達には勝てないぞ！」

悪兵士A「やかましい！」

キュアジェラート「くるか！」

サツ

キュアジェラート「えっ？」

悪兵士B「おりゃ！」

キュアジェラート「うあー！」

キュアホイップ「ジェラート！」

リゾット「魂キャノン！」

悪兵士C「うあー！」

悪兵士A「背中ががら空きだ！」

リゾット「甘いな！」

キャベツ「リゾットさん！それも罨でっす！」

リゾット「なに！」

悪兵士B「オラッ！」

リゾット「うあ！」

キュアカスタード「リゾットさん！」

悪兵士A「いけるぞ！」

悪兵士B「ああ、これで消されずにすみそうだ。」

コロツケ「大丈夫！リゾット、あおい。」

リゾット「大丈夫だ。」

キュアジェラート「くそ、あいつらやけに真剣だな。」

キュアホイップ「でも負けるわけにはいかない！」

コロツケ「うん！」

???A「おつ！本当にコロツケじゃねえか！」

コロツケ「あつ！」

???B「コロツケ、やっと見つけたッペ！」

コロツケ「ウスター！Tーボーン！」

キュアパルフェ「あの人達がウスターとTーボーン？」

ペコリン「コロツケの友達ペコ？」

誠司「ああ、一緒にプリキュアを救ってくれた仲間なんだ。」

ウスター「なんだこいつら？そいつはプリキュアか？」

コロツケ「うん、みらい達の次のプリキュアなんだ。」

ティーボーン「するとこいつらプリキュアの敵だツペか?」

ソール「そうなんだ!それにそいつらは僕の国を乗っ取たんだ!」

ウスター「なるほどな、事情はわかったぜ!よし!一致暴れてやるか!」

ティーボーン「ハデにやるツペよ!」

悪兵士A「仲間が1人や2人増えたところで!」

ティーボーン「カルシウムクラツシユ!」

悪兵士B「ぐあ!」

ウスター「ツメトギスラツシユ!」

悪兵士C「ぎあ!」

キュアシヨコラ「爪でひっかき攻撃!」

キュアマカロン「それでコロツケはウスターみたいって言ったのね。」

ウスター「食らいやがれ!ダブルツメトギ!」

ティーボーン「カルシウムアタック!」

悪兵士「ぐあ!」

キュアマカロン「負けていられないわ、シヨコラ。」

キュアシヨコラ「いくよ!」

キュアマカロン ショコラ 「キラキラキラル・キラキラル！」  
悪兵士 「ぐあー！」

スフレ 「やりましたわ！」

悪兵士A 「ちくしょよ！やべえぞ」

ビー

悪兵士 「ぐあああー！」

カチーン

パリーン

コロツケ 「なんだ！」

??? 「やれやれ。役立たずは困るもんだな。」

キュアホイップ 「あなたは！」

エレキ 「お初にお目にかかる、俺の名はエレキ。」

ソール 「あいつは！」

スフレ 「どうしましたの？」

ソール 「サンサンキングダムを襲った奴らの仲間だ！」

キュアパルフェ 「えっ！」

コロツケ 「お前、自分の仲間を！」

エレキ「仕方ないだろ、D r. ボイズンの命令なんだからな。次は俺が相手になってやる。楽しみにしてろ！」

スツ

リゾット「D r. ボイズン、あいつらの親玉か？」

キャベツ「それにしてもウスターさん達よくここがわかりましたね。」

Tーポーン「コロツケに匂いがしたツペ。」

キュアカスタード「すごい鼻ですな。」

キュアシヨコラ「それで私はTーポーンみたいって言ってたんだ。」

そして

一族A「ありがとう、キャラバンを救ってくれて。ところでそなた達はどうしても砂漠に行くのか。」

いちか「はい！行かなきゃならないんです。」

一族A「そうか、昨日会った棺桶を背負った男といい、度胸あるな。」

コロツケ「棺桶を背負った！ねえ！髪の毛は赤くなかった！帽子を被った！」

一族A「あ、ああ、黒い帽子で赤い髪だったよ。」

リゾット「コロツケ、もしかしたら！」

コロツケ「間違い！フォンドヴォーだよ！」

シエル「フオンドヴォーって人、棺桶を背負ったの？」

ウスター「ああ、あいつのバンクだからな。」

いちか「やっぱり砂漠にそのフオンドヴォーがいるって噂本当だったんだ。」

ひまり「それにしてもあのエレキやD r. ボイズンって何者何でしょ？」

ソール「とにかく砂漠に行こう！」

コロツケ「うん、ウスター、ティーボーン、来てくれる？」

ウスター「おう！任せな！」

ティーボーン「なんだか楽しい旅になりそうだツペ。」

つづく

## 第6話 砂漠の魔獣!

ヌカ砂漠

コロツケ「ここがヌカ砂漠だよ。」

いちか「広い砂漠ね。」

あおい「そうだな、いちか。」

ゆかり「本当にフォンドヴォーやクリスタルミニシャインがあるのかしら。」

リゾット「そうだな。!、誰だ!」

砂の怪物「スナー!」

ウスター「砂の化け物!」

あきら「これが砂漠の魔獣か!」

シエル「どうするの!?!」

Tーボーン「任せるッペ!カルシウムクラッシュユ!」

ザー

ひまり「崩れました。」

砂の怪物「スナ!」



誠司「まだ居るのか！」

ソール「しかもたくさんきた！」

コロツケ「ハンマー伸！」

砂の怪物「スナー！」

いちか「なんだがあっけないような？」

ペコリン「ペコ？」

コロツケ「どうしたペコリン？」

ペコリン「あそこにあるのって！」

キャベツ「なんだか太陽の形をした物があるでっす！」

シエル「もしかしてあれが！」

ソール「うん！クリスタルミニシャインだよ！」

コロツケ「やった！クリスタルミニシャイン見つけたぞ！」

ビリッ

コロツケ「うあ！」

いちか「コロツケ！大丈夫!？」

コロツケ「うん。」

エレキ「残念だな、こいつは俺の物だ。」

ウスター「お前はエレキ！」

エレキ「フツ」

ソール「クリスタルミニシャインを返せ！」

エレキ「それは無理だな。これは俺達のボスが必要としてる物でね。それにお前らを倒せと命令されてるんだよ！食らえ！エレキニードル！」

コロツケ「うあ！」

リゾット「奴もバンカーか！」

エレキ「残念だが俺はバンカーではない。」

いちか「えっ？バンカーじゃなかったの！」

エレキ「そうだが、俺はプリキユアを倒す悪の組織だ！」

コロツケ「ハンバーグー！」

エレキ「遅いぜ！」

スツ

誠司「かわした！」

リゾット「108マシンガン！」

エレキ「おっと、遅いぜ！」

あきら「速い！コロツケとリゾットの攻撃をかわしてる！」

エレキ「エレキニードル！」

リゾット「あつ！」

コロツケ「これくらいでやられるか！」

エレキ「うつとうしいな、さっきの棺桶男のようだな。」

コロツケ「棺桶男！フォンドヴォーか！」

エレキ「そう言ってたな、あいつは俺が始末した。」

コロツケ「なんだと！」

エレキ「俺に逆らうからこうなるんだよ。エレキニードル！」

コロツケ「ハンマー掌！」

ザー

エレキ「なに!？」

シエル「ハンマーで砂の壁を作ったのね！」

コロツケ「テンツドン！」

エレキ「ぐあ！」

スフレ「決まりましたわ！」

あおい「いいぞ！コロツケ！」

ソール「さあ、クリスタルミニシャインを返して！」

エレキ「くそ、お前らに渡すくらいならこうしてやる!」

ザア

スフィンクス「ガオー!」

ひまり「スフィンクスになりました!」

エレキ「どうだ!これがクリスタルミニシャインの力だ!」

ソール「どう言う事!」

エレキ「クリスタルミニシャインは物に取りつくことで化け物が生まれるのさ!」

リゾット「そうか!お前らはその為にサンサンキングダムを襲ったのか!」

プリンプリン「さっきの砂の怪物もそのせいか!」

エレキ「そうだ、さあどうする?プリキュア!」

いちか「いこう!」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇氣を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

エレキ「変身したか、クリスタルミニシャインの力を思いしれ！」

スフィンクス「ガオ！」

ドカッ

キュアホイップ「きゃあ！」

コロツケ「うあ!」

キュアパルフェ「ホイップ!」

リゾット「コロツケ!」

ウスター「やばいぞ、デカイからパワーが半端ねえぞ」

キュアカスタード「任せてください!はあ!」

スフィンクス「ガオ!?!」

キュアジェラート「ナイス!カスタード!おりや!」

ドカン

キャベツ「びよんパンチ!」

スフレ「スパイラル斬!」

エレキ「そんなので止められて攻撃が効くと思ってるのか?」

スフィンクス「ガオー!」

キュアカスタード「きやあ!」

スフレ「ひまり!」

ボカツ

スフレ「きやあ!」

キャベツ「があ!」

コロツケ「スフレ！キャベツ！」

エレキ「どうだ！これでお前らもおしまいだ！とどめをさせ！スフィックス！」

スフィックス「ガオ！」

???「シャドーブレイク！」

グサツ

スフィックス「ガオ!？」

キュアシヨコラ「スフィックスの動きが止まった！」

エレキ「誰だ！」

???「また会ったな、エレキ！」

エレキ「貴様は！」

コロツケ「フォンドヴォー！」

リゾット「無事だったのか！」

キュアホイップ「あなたがフォンドヴォー？」

フォンドヴォー「ああ、お前達が奴が言つてた新しいプリキュアだな。」

ウスター「なんだ？フォンドヴォー、知つてたのか？」

フォンドヴォー「ああ。」

エレキ「何故貴様が生きています！さつき俺のエレキニードルで心臓を刺したはず！」

フォンドヴォー「残念だったな、胸のポケットにしまつてあつた禁貨のお陰で刺されずですんだぜ。」

エレキ「なんだと!」

リゾット「相変わらず運の強い奴だ。」

フォンドヴォー「コロツケ、ここから俺も戦うぜ!」

コロツケ「うん!」

エレキ「ちつ、スフィンクス!何をしてる!早く奴らを倒せ!」

スフィンクス「ガオ!」

エレキ「何やってる!何故動かん!この役立たずが、俺達の計画を知つた貴様を生かしてなるか!」

キユアマカロン「彼らの計画?」

フォンドヴォー「赤き線香!」

エレキ「うあ!この!エレキニードル!」

フォンドヴォー「シャドーブレイク!」

グサツ

エレキ「なんだ!動けん!」

フォンドヴォー「シャドーブレイクは影に刺せば動けなくなるぜ。」



キュアシヨコラ「それでスフィンクスは動けなくなつたのか！」

フオンドヴオー「いくぜ！ハンバーグー！」

エレキ「ぐあー！」

キュアジェラート「フオンドヴオーもコロツケのハンバーグーが使えるのか！」

コロツケ「よい！いくぞ！108ハンバーグー！」

スフィンクス「ガオ！」

キュアパルフェ「ホイップ！今よ！」

キュアホイップ「うん！キャンディロッド！キラキラキラル！ホイップ・デコレー

シヨン！」

スフィンクス「ガオー！」

ポン

ソール「クリスタルミニシャイン！」

パシツ

ザアー

エレキ「くそー！」

フオンドヴオー「まだやるか？」

エレキ「うっ」

??? 「カツコ悪いわね、エレキ。」

エレキ 「ストーム! 何のようだ!」

ストーム 「決まってるでしょ、こうするのよ!」

ビー

エレキ 「ぐあああ!」

カチーン

パリーン

コロツケ 「あいつ! 仲間を!」

ストーム 「ふふ、私は好きでやってるわけではないわ。Dr. ボイズンの命令だから、

役立たずは消すようになってね。次は私が相手になるわよ!」

スツ

ウスター 「なんだったんだ、あいつは。」

ゆかり 「フオンドヴォー、あなたは彼らの計画を知ったみたいだけど? 彼らは何なの

?」

フオンドヴォー 「ああ、奴らは太陽の光を消し暗い世界にする悪の組織。その名も、エ

クリプス!」

コロツケ 「エクリプス?」

ひまり「日食の意味ですね。」

あおい「太陽の国を襲った名前にぴったりだな。」

いちか「フォンドヴォー、他に何か聞かなかったの？」

フォンドヴォー「ああ、エクリプスの狙いはクリスタルシャインだ。」

あきら「サンサンキングダム секрет だったね。」

フォンドヴォー「奴らはクリスタルシャインを手に入れて太陽の輝きを失わせて世界を支配するつもりだ。」

シエル「それでエレキは企みを聞いたフォンドヴォーを始末しようとしたのね。」

スフレ「でもクリスタルシャインはクリスタルミニシャインがないと輝けないのよね？」

ソール「うん。」

フォンドヴォー「恐らくクリスタルミニシャインは俺達の世界のあちこちに散らばっているだろう。それにエクリプスは禁貨も狙ってる。」

プリンプリン「禁貨もかよ！」

ペコリン「ソール、他のクリスタルミニシャインのありかわかるペコ？」

ソール「いや、残りはどこに・・・」

ピー

ソール「えっ?」

いちか「クリスタルミニシャインがあつちに指してる?」

ソール「そういえば聞いたことある、クリスタルミニシャインが離ればなれになったときお互いの位置しめすために光の道しるべをしめすつて。」

シエル「もしかして次のクリスタルミニシャインはあつちの方角にあるつて事!」

ソール「間違いないよ!」

いちか「それなら行こう! 次のクリスタルミニシャインのありかへ!」

その頃サンサンキングダム

D r・ボイズン「エレキは始末したのか?」

ストーム「はい、命令通り実行しました。」

D r・ボイズン「そうか、我がエクリプスに役立たずは要らんからな。」

ストーム「プリキュアに協力するコロツケと言う少年、いかがいたしましたしょう?」

D r・ボイズン「コロツケか、こいつは調べる必要があるそうだな。」

つづく

## 第7話 輝きのバンカー参戦！

草原

いちか「なんだかのどかな所だね。」

ひまり「そうですね、いちかちゃん。」

コロツケ「ところでまだつかないのか？クリスタルミニシャインがある所は？」

ソール「まだ光が出てるからまだ遠いな。」

リゾット「光が出てる？」

ソール「今思い出したんだ、クリスタルミニシャインがかなり近づいてるときは光は消えるって。」

ウスター「すると消えればその近くのどこかにあるって事か。」

プリンプリン「探すのも一苦労だぜ。」

あきら「それよりもエクリップスより先に見つけなきゃならないしね。」

ソール「そうだね、エクリップスより先に見つけないと。」

ぐうぐ

コロツケ「なんだか腹減ってきたな。」

シエル「あっ！」

ボン

キラリン「キラ」

ウスター「えっ！シエル！」

プリンプリン「お前妖精だったのか！」

スフレ「あつ、皆さんははじめてでしたね、シエルは妖精なのよ。」

コロツケ「でも何でキラリンに戻ったんだ？」

いちか「シエルはお腹かすくとキラリンに戻っちゃうんだよ。」

フオンドヴォー「さすがプリキュアの世界の妖精、個性な妖精がいるもんだな。」

ゆかり「キラリンもこのようだし、休みますか。」

メンチ「ブヒ。」

いちか「あっ！キラつとひらめいた！」

コロツケ「どうした？」

キラキラパティスリー

ティーボーン「驚いたツペ、鞆が建物になったツペ。」

ウスター「しかもここカフェになんだな。」

いちか「お待たせしました。」

コロツケ「メンチだ！」

メンチ「ブヒ！」

いちか「メンチのレモンパイだよ。」

スフレ「そっくりですわ！」

リゾット「そういえば、他のスイーツも動物だな。」

パセリ「ぶによん

キャベツ「今度はパセリのスイーツを作って欲しいみたいでつす。」

いちか「いいよ、作ってあげるね。」

キラリン「美味しかったキラ。」

ボン

シエル「戻ったわ。」

長老「いや〜いつの間にか人が増えてるジャバ。」

ウスター「誰だ！」

あきら「このキラパティにいる長老だよ。」

長老「うむ、プリキュアを助けるには心強いジャバ。」

フォンドヴォー「それにしてもいちか達はパティシエを目指してるのか？」

いちか「目指してと言うか、キラキラルを集めてるから。」

プリンプリン「キラキラル?」

スフレ「それって、前話したスイーツに含まれてる素でしたわね。」  
ペコリン「そうペコ。」

Tーボーン「いちか達の世界でこの店のスイーツ、人気だツペか?」

ひまり「もちろんです。」

Tーボーン「それならオラこのリスのプリン食いたいツペ!」

悪兵士A「それじゃあ俺はクリスタルミニシャインをもらうぜ。」

あおい「クリスタルミニシャインねってあんたら!」

コロツケ「エクリプス!」

悪兵士B「ほお、俺達の名前を知ったか。あつ!そこの棺桶男!生きてやがったのか  
!」

フォンドヴォー「まあな。残念だがクリスタルミニシャインは渡さないぜ!」

あきら「いちかちゃん、いこう!」

いちか「はい!」

プリキュアラモード「キュアラモード・デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」



あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士C「クリスタルミニシャインはサンサンキングダム  
の妖精が持つてるみたいだ  
ぜ。」

悪兵士A「ああ。やれ！」

悪兵士「「おお！」」

キュアジェラート「おりやー！」

悪兵士B「うあ！」

フォンドヴォー「赤き線香！」

悪兵士C 「ぐあー!」

キュアパールフェ 「はあ!」

悪兵士B 「ごわ!」

ペコリン 「みんな!がんばるペコ!」

悪兵士A 「バカめ、奴らが戦いに夢中になつてる隙に俺がここにいると知らないで。」

ペコリン 「ペコ!」

ソール 「いつの間に!」

キュアホイップ 「ペコリン!」

悪兵士A 「もらった!」

コロツケ 「ペコリン!ソール!」

??? 「シャイニングボール!」

悪兵士A 「ぐあー!」

キュアアカスタード 「えっ!なんですか!?!」

ウスター 「今のはシャイニングボール!」

リゾット 「まさか!」

??? 「騒がしく来てみれば、やはりお前らだったか。」

コロツケ 「メンマ!久しぶりだね!」

メンマ「ああ、相変わらず元気そうだな、コロツケ。」  
ソール「助かったよ。」

ペコリン「ありがとうペコ。」

キュアホイップ「その人、コロツケの友達？」

コロツケ「うん！仲間のメンマだ。」

メンマ「ところであいつら誰だ？なんだか悪そうな奴らだが。」

フオンドヴォー「当然悪い奴らだ。どうだ？お前も参戦しないか？」

メンマ「任せときな、事情はあとで聞かせ。」

悪兵士A「このやろ！叩き潰せ！」

メンマ「シャイニングパンチ！」

悪兵士A「うあ！」

キュアパルフェ「強いのね！」

メンマ「シャイニングホイップ！」

悪兵士B「ぐあ！」

悪兵士A「ちくしょう！クリスタルミニシャインをよこせ！」

メンマ「クリスタルミニシャイン？」

キュアカスタード「あとで話します！」

キュアホイップ カスタード ジェラート 「キラキラキラル・キラキラル!」  
悪兵士 「ぐあー!」

メンマ 「すごい!これが新しいプリキュアのかか!」

悪兵士B 「おい、どうするんだよ!」

悪兵士A 「仕方ない、引き上げだ!覚えてろ!」

タツ

メンマ 「あいつらは一体何者なんだ?」

あおい 「あいつらはエクリップス、世界を支配する企みをしている奴らだよ。」

キャベツ 「みらいさん達プリキュアを捕らえた奴らでつす!」

メンマ 「やはりその人らプリキュアか。」

コロツケ 「ところでメンマ、アユは一緒にやないのか?」

メンマ 「ああ、これから合流するんだが。この先の町にアユがいて。」

シエル 「アユって誰?」

フォンドヴォー 「メンマの妹だ。」

ウスター 「この先って俺達が向かう方角か!」

メンマ 「それでコロツケ達はどこに行くんだ?」

コロツケ 「クリスタルミニシャインがある方角に行くんだ。」

メンマ「クリスタルミニシヤイン？」

ソール「それがないと僕の国が大変な事になるんだ！」

メンマ「よし！アユも誘ってプリキュアを助ける旅に付き合おう！」

いちか「ありがとう！メンマ！」

メンマ「それでコロツケ、メンチはどうした？」

コロツケ「えっ？メンマ？」

メンチ「ブヒ！」

ウスター「メンチ型のスイーツ食ってる！」

メンチ「ブヒ！」

続く

## 第8話 エクリプスの狙いはコロツケ?

サンサンキングダム

Dr. ボイズン「こいつがコロツケか。」

ストーム「はい、エレキを倒したプリキュアの助っ人と言ったところでしよう。」

悪兵士「しかしこいつを調べて対策はあるのですか?」

Dr. ボイズン「その事なら心配ない、他の科学者共が進めている。時間はかかるが我がエクリプスの為に最強の兵士を育てる必要がある。」

その頃

あおい「今度はこのゴツゴツとした道を通らなきゃならないのか!」

メンマ「ああ、ここを超えるとアユがいる町にたどり着くんだ。」

あきら「メンマ、妹のアユちゃんもバンカーなの?」

メンマ「そうだよ。コロツケと互角に戦った事あるんだ。」

コロツケ「アユ強かったな。」

いちか「へえ、コロツケと互角に。」

シエル「メンマやリゾット達も戦った事あるの?」

リゾット「ああ、俺は1度勝った。」

メンマ「俺は2時間戦ったけど負けた。」

ゆかり「2時間？すごい体力ね。」

ひまり「コロツケくん、お父さんを生き返らせる旅をしてるけどお母さんや兄弟とかいないんですか？」

ウスター「母さんや妹ならいるぜ。コロツケの双子の妹がな。」

いちか「コロツケって双子なんだ！」

リゾット「そういえばメンマ、ナルトはどうした？」

メンマ「ナルトはアユと一緒にいるよ。」

あきら「ナルト？メンマの友達。」

メンマ「俺のバンクだよ。生きてるバンク。」

シエル「メンマのバンクも生きてるんだ！」

メンマ「ところでソールだったな。そのクリスタルミニシャインを集めるのどうなるんだ？」

ソール「僕達の国、サンサンキングダムのお宝、クリスタルシャインの輝きを取り戻す為なんだルイーザ姫はエクリプスにクリスタルシャインを取られない為にクリスタルミニシャインをこの世界に飛ばした。」

メンマ「なるほど。このクリスタルミニシャインは全部で何個あるんだ？」  
ソール「全部で7つ！今1つあるから残り6つ集めなきゃならない。」

メンマ「まだまだ先は長いな。捕らわれたプリキュアはどこに居るのか。」

誠司「海の向こうに居るみたいんだ。」

スフレ「サンサンキングダムはこの世界の海の向こうにあるみたいですよ。」

メンマ「国ごと移住させたのか。」

ドカーン

ティーポーン「なんだツペ！」

ペコリン「行ってみるペコ！」

奥

悪兵士A「おとなしくお前の禁貨を渡せ！」

???「どこの盗賊バンカーだか知らんが貴様らに禁貨は渡さん！」

悪兵士A「それならぶっ潰すまでだ！」

コロツケ「待てー！」

悪兵士B「てめえら！」

???「コロツケじゃねえか！」

コロツケ「ドリアン！」



いちか「えっ？コロツケの知り合い？」

ティーボーン「オラ達の仲間だツペ！」

ドリアン「誰だ？その嬢ちゃん達は？」

コロツケ「見ればわかるよ。」

いちか「いくよ！」

プリキュアアラモード「キュアラモード！デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちご「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとトキメキを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

ドリアン「変身！まさかこいつら！」

コロッケ「うん！プリキュアなんだ！」

キュアホイップ「はあ！」

悪兵士A「うあ！負けるか！今度こそ結果をださなければ、クリスタルミニシャインと禁貨をわたせ！」

ドリアン「クリスタルミニシャイン？」

メンマ「話は後だ！」

ドリアン「わかったぜ。ドリアン連弾！」

悪兵士「うわ！」

キュアジェラート「手がマシンガンに？」

キュアカスタード「あの人口ボットなのでしょいか！」

ドリアン「俺はサイボーグだ！」

キュアパルフェ「おお！サイボーグ！トリビア〜ン！」

キュアシヨコラ「パルフェ！よそ見しないで！」

コロツケ「ハンマー壊！」

悪兵士A「ぐあ！」

悪兵士B「くそ、どうやってこいつを調べるんだ」

リゾット「調べる？コロツケを」

ドリアン「いくぜ！ドリアンミサイル！」

悪兵士C「ぐあ！」

キュアマカロン「今ね、キラキラキラル・キラキラル！」

悪兵士「うわ！」

ドリアン「すげえな、このプリキュア達は。」

悪兵士A「くそ！」

悪兵士B「どうするんだ、あいつわ調べられなかったし、クリスタルミニシャインと

禁貨を奪えなかったし」

悪兵士C 「撤退する?」

ストーム 「帰ってこなくてもいいわ。」

悪兵士 「ストーム様!」

キュアジェラート 「あいつは!」

悪兵士A 「ストーム様、帰ってこなくてもって?」

ストーム 「決まってるでしょ。消えなさい!」

ビー

悪兵士 「ぐあー!」

カチーン

パリーン

キュアホイップ 「あの人!また仲間を!」

ストーム 「あんな役立たずの兵士の1人や2人、いくらでも居るわ。」

コロツケ 「お前!そうやって人を消して楽しいのか!」

ストーム 「我がエクリプスの為よ。犠牲者は必要なのよ。今日はこれで帰るけど次は

あなた達を消すわ!」

スツ

ドリアン 「エクリプス?今のは一体何だったんだ。」

コロツケ「ソールの国を襲ってプリキュアを捕らえた奴らなんだ。」  
ソール「ドリアン、キミも協力してくれないか？」

ドリアン「いいだろう。協力してやる。」

ドリアン「で、お前らは行く宛はあるのか？」

ウスター「あつちの方角なんだ。」

ドリアン「それはちょうどよかった。トラツクトレーラーの仕事も終わったところで  
トラツクを戻しに行くところだったからな。」

あきら「ドリアンさん、トレーラーだったんですか？」

ドリアン「ああ、よかったら乗ってきな。」

コロツケ「うん！」

シエル「それにしてもサイボーグなんてトリビア〜ン！」

ドリアン「そうか。」

誠司「他にもいるぞ。コロツケと互角に戦った強いサイボーグバンカーが。」

シエル「そうなの！見てみたい！」

ゆかり「リゾット、今の兵士の会話で気になるとこあったわね。」

リゾット「えっ、ああ。コロツケを調べるってどこか。」

ゆかり「ええ。」

リゾット「奴ら、コロツケを調べて何する気だ？」

サンサンキングダム

ストーム「こちらがコロツケの戦ってる映像です。」

Dr. ボイズン「よくやった。」

ストーム「しかし考えましたね。奴らが戦ってる隙に映像を撮るって事を。」

Dr. ボイズン「雑魚にはちょうどいい役だからな。」

ストーム「悪兵士達は囷ですか。」

Dr. ボイズン「そうよ。コロツケ、最強の兵士になりそうね。」

つづく

## 第9話 強力！アユとドロップ！

モロコシ町

ドリアン「ついたぜ。」

コロツケ「ついた！」

いちか「ここにメンマの妹さんが居るの？」

メンマ「ああこの町なんだが。」

ナルト「ピーー！」

ペコリン「鳥さんペコ！」

メンマ「ナルト！」

ひまり「その小鳥さんがメンマ君のバンクです？」

メンマ「ああ！ナルト、アユは？」

アユ「あつ！お兄ちゃん！来たんだ。」

メンマ「アユ。待たせたな。」

ゆかり「あの子がメンマの妹さんみたいね。」

アユ「コロツケ達も一緒だったんだ。」

コロツケ「久しぶりだね、アユ。」

ドロップ「そうね。」

ウスター「ドロップじゃねえか！」

あきら「その子もコロツケの仲間？」

コロツケ「うん。」

メンマ「アユ、いつドロップと一緒に？」

アユ「さつきだよ。」

あおい「そのピンクのワニは？」

ドロップ「私のバンク、キャンデイよ。」

キャンデイ「があ。」

ゆかり「あなたのバンクも生きてるのね。」

アユ「ところでその人達は？」

いちか「私、宇佐美いちか。よろしくね、アユちゃん。」

アユ「・・・その人達もしかして、プリキュア？」

あおい「えっ！何でわかったんだ！」

アユ「やつぱりそうだったんだ。最近おかしな騎士みみたいな悪人達が暴れてるって噂があつて。」



ウスター「エクリップスの事だな。」

ひまり「はい！」

スフレ「他に何か噂になつてゐる事ないのですか？」

ドロップ「他に？アユ、どう？」

アユ「そうね・・・そういえば。」

コロツケ「なんだ？」

アユ「その悪人達は太陽の形をした小さな宝石を探してゐるつて。」

ソール「クリスタルミニシャインだ！」

ドロップ「クリスタルミニシャイン？」

シエル「この子の国の宝石なの。エクリップスは世界を支配するために狙つてゐるんだ。」

アユ「じゃあ誠司が居るつて事は他のプリキュアは？」

誠司「プリキュアはサンサンキングダムに捕らわれているんだ。」

メンマ「アユ、また力貸してくれるか？」

アユ「もちろん！お兄ちゃんも行くならどこでもついていくよ！」

ドロップ「私も手伝うわよ。」

いちか「ありがとう！アユちゃん！ドロップ！」

ドロップ「ところであなた達はどこに向かうの？」

コロツケ「ソール。クリスタルミニシャインはどっちに指してるの?」  
ソール「光は西側を指してる!」

アユ「よし、早速行こう!」

悪兵士A「そうはさせるか!」

コロツケ「エクリップス!」

ドロップ「エクリップス?」

アユ「あいつらが!」

悪兵士B「今度こそお前らを倒してやるよ!」

あおい「いちか!」

いちか「うん!」

プリキュアアラモード「キュアラモード!デコレーション!」

いちか「シヨートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

アユ「これが新しいプリキュアなのね！」

悪兵士A「今度こそはクリスタルミニシャインを手に入れないと、かかれ！」

悪兵士達「「おおー！」」

ドロップ「来るわ！」

キュアパルフェ「まかせて!レインボーリボン!」

悪兵士B「うわ!」

アユ「やるね、私もいくよ!オーシャンラブ!」

悪兵士C「ぐわ!」

キュアマカロン「あなたもやるわね。」

ドロップ「いくわよ!レインボーパームギャラクシア!」

悪兵士「ぐあ!」

悪兵士B「この女ども・強すぎるぞ!」

悪兵士A「怯むな!何としてもDr・ボイズンに認めてもらわないと」

アユ「Dr・ボイズン?」

悪兵士A「このやろ!」

アユ「クラーケンのゲンコツ!」

コロッケ「108ハンバーグー!」

悪兵士「ぐあああ!」

キュアジェラート「おりや!」

悪兵士A「この!一斉にかかれ!」

リゾット「させるか!108魂キャノン!」

プリンプリン「恐怖の大王行進！」

悪兵士「ぐわあ！」

キュアカスタード「後はまかせてください！キラキラキラル！カスタード・イリユール  
ジョン！」

悪兵士達「うわあ！」

ドロップ「やったわ！」

悪兵士A「くそ、引け！」

タツ

アユ「行っちゃった。」

ドロップ「対したことなかったわね。」

フオンドヴォー「いや、あいつらはただの兵士だ。奴らよりも上の奴らがいる。」

アユ「そのDr. ボイズンっ人の事ね。」

ドリアン「ああ、そうみたいだな。」

ドロップ「確かそのクリスタルミニシャインはあっちの方に光を指してる方にあるの  
ね。」

ソール「うん。」

アユ「あつ！そういえば！」

ペコリン「どうしたペコ?」

アユ「光を指してるあっちの方角にダイフクーが修行してるって。」

コロツケ「えっ!ダイフクーがいるの!」

シエル「ダイフクー?」

リゾット「俺達の仲間だ。あいつが居てくれたら心強いな。」

アユ「よし!早速張り切って行こう!」

コロツケ「うん!」

いちか「そうと決まれば!ホイップ!ステップ!ジャンプ!  
つづく

## 第10話　ダイフクーを探せ！

サンサンキングダム　檻

みらい「いちかちやん達、今頃どうしてるのかな。」

はるか「コロツケ達がいるからきつと来るよ。」

なぎさ「でも私どうすればいいの。」

ほのか「そうね。いつまでもここにはいられないわ。」

いおな「ええ、ルイーザ姫だけでも逃がさないと。」

あゆみ「でもどうやって」

???「ルイーザ姫、聞こえますか？」

六花「誰！」

みなみ「隣の檻からだわ。」

ルイーザ「その声は・・・チャールズ教授！」

チャールズ教授「私にいい考えがあります。ちよつと単純な事ですが。」

その頃いちか達

コロツケ「本当にこの辺にダイフクーはいるのか？」

アユ「噂で聞いた話だからね。もしかしたら別なところに行っちゃったのかも。」

いちか「ねえ、そのダイフクーってどんな人なの?」

誠司「人って言うか腕が伸びたりする奴だな。」

シエル「腕が伸びる?」

あきら「まあこの世界には私の世界には出来ない事する世界だから腕が伸びてもおかしくないな。」

ソール「光はこの先まっすぐ指してるよ。」

ウスター「やっぱり俺達が行くのはこの先なんだな。」

ドロップ「そこにクリスタルミニシャインがあるのね。」

アユ「ねえ、クリスタルミニシャインってそれ含めて全部で何個あるの?」

ソール「クリスタルミニシャインは虹の色のように全部で7つあるよ。」

コロツケ「確かそれにはすごい力があるんだよな。」

メンマ「すごい力?」

ドリアン「なんだそれは。」

ソール「すごい力つと言ってもこれは下手したら世界を破滅してしまう恐れがある力なんだ。」

ドロップ「世界を破滅してしまう」



アユ「それでそのクリスタルは何のためにあるの？」

ソール「僕の国、サンサンキングダム、クリスタルシャインの輝きを支える為なんだ。そのお陰でサンサンキングダムは明るく平和な国だったんだ。」

メンマ「その破滅する力って一体なんだ？」

あおい「物に取りついて怪物を生み出すんだよ。」

ひまり「はい、この間砂漠でエクリプスの幹部の人が砂漠の砂で怪物を生み出しました。」

アユ「そうだったの。」

悪兵士A「なかなか面白い話だろ？」

コロツケ「エクリプス！」

ウスター「証拠にもなくまたやられに来たな。」

悪兵士B「うるせえ！てめえらをさ始末する為に来たんだよ！」

悪兵士C「このまま大人しく帰れば俺達も危ないからな。」

悪兵士A「今度こそ貴様らの禁貨とクリスタルミニシャインをいただく！そいつを使って世界をメチャクチャにしてやる！」

アユ「世界をメチャクチャする為に使うなんて、何が面白い話よ！」

いちか「あなたに絶対クリスタルミニシャインも禁貨も渡さない！」

プリキュアアラモード「キュアアラモード!デコレーション!」

いちか「シヨートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を!」

ひまり「知性と勇気を!」

あおい「自由と情熱を!」

ゆかり「美しさときめきを!」

あきら「強さと愛を!」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアアカスタード「キュアアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士A「いくぞプリキュア！」

キュアホイップ「負けないもん！」

悪兵士A「おりゃ！」

コロツケ「ハンマー伸！」

悪兵士A「ぐあ！」

アユ「オーシャンラブ！」

悪兵士B「うわ！このやろ！」

キュアジェラート「とりゃ！」

悪兵士A「こいつら、相変わらず往生際の悪い奴らだ！それならこれはどうだ！」

ズバツ

キュアパルフェ「きゃあ！」

キュアホイップ「パルフェ！」

キュアシヨコラ「大丈夫！」

キュアマカロン「まさか剣から空気の衝撃波を出すなんて。」

悪兵士A 「こいつはいけるぜ! かくごしろ!」

??? 「なんだ? バンカーバトルか?」

悪兵士C 「なんだ貴様?」

キュアアカスタード 「エクリプスの仲間じゃないのでしょうか?」

コロツケ 「ダイフクー!」

ダイフクー 「おつ! コロツケ! それにTーボーン達じゃねえか!」

Tーボーン 「久しぶりだッペ!」

キュアホイップ 「この人がダイフクーなの?」

キュアジェラート 「てか人なのか?」

アユ 「やっぱりダイフクーがこの辺にいるって噂本当だったんだ。」

ダイフクー 「なんだ? 俺を探してたのか。ところでそいつらは誰だ? もしかしてプリ

キュアか?」

コロツケ 「うん!」

ダイフクー 「それじゃあいつらは敵だな。」

キュアマカロン 「理解早いわね。あなたもコロツケの仲間なら参戦してくれるんで

しょ?」

ダイフクー 「もちろんだぜ。このダイフクー様が居ればひと安心よ。」

悪兵士A 「チツ、いい気になりやがって！切り倒せ！」

ダイフクー 「伸身弾！」

悪兵士A 「ぐあー！」

キュアカスタード 「腕が伸びました！」

キュアパルフェ 「本当に伸びるんだ！」

悪兵士B 「なんだあいつ！」

ダイフクー 「どんどんいくぜ！ガトリング伸身弾！」

コロツケ 「俺も！108ハンバーガー！」

悪兵士 「ぐあー！」

悪兵士A 「このやろ！」

キュアジェラート 「次は私に任せて！キラキラキラルン！ジェラート・シェイク！」

悪兵士A 「うあー！」

Tーポーン 「オラも決めるツペ！カルシウムハリケーン！」

悪兵士 「ぐあー！」

Tーポーン 「どうだツペ！」

悪兵士A 「覚えてろ！」

ダイフクー 「口ほどにもねえ奴らだ。あいつらはなんだ？」

コロツケ「あいつらはエクリップスって奴らだ。」

いちか「プリキュアを捕まえた悪い人達なの。」

ダイフクー「それじゃプリキュアはエクリップスって奴らに?」

ひまり「はい、妖精の国、サンサンキングダムにいるんです。」

ダイフクー「サンサンキングダム?」

ソール「太陽のように明るい僕の国なんだ。」

ゆかり「でも今はクリスタルミニシャインを集めてるのよね。」

ダイフクー「なんだそのクリスタルミニシャインって?」

あきら「これだよ。」

ダイフクー「ん!それってこの前の」

リゾット「知ってるのか!」

ダイフクー「ああ、この前紫色のそれがあつちに流れ落ちたの見かけたんだ。」

ソール「あつちって!」

あおい「私達が向かってる方角だ!」

メンマ「でかしたぞ!ダイフクー!」

コロツケ「いちか、行こう!ダイフクーも来てくれるよね?」

ダイフクー「もちろんだぜ!」

その頃サンサンキングダム  
檻

悪兵士A 「くそ、プリキュアめ！」

悪兵士B 「しかしこのままじゃ俺達も消される。」

みらい 「ルイーザ姫！うまく逃げてね！」

リコ 「気をつけて！」

悪兵士A 「なに！ルイーザ姫がない！」

ガチャ

悪兵士B 「プリキュア！ルイーザ姫をどうした！」

レジーナ 「今よ！」

ガシッ

悪兵士 「うあー！」

ゆい 「ルイーザ姫！今です！」

ルイーザ 「ええ！」

悪兵士A 「しまった！扉の影に隠れていたのか！ルイーザ姫が逃げたぞ！」

悪兵士C 「なに！待て！」

ルイーザ 「どこに逃げれば・・・あれだわ！えい！」

悪兵士A 「あいつ！俺達が使うワープリングで逃げやがった！」

悪兵士B 「くそ、あの女め！」

ルイーザ 「プリキュアのみんな、必ず助けるわ！」

つづく



## 第11話 サンサンキングダム of 姫、ルイーザ！

サンサンキングダム

ストーム「なんですって！ルイーザ姫が脱獄！」

悪兵士A「はい」

悪兵士B「プリキュアは捕まえて檻に戻しましたが」

ストーム「よりによって姫を逃がすなんてね。どうやら消す必要がありそうね。」

悪兵士A「ひい！」

Dr. ボイズン「そう怒るな、ストームよ。」

ストーム「Dr. ボイズン？消さなくてよろしいのですか？」

Dr. ボイズン「今発明したシステムをやるう。これがお前達のラストチャンスだ。」

この力でプリキュアと味方のバンカーを倒しルイーザ姫を捕らえてこい！」

悪兵士A「はい！」

そしてコロツケ達は

コロツケ「ソール、クリスタルミニシャインのある所まだつかないの？」

ソール「まだ光が強いからね。まだまだ遠いよ。」

ダイフクー「そうだな。かなり遠く飛んでいったからな。」

いちか「そういうえばコロツケ。あなたの仲間はまだいるの?」

コロツケ「うん!プリキュアみたいに多いよ。」

あおい「そんなにいるのか!」

スフレ「ええ、はじめは私のように敵も仲間になった人もいます。」

シエル「やつぱりプリキュアと同じなのね。」

あおい「なあいちか。」

いちか「なに。あおちゃん?」

あおい「私がこの世界に来てどれくらいたつんだろう?」

ひまり「もう1週間はたちますね。」

シエル「私達がコロツケと出会ってもうそんなにあるんね。」

リゾット「ん?コロツケ、あれを。」

コロツケ「えっ?」

いちか「あれはエクリプス!」

あきら「何でこんな所に?」

ひまり「また私を襲いに来たのでしょうか!」

ゆかり「でも何か様子がおかしいわ?」

悪兵士A 「おい、いたか？」

悪兵士B 「ダメだ、まだ見つからん。」

フオンドフォー 「誰かを探してるみたいだな。」

誠司 「でも誰を探してるんだ？」

ペコリン 「いちか達を探してるペコ？」

悪兵士A 「くそ、あの脱走者め！必ず捕まえて痛い思いをさせてやるぜ。」

アユ 「脱獄者？捕まってる誰かがこの辺にいるの？」

メンマ 「らしいな。」

悪兵士C 「おい！ルイーザが見つかったぞ！」

悪兵士A 「よし！捕らえるぞ！」

ソール 「ルイーザ？ルイーザ姫がこの辺に！」

ダイフクー 「ルイーザ姫？」

ドリアン 「サンサンキングダムの姫らしい。」

ソール 「いちか！コロツケ！ルイーザ姫を助けて！」

いちか 「任せて！コロツケ、行こう！」

コロツケ 「よし！」

そしてルイーザ

ルイーザ 「はあ、はあ、どこに逃げればいいの」

悪兵士A 「見つけたぞ! ルイーザ姫!

悪兵士B 「逃がさねえぞ! この脱獄者め。」

ルイーザ 「うっ、もうダメ」

悪兵士C 「さあ檻も戻ってもらうぞ。」

いちか 「待ちなさい!」

悪兵士A 「お前ら!」

ソール 「ルイーザ姫!」

ルイーザ 「ソール、ソールなの!」

コロツケ 「あの人がルイーザ姫か?」

ソール 「うん! 早くルイーザ姫を!」

コロツケ 「わかった! いちか、プリキュアに変身だ!」

いちか 「うん! いこう!」

プリキュアアラモード 「キュアラモード! デコレーション!」

いちか 「シヨートケーキ!」

ひまり 「プリン!」

あおい 「アイス!」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとトキメキを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・ませませ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

ルイーザ「あれがプリキュアアラモード！」

ソール「姫!」

ルイーザ「ソール、無事なのね。」

ソール「はい!プリキュアが奴らを追っ払ってくれます!」

ルイーザ「それからプリキュアと一緒にいる彼らは?」

コロツケ「いくぞ!ハンバーガー!」

悪兵士A「ぐあ!」

ソール「彼らはこの世界の人、バンカー達です。この中心がコロツケです!」

ルイーザ「コロツケ?確かコロツケってプリキュア達が言ってた強い男の子!」

キュアホイップ「誠司君、ルイーザ姫とソールを守って!」

誠司「おう!」

悪兵士A「くそ、相変わらず手強い奴らだ。だが今日はいつもと同じと思うなよ!」

リゾット「なんだと?」

キュアジェラート「どう言う意味だよ!」

悪兵士A「いくぞ、グレートパワー!うおおお!」

コロツケ「兵士達がパワーアップした!」

悪兵士A「こいつが俺達をパワーアップさせるグレートシステムだ!」

キュアホイップ「グレートシステム」

悪兵士B 「さあ今度はこつちからいくぜ。おりや！」

リゾット 「王国セイバー！」

キイン

リゾット 「確かに強くなってるぞ！」

悪兵士C 「てやりや！」

コロツケ 「うあ！」

キュアホイップ 「コロツケ！」

悪兵士A 「こいつはいい！最高の力だ！これで俺達は消されずにすみそうだぜ。」

悪兵士B 「さあ、ルイーザ姫を連れてくとするか。」

キュアパルフェ 「そうはさせないわ！えい！」

悪兵士B 「おっと、おら！」

キュアパルフェ 「きやあ！」

ドロツプ 「シエル！」

アユ 「やばいよ、あいつら今までよりやばいんじゃないかな」

メンマ 「グレートシステム、厄介だ。」

コロツケ 「くそ、例えばお前らが強くなっても俺達は負けないぞ！」

悪兵士A 「強がり言いやがって。おとなしくやられる！」

コロツケ「ハンバーガー!」

悪兵士A「うお!チツ、うつと惜しいガキだ。」

Tーボーン「くつ、ん!」

キュアカスタード「どうしました?Tーボーンさん。」

キュアジェラート「月?」

誠司「しめた!Tーボーンが月を見た!」

キュアホイップ「どういう事?」

Tーボーン「ぐおおおおお!」

ソール「なに!」

キュアシヨコラ「まさかTーボーンは月を見ると狼男に!」

Tーボーン「きやうくん。」

キュアホイップ「へっ?」

キュアパルフェ「狼じゃなくて」

ペコリン「犬!」

キュアマカロン「そのようね。」

ドロップ「相変わらず可愛い!」

アユ「ホント!」



キュアホイップ「確かに可愛い！」

悪兵士A「驚かしやがって。この犬から倒してやる！」

Tーボーン「きやうん！」

悪兵士A「なに!？」

Tーボーン「きやうん！」

悪兵士A「ぐあー！」

キュアパルフェ「強い！」

メンマ「犬になったTーボーンは通常より数10倍強くなるからな。」

キュアジエラート「マジかよ！」

Tーボーン「きやうん！」

悪兵士「ぐあー！」

キュアシヨコラ「強い、グレートシステムを使ってるエクリップスを簡単に！」

コロツケ「プリキュア！止めを！」

キュアパルフェ「わかったわ！行くよ！アン・ドウ・トレビアン！キラクル・レイン

ボーン！」

悪兵士「ぐああー！」

ドサッ

悪兵士A 「くそ！グレートパワーが、覚えてろ！」

コロツケ 「やった！」

Tーボーン 「きやうくん！」

キュアホイップ 「それにしてもTーボーンにこんな力があつたなんて。」

キュアシヨコラ 「やっぱりこの世界の人は色んな人がいるんだね。どうやったら元に戻るの？」

スフレ 「見ててください。お手。」

ボン

ポオン

キュアジェラート 「お手したら犬から戻った！」

Tーボーン 「誰が犬だ！」

キュアカスタード 「覚えていないんですか？」

プリンプリン 「あいつ、犬になるの知らないんだ。」

キュアマカロン 「やっぱりこの世界の人は色んな人がいるのね。」

ソール 「ルイーザ姫！大丈夫ですか！」

ルイーザ 「ええ、ありがとう」

カクン

ソール「姫！」

リゾット「気を失ってるだけだ。」

ソール「よかった。」

コロツケ「でもサンサンキングダムの姫が何でここに？」

キュアホイップ「とりあえずキラパティで休ませよう。」

つづく

## 第12話 ルイーザの悲しみ、クリスタルの手がかかり

サンサンキングダム

D r. ボイズン 「まさかグレートシステムを使っても敗北したたわな。」

悪兵士 A 「申し訳ありません！」

D r. ボイズン 「まあいい、あのグレートシステムはまだ実験段階の未完成品だからな。」

悪兵士 A 「それじゃ今回は許すって形で」

D r. ボイズン 「それとこれとは話は別だ！」

ビー

悪兵士 「「ぎゃあああ！」」

カチーン

パリーン

D r. ボイズン 「ラストチャンスと言ったはずだ。さて、より完璧グレートシステムを完成させコロツケのデータを調べるか。フツ」

キラパティ

ルイーザ「・・・うん、ここは？」

スフレ「あら！気がつきましたの！」

ルイーザ「あなたはさっきの。」

スフレ「さあ、こちらへ。」

ルイーザ「ええ」

スフレ「ソール、ルイーザ姫が目を覚ましましたわ！」

ソール「ルイーザ姫！お目覚めになりましたのですね！」

ルイーザ「ソール、心配かけたわね。それからあなた達が新しいプリキュアね。」

いちか「はい！私、宇佐美いちかです。」

ルイーザ「別に敬語じゃなくてもいいわ。歳はあなたと同じだから。それにルイーザっ

て呼んでもいいわよ。」

いちか「それじゃルイーザ。」

コロツケ「ソールもよかったな。」

ソール「あつ！姫、こちらはプリキュアの味方をしてくれるコロツケです。」

ルイーザ「コロツケ？それじゃああなたがプリキュア達が言ってた！」

ひまり「えっ他のプリキュアに会ったんですか？」

ルイーザ「ええ、同じ檻に入れられたから。あなたの事は聞いているわ。強くて優し

くて友達思いつて。」

コロツケ「照れるな。」

ルイーザ「それからあなた達にはとんだ迷惑かけたわね。私がクリスタルミニシャインをこの世界に飛ばしたお陰であなた達まで巻き込んで・・・本当にごめんなさい！」

コロツケ「ルイーザ」

いちか「これ食べて元氣出して。」

キャベツ「あつ！このスイーツパセリでつす！」

パセリ「ぷによーん！」

いちか「パセリのチョコムースだよ。」

コロツケ「パセリにそっくり！」

アユ「そういうえばこの店のスイーツのデコレーション、みんな動物を表してるね。」

ドロップ「いちか達が作ってるの？」

ひまり「動物のデコレーションはいちかちゃんややってるんです。」

ダイフク「ほお、見事なもんだな。」

長老「そのムースもキラキラルが溢れてるジャバ！」

リゾット「キラキラル？」

スフレ「スイーツの素みたいですよ。」

キャンディ「ガア！」

ナルト「ピーー！」

あおい「おつ？キャンディもナルトもいちかに自分に似たスイーツ作ってほしいのか？」

いちか「うん、作ってあげるね。」

あきら「さあルイーザさん。食べてみて。元気がでるよ。」

ルイーザ「うん・・・」

パクッ

ルイーザ「美味しい」

いちか「でしょ！」

その頃外

??? A 「あれ？昨日こんな建物あったけか？」

??? B 「いや、でもこの建物カフェのようだな。」

??? C 「でもここに建物立てちゃ誰も来ないんじゃない？」

??? A 「とりあえず中の人と話しておこう。」

ガチャ

??? A 「すみません！」

いちか「はい？」

コロツケ「あつ！ヤキトリ！」

ヤキトリ「えっ！コロツケ！」

リゾット「チヨコパイにウイスキーもか。」

チヨコパイ「お前ら、久しぶりだな。」

ウイスキー「この建物、お前らのか？」

いちか「うん！」

シエル「誰？コロツケの仲間。」

誠司「ああ。」

スフレ「でもどうして皆さんが？」

チヨコパイ「どうしてって？ここはもくずの森だぞ。」

コロツケ「えっ！そうなの！」

キャベツ「もくずの森ってこんなに広がったんですね。」

メンマ「もくずの森って？」

ウスター「あいつらの故郷だ。」

ウイスキー「近くによったからちよつと里帰りしてたんだ。」

ゆかり「ところであなた達は何か用かしら？」



ヤキトリ「ああ、この森に建物立てちや困るから話に来たんだ。」

いちか「あつ！ごめんなさい！すぐに移動しますから！」

チヨコパイ「えっ？」

ウイスキー「で、なんでコロツケ達がここに？それにその人達は？」

コロツケ「ああ、こつちはいちか達だよ。みらい達と同じプリキュアなんだ！」

ヤキトリ「プリキュア！」

ウイスキー「もしかして、新しいプリキュアか？」

ドロツプ「そうみたいなの。」

コロツケ「お前達がいたなら丁度良かった。話聞いてくれ・・・」

ヤキトリ「サンサンキングダム？」

ルイーザ「ええ、私達の故郷はエクリプスに支配されていてプリキュア達もそこに捕

らわれているの。」

ウイスキー「そのエクリプスの狙いはクリスタルシャインが狙いつて事ね。」

ソール「うん、クリスタルシャインを輝かせる為にはクリスタルミニシャインを集め

ないと！」

チヨコパイ「それでコロツケ達はサンサンキングダムを目指しているんだな。」

コロツケ「そうなんだ。もう一度力貸してくれないか？」

ヤキトリ「任せろ！エクリプスだろうがなんだろうが戦ってやるよ！」

ルイーザ「ありがとう！まずクリスタルミニシャインを集めないと」

ウイスキー「そのクリスタルミニシャインは全部で何個あるんだ？」

フオンドヴォー「7つだ。」

ソール「だけど1つあるから後6つだよ！」

ルイーザ「本当！1つ手に入れたの！よかった。」

チヨコパイ「それで残りの手がかかりはあるのか？」

ドリアン「ああ、クリスタルミニシャインは不思議な力があつてな。ある場所を示す

みたいなんだ。」

誠司「光はあつちを指していた。」

ウイスキー「あつちって、ビーフシテイの方だな。」

ルイーザ「ビーフシテイ？」

チヨコパイ「あの先にビーフって街があるんだ。そこでは美術館が有名だね。」

ウイスキー「そういえば最近美術館に怪物が現れたって聞いたな。」

いちか「怪物！」

シエル「いちか！もしかして！」

いちか「うん！クリスタルミニシャインの力かも！」

誠司「よし！善は急げだ！早くビーフシテイに行こう！」

コロツケ「うん！」

いちか「ペコリン、お店を！」

ペコリン「ペコ！」

ポオン

チヨコパイ「あの店がカバンになった！」

ウイスキー「さすがプリキュアの妖精、何でもありだな。」

ヤキトリ「さっきの髭をはやした妖精は？」

長老「ワシはこの中ジャバ！」

ヤキトリ「出られないのか。」

あおい「出ることが出来ないん、実体がないから。」

ヤキトリ「はっ？」

ルイーザ「皆さん」

いちか「なに？」

ルイーザ「改めて、サンサンキングダムを救うために力を貸してください！」

コロツケ「うん！サンサンキングダムにいるみらい達を助けるために頑張るよ！」

いちか「私達に任せて！」

ルイーザ「ありがとう！」

いちか「ビーフシテイだっけ？行く所。」

ウイスキー「ああ。」

コロツケ「よし行こう！ビーフシテイへ！」

つづく

## 第13話 完成の秘密兵器、Gシステム！

サンサンキングダム

D r. ポイズン 「お前達、揃っているか？」

悪兵士達 「はいー！」

D r. ポイズン 「G パワーシステムがようやく完成した。これでプリキュアとコロツケを倒しにルイーザ姫を捕まえてこい。」

悪兵士 A 「了解しました！」

タツ

ストーム 「まだ彼らを宛にするのですか？」

D r. ポイズン 「奴らは実験台に過ぎん。ストーム、もう1つのクリスタルミニシャインのありかがわかったそこい行け！」

ストーム 「わかりました。」

タツ

??? 「フツ、ここまでだな。ストームが生きるのは。」

D r. ポイズン 「ストームが負けるとしても？」

その頃

ルイーザ「この先にビーフシティがあるのね。」

いちか「ルイーザ、かなり歩いたけど大丈夫?」

ルイーザ「ええ、サンサンキングダムの姫として国を守る責任があるわ、それに私のせいでこの世界にも迷惑かけたからその責任をとるためにクリスタルミニシャインを集めない?」

ウイスキー「なあ、そのクリスタルミニシャインっていうクリスタルなんだ?」

ひまり「サンサンキングダムの秘宝、クリスタルシャインを支えるクリスタルだそうです。」

あきら「だけどその宝石は諸刃の剣、下手したら世界を滅ぼす力があるんだ。」

ヤキトリ「なるほど、そのエクリプスはその為にはサンサンキングダムを襲ったんだな。」

コロッケ「うん!そしてみらい達プリキュアがサンサンキングダムに!」

ゆかり「それにしても美術館に現れた怪物ってどんなのかしら?」

ウスター「さあ、なるべくしたいしたことない奴ならいいけどな。」

悪兵士A「それはどうかな。」

コロッケ「エクリプス!」

ウイスキー「奴らがエクリプスカ。」

悪兵士B「今度こそ貴様らを倒してやる！こいつを使ってな！」

フォンドヴォー「あれはGシステムか！」

プリンプリン「そんなもの使ったって俺様達に勝てると思っっているのか！」

メンマ「お前がいばるな！」

悪兵士A「この前と同じと思うなよ。この前のGシステムは未完成、今回は完成したGシステムを用意した！いくぜ！うおおお！」

リゾット「この前より強い力を感じるぞ！」

コロツケ「いちか！」

いちか「うん、みんな、いこう！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか 「元気と笑顔を！」

ひまり 「知性と勇気を！」

あおい 「自由と情熱を！」

ゆかり 「美しさとときめきを！」

あきら 「強さと愛を！」

シエル 「夢と希望を！」

プリキュアアラモード 「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ 「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード 「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート 「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン 「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ 「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ 「キュアパルフェ！できあがり！」

ヤキトリ 「あれがいちか達が変身した姿！」

悪兵士A 「今日こそルイーザを捕まえてそのクリスタルミニシャインをいただくぞ

！」

コロツケ 「お前らに全て渡さないぞ！」



ダイフクー「誠司！ルイーザを！」

誠司「任せろ！」

キュアジェラート「完成でも未完成でもすぐに倒してやる！たあ！」

悪兵士B「いい気になるな！おりゃ！」

キュアジェラート「うあ！」

キュアホイップ「ジェラート！」

リゾット「魂キヤノン！」

悪兵士C「通じるか！」

ウイスキー「何したか知らんが強くなったのは確かだな。」

チョコパイ「ああ。」

コロツケ「ハンバーグー！」

ガン

悪兵士A「へっ！」

ヤキトリ「インパクトクラッシュ！」

チョコパイ「ハジケボール！」

ウイスキー「デイメンシヨントルネード！」

悪兵士A「ふん、すげえぞ！完成したGシステムは無敵だぜ！」

ペコリン「みんな!頑張るペコ!」

誠司「くそ、どうすればいいんだ!」

悪兵士A「さあ、たっぷり痛めつけてやろうか!おりや!」

???「プラネットサンダー!」

バチッ

悪兵士A「うわ!」

悪兵士B「誰だ!」

ウスター「プラネットサンダーだと!」

???「危なかったわね、コロツケ。」

コロツケ「ストロベリー!」

キュアホイップ「えっ?コロツケ、この人も仲間なの?」

スフレ「ストロベリーはコロツケの双子の妹ですわ。」

キュアカスタード「妹さん!」

キュアパルフェ「この人がコロツケの双子の妹さんなんだ!」

ストロベリー「あつ、あんた達はこの間の!」

ドリアン「ストロベリー、奴らを知ってるのか?」

ストロベリー「ええ、突然禁貨よこせって襲ってきたよ。何なの?」

コロツケ「話は後だ！今はあいつらを！」

悪兵士A「Gシステムを使ってる俺達を倒せるか！」

コロツケ「お前達が強くなるなら俺達も強くなるぞ！」

悪兵士B「ただの強がりか！」

コロツケ「ハンバーガー！」

悪兵士B「うあ！なに！」

キュアホイップ「さっきより強くなった？」

悪兵士C「このガキ！」

ストロベリー「私もいくわよ！ギャラクシーサンダー！」

悪兵士「ぐあー！」

リゾット「ストロベリーの新技か！」

悪兵士A「バカな！完成したGシステムを使ってる俺達が押されてると！」

コロツケ「ハンバーガー！」

悪兵士A「ぐあー！」

キュアシヨコラ「よし、いくよ！マカロン！」

キュアマカロン「ええ！キラキラキラルン！マカロン・ジュリエヌ！」

キュアシヨコラ「キラキラキラルン！シヨコラ・アロマーゼ！」

悪兵士 「ぐああー!」

ドサツ

誠司 「よっしや!」

悪兵士A 「ちくしょ、覚えてろ!」

ストロベリー 「ふう、コロツケ、あいつらは何なの?それにその人達は?」

コロツケ 「いちか達はプリキュアなんだ。」

ストロベリー 「プリキュア!」

ヤキトリ 「そしてあいつらはエクリプスと言う悪の組織だ。」

チヨコパイ 「奴らはバンカーではなく妖精の国を襲う奴らしい。」

ストロベリー 「妖精の国?もうちよつと詳しく聞かせて。」

ルイーザ 「私が話すわ。」

ストロベリー 「あなたは?」

ルイーザ 「エクリプスに乗っ取られたサンサンキングダム女王、ルイーザよ。」

ストロベリー 「女王様なんだ。私、ストロベリー。そしてこっちが私のバンク、クレープ。」

クレープ 「メエー。」

あおい 「あんたのバンクも生きてるんだ!」

ひまり「しかも羊がた。」

ストロベリー「でも何でプリキュアがコロツケ達と一緒にいるの？」

リゾット「それはエクリプスに捕まってるプリキュアを助ける為だ。」

ストロベリー「えっ？プリキュアがエクリプスに！」

シエル「そうなの、ストロベリー、あなたも仲間なら・いや、コロツケの妹なら手伝ってくれる？」

ストロベリー「もちろんよ。それでそのサンサンキングダムに行く手掛かりはあるの？」

ソール「サンサンキングダムに行く前にクリスタルミニシャインを集めないと。」

ストロベリー「クリスタルミニシャイン？」

ルイーザ「サンサンキングダムの秘宝クリスタルシャインを支える宝石よ。」

フォンドヴォー「その宝石は全部で7つでこの世界に散らばってるんだ。」

ペコリン「今一つ持ってるけど2つ目はビーフシテイにあるみたいペコ。」

ストロベリー「ビーフシテイ？確か怪物が現れたって、そういえば。」

いちか「どうしたの？」

ストロベリー「ビーフシテイの美術館に太陽のようなガラスの塊が入ってから怪物が現れたって聞いたわ。」

あおい「何だって！いちか！それって！」

いちか「うん！クリスタルミニシャインだよ！」

あきら「やっぱり怪物の正体はクリスタルミニシャインの力で生まれた者だったんだ。」

コロツケ「よし、これでクリスタルミニシャインのありがわかった。エクリップスより先に手に入れないと！」

ルイーザ「コロツケ、プリキュアのみんなが言ってた通りの子なのね。」

いちか「えっ？」

ルイーザ「強くて優しい。捕らわれてるプリキュアが言った通り強いって。」

いちか「確かにそうだね。でもコロツケが強くなる理由は何だろう？」  
つづく

## 第14話 美術館の怪物！

サンサンキングダム

D r. ボイズン「まさか完成したGシステムを使ったお前でも倒せなかったとでま言うのか！」

悪兵士A「すみません！コロツケってガキ強くなって！」

D r. ボイズン「なに？強くなって？」

悪兵士B「はい、戦ってくうちに強くなって」

D r. ボイズン「なるほど。いいだろ。本来なら消すが今回は大目に見てやる。」

悪兵士C「はい！」

???「いいんですか？あの役立たずを消さなくて。」

D r. ボイズン「コロツケのデータが聞けたからな。それにストームが今頃クリスタルミニシャインで暴れまわっている頃だろう。」

その頃

コロツケ「見えた！」

いちか「あそこがビーフステイだね。」

ストロベリー「ええ。」

あおい「デカイタワーだなあ！」

ヤキトリ「あれが美術館だ。」

ひまり「あのタワーが？」

ルイーザ「それじゃあそこにクリスタルミニシャインが。」

コロツケ「早くクリスタルミニシャインを手に入れないと！」

リゾット「そうだな。エクリプスの奴らが居るかも知れないしな。」

ビーフシテイ

ゆかり「なんか静かね？」

あきら「それにしてもやけに絵が落ちてるけど。」

ウスター「おい、美術館に人が集まってるぞ。」

いちか「あの、どうかしたんですか？」

美術館の館長「いや、美術館を封鎖してしまして。」

シエル「どうして封鎖してるの？それであなたは？」

イナリ「私はイナリ、この美術館の館長だ。実は突然美術館に怪物が現れてな、怪物の攻撃で街の人達はあのように絵にされてしまったんだ。」

あおい「絵に！」



メンマ「それじゃあちこち落ちてる絵は！」

アユ「街の人達なの！」

あきら「もしかして、あの、その絵に太陽のような宝石が取り込まれませんでした？」  
イナリ「太陽の？ 面白いえば紫色の太陽の形をした物が一番貴重な絵に取り込まれ

て」

ソール「それだ！」

ルイーザ「やつぱりクリスタルミニシャインはここに！」

コロツケ「それなら行こう！」

イナリ「待って！ なんだか知らないけど。危険だから。」

コロツケ「大丈夫だ！ 俺達はその怪物を倒さないとならないんだ！」

イナリ「倒さないとって・・・」

スフレ「大丈夫です！ コロツケならこの問題解決してくれます！」

イナリ「コロツケ？ コロツケってバーグの息子！」

いちか「バーグ？」

ダイフク「コロツケの親父の名前だ。伝説のバンカーって言われているんだぜ。」

シエル「伝説！ トレビアーン！」

キャベツ「ちなみにフォンドヴォーさんはバーグさんの一番弟子なんです。」

あきら「フオンドヴォーはコロツケのお父さんの一番弟子なんだ。」

イナリ「バーグの息子と一番弟子がいるなら解決してくれるかも! ついてきてください。案内します。」

いちか「私達も行きます!」

???「ん、あれは」

美術館

あおい「静かだな。」

リゾット「ああ。よく見るとあちこち絵が落ちてる。」

誠司「この警備員達かもしれない。」

いちか「イナリさん、その一番貴重な絵はどこですか?」

イナリ「このタワー美術館の最上階にあるよ。あのエレベーターでいける。これに乗って。」

最上階

イナリ「ここが最上階だよ。」

ゆかり「ここはかなり静かね。」

あきら「ゆかり、油断しないほうがいいよ。エキリプスの連中がどこにいるのか。」

イナリ「この絵ですが。」

いちか「大きな絵ですね。」

コロツケ「この絵に太陽の寶石が入ったの？」

イナリ「まあ目撃者の話では。」

ひまり「目撃者？」

イナリ「はい、女性の話では」

ストーム「私の事かしら？」

イナリ「あの人からです。」

ルイーザ「あなたはストーム！」

イナリ「えっ？知り合い？」

ストーム「ふふ、アート、始末しなさい！」

アート「ぬううう！」

ストロベリー「これが怪物の正体！」

アート「ばあ！」

イナリ「うああ！」

バチャ

カタン

いちか「イナリさん！」

アユ「街の人もこうやって絵にされていたのね!」

ストーム「さあ、今度はあなた達を倒して禁貨とクリスタルミニシャインをいただくわよ!」

いちか「絶対渡さない!いくよ!」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を!」

ひまり「知性と勇気を!」

あおい「自由と情熱を!」

ゆかり「美しさときめきを!」

あきら「強さと愛を!」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアラモード「レッツ・ラ・ませませー!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり!」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ!できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり!」

ストーム「さあ、アート! 奴らを倒すのよ!」

アート「ぬううう!」

キュアシヨコラ「くるよ!」

リゾット「ああ!」

ストーム「ふふ、ストームアロー!」

リゾット「うあ!」

コロツケ「リゾット!」

ストーム「敵はアートだけじゃないわよ!」

隅っこ

??? 「ほお、ストームの奴やってるじゃないか。あいつがコロツケか」

アート「ぼあ!」

キュアジェラート「おっと!くそ、どうすればいいんだよ!」

ストーム「どうにもならないよ!ストームアロー!」

キュアカスタード「きやあ!」

キュアホイップ「カスタード!」

ストーム「アート!プリキュアを叩き潰しなさい!」

アート「ぬおおお!」

???「はあ!」

グサツ

アート「ぐおおお!」

ストーム「なに!」

キュアパルフェ「槍?」

フオンドヴォー「あの槍は!」

???「間に合ったな。」

コロツケ「バジル!」

キュアシヨコラ「えっ?知ってる人?」

コロツケ「うん!仲間なんだ。」

キュアマカロン「でもどうしてここに？」

バジル「コロツケ達がこのタワーに入るの見てな。」

ストロベリー「つけてきたんだ。」

バジル「どうやらまた大変な事になってるみたいだな。」

ストーム「おのれ！よくも邪魔してくれたわね！」

バジル「ああ邪魔したぜ。どうやら貴様らが噂になってる奴らのようだな！」

ドリアン「噂だと？」

ストーム「くっ、アート！今度こそ叩き潰せ！」

バジル「俺を倒せるも思うな！飛竜竜巻！」

アート「ぬううう！」

ストーム「くそ、ストームアロー！」

スフレ「させません！竜巻切り！」

ストーム「なに！」

スフレ「スパイラル斬！」

ストーム「うあ！」

コロツケ「ハンバーガー！」

アート「ぬう！」

コロツケ「今だ!」

キユアカスタード「私に任せてください!キラキラル・カスタードイリユージュョン!」  
アート「ぬううう!」

トン

キラーン

ソール「クリスタルミニシャイン!」

ガシツ

ソール「やった!」

ストーム「そんな」

???「無様だな。ストーム。」

ストーム「リーフ!」

リーフ「ご苦労だったなストーム、永遠に休んでろ。」

ビー

ストーム「うああ!」

カチーン

パリーン

リーフ「負けた雑魚にようはない。」



コロツケ「お前もエクリプスの仲間か！」

リーフ「ああ、拙者はエクリプスのリーフ。貴様がコロツケか？」

コロツケ「そうだ！」

キュアホイップ「あなたも仲間を消すなんて！」

リーフ「フツ、役立たずを消して何が悪い？今日のところはクリスタルミニシャインはくれてやる。だが次は拙者が貴様らを倒す！」

すうく

ウスター「消えた！」

イナリ「うくん」

キュアシヨコラ「イナリさん！」

イナリ「あれ？怪物は？」

アユ「もとの絵に戻ったよ。」

イナリ「本当！よかった！」

そして

ゆかり「絵にされていた人達ももどに戻ったみたいね。」

いちか「よかった。」

ひまり「あのバジルさん、噂って言ってましたがどんな噂何ですか？」

バジル「ああ、最近海の向こうに国が現れバンカーではない奴らがバンカーを襲ってる噂を聞いてな。」

あおい「サンサンキングダムだな！」

バジル「そのバンカーではない奴らってのがエクリプスか。」

コロツケ「うん、サンサンキングダムにみらいとプリキュアが居てエクリプスに捕まってるんだ。バジル、力を貸してくれないか？」

バジル「ああ、もちろんだ。」

いちか「よろしくね。バジル！」

ペコリン「クリスタルミニシャインもこれで2つペコ！」

ストロベリー「後5つだけどこにもあるの？」

ビー

ヤキトリ「えっ？クリスタルミニシャインが光でした？」

ウイスキー「光があつちに指してる？」

ルイーザ「クリスタルミニシャインは離ればなれになるとお互いのありかをしめしてくれるの。」

チョコパイ「そんな力があるのか。」

メンマ「ありかをしめしたり、怪物を生み出したり、すごい力があるんだな。」

アユ「それで次のミニシャインをあっちにあるんだね。」

バジル「それなら行くとするか。」

いちか「うん！行こう！次のクリスタルミニシャインの場所へ！」  
つづく

## 第15話 戦う貯金箱!

サンサンキングダム

D r・ボイズン「まさかエレキに続いてストームもやられるとわな。」

リーフ「あんな奴らよりはじめから拙者が行けばよかったですよ。」

D r・ボイズン「ほおく言うじやない。」

リーフ「さて、奴らを監視いたします。」

その頃

あおい「それじゃバジルは一度死んだ人だったって事か?」

バジル「ああ。」

いちか「それではじめはコロツケ達とは敵同士だったのね。」

コロツケ「うん!」

リゾット「あの時は俺も驚いた、コロツケがバジルと共に戦う決意をしたからな。」

ルイーザ「そうだったんだ。」

バジル「なあソール、次のクリスタルミニシャインは本当にこの方向でいいのか?」

ソール「間違いないよ、光が向こうを指してる。3つ目のクリスタルはあっちにある

！  
」

ルイーザ「早く集めてサンサンキングダムに戻らないと。」

シエル「捕まってるプリキュアを助けないとね。」

メンマ「あとは他の仲間も集めなければな。」

あきら「えっ？ 仲間はまだいるの。」

フォンドヴォー「ああ、結構いるぜ。」

ひまり「そうなんですか！」

ゆかり「例えばどんな人かしら？」

アユ「例えば？ そうだね。チョコパイの子分。」

いちか「子分？」

ヤキトリ「他に考古学者とか剣士とかだな。」

ゆかり「ふふ、個性的ね。」

コロツケ「あと貯金箱！」

メンマ「メンチの事か？」

コロツケ「違うよ、貯金箱ってのはな」

リゾット「！、隠れてる奴！ 出てこい！」

悪兵士A「気づいていたか。」

ルイーザ 「エクリプス！」

悪兵士B 「貴様らストーム様まで倒したようだな、おかげでストーム様まで消された！おかげでサンサンキングダムを支配したエクリプスの野望が丸潰れだ！」

ウスター 「そんなのいい気味だぜ！」

悪兵士A 「今度こそGパワーで貴様らを倒してやる！うおおお！」

あきら 「いちかちゃん！」

いちか 「はい！いくよ！」

プリキュアアラモード 「キュアラモード・デコレーション！」

いちか 「ショートケーキ！」

ひまり 「プリン！」

あおい 「アイス！」

ゆかり 「マカロン！」

あきら 「チョコレート！」

シエル 「パフェ！」

いちか 「元気と笑顔を！」

ひまり 「知性と勇気を！」

あおい 「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士A「いくぞ貴様ら！」

リーフ「ふっ、コロツケとやらの力を見せてもらうか。」

コロツケ「ハンバーグー！」

悪兵士A「ぐあ！」

キュアホイップ「やあ！」

悪兵士B「うわ！」

ルイーザ「みんな！頑張っ！」

悪兵士C「食らえ！」

誠司「18マシンガン！」

悪兵士C「ぐわ！」

誠司「姫を守るのはプリキュアとバンカーだけじゃないぜ！」

コロツケ「誠司！ルイーザを頼むぞ！」

誠司「おう！」

ダイフク「オラオラ！どんどんいくぜ！伸身弾！」

ドリアン「ドリアン連弾！」

キュアジェラート「おりゃ！」

悪兵士「うわー！」

プリンプリン「へっ！たいしたことねえぜ！」

ウスター「これ以上痛い思いたくなくなければとつととうせな。」

悪兵士A「バカめ！油断したな！」

キュアホイップ「えっ？」

悪兵士B「もらった！」

フォンドヴォー「隠れていたのか！」

ルイーザ「あっ！」



??? 「シャイニングサンダー！」

悪兵士B 「うわ！」

ソール 「えっ？助かった。」

悪兵士C 「誰だ！」

??? 「とんだ騒ぎだな、コロツケ。」

コロツケ 「マスタード！」

キュアホイップ 「マスタード？」

キュアカスタード 「その人も仲間ですか？」

マスタード 「ああ。」

悪兵士A 「貴様！よくもやりやがったな！貴様から始末してやる！」

マスタード 「やってみろ！デリート・サンクチュアリ！」

悪兵士 「うわ！」

キュアジェラート 「すげえ！」

悪兵士A 「このやろ！」

ルイーザ 「あっ！」

グサッ

マスタード 「う」

キュアホイップ「マスタード!」

ヤキトリ「てや!」

悪兵士A「うわ!」

キュアホイップ「決めるよ!キラキラキラル!ホイップ・デコレーション!」

悪兵士「うわああ!」

マスタード「やるな。」

悪兵士A「くそ、覚えてろ!」

タツ

チヨコパイ「大丈夫か、マスタード。」

あおい「腕に剣が刺さって!」

ウイスキー「見事にヒビがはいってるよ・・・ヒビ」

コロツケ「うん。マスタードは貯金箱なんだ。」

ひまり「貯金箱!本当なんですか!」

マスタード「ああ、本当だ。」

アユ「それじゃさっき言った仲間の貯金箱って」

シエル「この人の事!」

コロツケ「うん。」

あきら「そうだったんだ。」

ゆかり「あなたたって貯金箱でバンカーなのね。」

マスタード「ああ、夢の為に戦ってる。」

いちか「夢？禁貨を集めて何を叶えるの？」

マスタード「俺の願いは人間になる事だ！」

バジル「人間になる！」

マスタード「ところで今の奴らはなんだ？ただ事ではないようだが。」

ドロップ「あいつらはエクリップス、バンカーではなく別の次元から来た悪い奴らよ！」

マスタード「エクリップス？別の次元から来た？」

いちか「うん。私達もこの世界ではなく別の次元から来たの。」

コロツケ「エクリップスはいちか達の友達を拐って俺達と一緒に旅をしてるんだ。」

マスタード「なるほどな。」

コロツケ「よかつたらマスタード、お前も来てくれないか？」

マスタード「・・・いいだろう。俺も力になってやろう。」

いちか「ありがとう！」

マスタード「しかしコロツケも相変わらず友達思いだな。」

バジル「ああ、その心があいつを強くするんだ。」

あきら「えっ? コロツケって友達を思う気持ちで強くなるの?」

リゾット「ああ。」

あおい「そうだったんだ。」

ひまり「コロツケ君の強さの秘密がわかりましたね、いちかちゃん。」

いちか「うゝん、それだけなのかな?」

ルイーザ「えっ?」

いちか「コロツケの強さってそれだけじゃないような気がする。」

リーフ「強さは友達を思う気持ちか、くだらん。しかし奴らにまた仲間が増えたのは厄介だな。兵士共がダメならこつちにも考えがある。この世界の者はこの世界の者に倒してもらおうとするか。」

つづく

## 第16話 大激戦！カラスミ軍団！

サンサンキングダム

Dr. ポイズン「またやられたと言うのか！」

悪兵士A「申し訳ございません！」

リーフ「無理だったのですよ。こいつらに頼むのが。」

Dr. ポイズン「リーフ、ずいぶんと余裕に言ってるな。奴らを倒せる対策はあるのか！」

リーフ「それなら心配ございません。手は打ってあります、奴らの世界の人間は奴らの世界の人間に倒してもらいます。」

その頃コロツケ達は

マスタード「なるほどな、そのサンサンキングダムを救うためにクリスタルミニシャインを集めてるんだな。」

いちか「そうなの。サンサンキングダムに私達の友達が捕らわれているの。」

あおい「今頃みんなどうしてるんだろうな。」

マスタード「それでコロツケ達はプリキユアを助ける為に旅してるんだな。それにし

ても驚きだな。」

コロツケ「何が？」

マスタード「コロツケに恋人ができた事だ。」

スフレ「ふふ」

マスタード「それでクリスタルミニシャインはこの先なのか？」

ソール「うん、この先まつすぐだよ。」

あきら「エクリップスが来ているかもしれない。」

リゾット「そうだな。もしくは怪物がうまれてるかもしれないな。」

フォンドヴォー「ああ、急ごうぜ。」

???「急ぐ必要はないな。」

コロツケ「カラスミ！」

ドロップ「アンチョビに四銃士！」

カラスミ「久しぶりだな、コロツケ、リゾット。」

ひまり「誰ですか？」

誠司「コロツケ達の敵や仲間になった奴らだ！」

ウスター「何のようだ。」

アンチョビ「何のようだった？知れたことを。」

カラスミ「その女だな、怪物を操る女と言うのは。」  
ルイーザ「えっ？」

アユ「ルイーザが？」

メンマ「怪物を操るって？」

タンタンメン「その女がなぜお前達という！」

リゾット「待て！その事誰が言った？」

モツツアレラ「誰って？緑色の髪で黒い太陽のマークの紋章をつけてた男よ。」

ダイフクー「リーフか！」

ゆかり「どうやら嘘を言っつてこの世界の人達を利用してルイーザを捕まえる作戦に出  
たみたいね。」

リゾット「待て！お前達はそいつに騙されているんだ！」

カラスミ「だとしてもだ、怪物はその女の国の仕業なのだろう？」

ルイーザ「それは・・・」

フカヒレ「ゲシシ！言い返せないゲシね。」

ピロシキ「どうやら本当のようだしゆ！」

カラスミ「どうなんだ？女。」

ルイーザ「確かにその怪物は私の国の秘宝の力で生まれたようなものだけど」

カラスミ「やはりな、どっちにしろそいつのおかげで怪物が生まれたって事に変わりはない。来てもらうぞ。」

コロツケ「待て! ルイーザは悪くないぞ! 話してもわかってくれないのならお前達を追っ払うまでだ!」

カラスミ「面白い。俺達もお前達にかりはあるんだ!」

アンチョビ「今度こそお前達を倒してやるぞ! お前達を倒して禁貨をいただくぞ!」  
フォンドヴォー「なんだと?」

ピロシキ「そのリーフって奴に怪物を操る女の味方をするバンカー達を倒せば持つてる禁貨を全て手に入れていいって。」

ドロップ「どんだけ卑怯なの。」

いちか「コロツケ、私達も!」

誠司「待て! これはバンカーバトルだ、プリキユアは手出ししちやいけない。」  
あおい「けどあいつら強そうだぞ!」

誠司「心配するな、コロツケ達は負けないぜ。」

カラスミ「いくぞ! トリックアロー!」

リゾット「王国セイバー!」

カラスミ「リゾットか、ここで決着つけてやろう!」



アンチヨビ「覚悟しろコロツケ！今度こそお前を血祭りにしてやる！」

コロツケ「勝負だアンチヨビ！ハンバーグー！」

リーフ「カラスミの奴ら、やってるな。さあてあいつらが使えるかお手並み拝見とい  
くか。」

いちか「バンカー同士の戦い！」

ひまり「これがバンカーバトルなんですな！」

シエル「でも大丈夫なのかな？」

タンタンメン「スタンガンクロー！」

マスタートド「デリート・サンクシヤリア！」

タンタンメン「ぐあ！」

マスタートド「俺の力が一枚上手だったな。」

モッツアレラ「黒バラの怒り！」

バジル「フツ！九頭竜刈り！」

モッツアレラ「きやあ！」

フカヒレ「フオンドヴォー！今度は負けないゲシ！鮫肌ウエーブ！」

フオンドヴォー「うっ！確かにパワーアップしてるな！だがルイーザを狙ってるお前  
達に負けるわけにはいかないんだ！ハンバーグー！」

フカヒレ「うわ!」

ピロシキ「マンモスの牙!」

メンマ「ぐあ!パワーなら俺も負けねえぞ!ビッグシャイニングパンチ!」

ピロシキ「ぐあ!」

ゆかり「

アンチヨビ「デスライトニング!」

コロツケ「ハンマー掌!」

アンチヨビ「くそ!」

コロツケ「テンツドン!」

アンチヨビ「ぐあ!」

あおい「よし!いいぞみんな!」

いちか「あとはカラスミって人だけね。」

カラスミ「決着をつけるぞ!メテオインパクト!」

リゾット「W王国セイバー!」

カラスミ「うわ!」

リゾット「ぐあ!」

カラスミ「やるな!」

リゾット「お前もな！これで決めてやる！ソウルバスター！」  
カラスミ「ぐあ！」

ソール「やった！」

コロツケ「どうだ！お前達に禁貨もルイーザも渡さないぞ！」

カラスミ「くっ、お前達！ここは撤退だ！」

アンチョビ「わかった！」

カラスミ「このままですむと思うな、かりは必ず返すからな。」

タツ

あきら「手強い相手だったね。」

シエル「うん。」

アユ「それにしてもエクリップス、バンカーを利用するなんて。」

リゾット「おそらくリーフはBB7もビシソワーズ兄弟も利用するだろう。」

ひまり「BB7？」

いちか「ビシソワーズ兄弟？」

ウスター「これまで戦ってきた奴らだ。」

ルイーザ「とんでもない事になってしまったわね。」

コロツケ「心配するなよ。あいつらが誰を使っても俺達は負けねえぞ！」

バジル「そうだな。」

マスタード「ああ!」

いちか「私達も守るよ!」

ルイーザ「みんな・・ありがとう!さあ!次のクリスタルミニシャインを目指して行きましょう!」

いちか「うん!」

そのころ

カラスミ「くつ、コロツケ達、また腕を上げたようだな。」

アンチヨビ「くそく」

タツ

カラスミ「お前は!」

リーフ「奴らを倒せなかったとわな。この役立たずどもが!」

カラスミ軍団「ぐああ!」

カラスミ「うう」

リーフ「ふん、しばらくそこで寝てろ、こいつらがダメか。まあいい、カラスミどもが使えるのなら他の奴らを利用するまでだ。」

つつく

## 第17話 コロツケを追って！氷と考古学バンカー！

D r. ボイズン 「ほくお、宛にしていた奴らは期待外れだったのか。」

リーフ 「はっ。ですがまだ使えそうなバンカーどもはいくらでもいます。」

D r. ボイズン 「そいつらにも伝えているのか？」

リーフ 「勿論ですが兵士達はどうしました？」

D r. ボイズン 「ルイーザを捕らえに行った。」

リーフ 「いいのですか、あんなやられっぱなしの奴らに。」

D r. ボイズン 「好きにすればいい。」

リーフ 「そういえばここ最近檻の中のプリキユアどもは大人しくしてるようですね。」

D r. ボイズン 「ああ、だが油断するなよ。こんなことで諦める奴らではないからな。」

そのころコロツケ達

いちか 「カラスミ達、本当に手強かったね。コロツケ。」

コロツケ 「うん、あいつらは本当に強いよ。」

あおい 「本当にカラスミって奴ら、コロツケ達とどういう因縁があるんだ？」

リゾット「カラスミは俺の国を支配した奴らだ。」

ゆかり「リゾットの国を?」

コロツケ「それにアンチョビは父さんを殺した奴たんだ。」

あきら「えっ!そうだったの!」

ひまり「でもその割には恨んでいないような」

コロツケ「アンチョビに勝ったからね。」

シエル「でも手強い敵はまだまだいるんでしょ?」

ヤキトリ「そうだな。」

メンマ「誰が来ても追っ払ってやるって!」

アユ「ねえ、クリスタルミニシャインの手掛かりはまだなの?」

ソール「そうだね。光はあっちに指してるからこの先だね。」

ウイスキー「早く集めてサンサンキングダムに行かなきゃな。」

チョコパイ「そうだな。それに他の仲間も集めないとな。」

ペコリン「ペコ?仲間はまだいるペコ?」

コロツケ「うん、一緒に戦ってくれれば心強いよ。」

悪兵士A「やい!」

いちか「エクリプス!」

あおい「また来たのか！しつこいぞ。」

悪兵士A「黙れ！これ以上貴様らにやられれば我々はおしまいだ！今度こそ貴様らを倒してルイーザとクリスタルミニシャインをいただくぞ！」

コロッケ「へん！何度来ても返り討ちにしてやるぞ！」

いちか「それじゃいくよ！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとトキメキを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり!」

キュアショコラ「キュアショコラ!できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり!」

コロツケ「一気に倒して先に進もうぜ!」

キュアホイップ「うん!」

悪兵士B「雑魚扱いしやがって、だがいつもと同じと思うなよ!」

キュアジェラート「えっ?」

悪兵士C「出てこい!」

ズラツ

キュアカスタード「なんかいつもよりたくさんいます!」

悪兵士A「こんなにいればさすがの貴様らももたないだろ。覚悟しろ!」

コロツケ「108ハンバーガー!」



悪兵士 「ぐあー！」

メンマ 「シャイニングウィップ！」

アユ 「クラーケンのゲンコツ！」

悪兵士 「ぐあー！」

キュアパルフェ 「何人連れてきても私達は倒せないよ！」

スフレ 「でもあの数じゃどれくらいもつのかしら！」

悪兵士 A 「その通り！この人数じゃお前達ももたないだろ。」

キュアシヨコラ 「大丈夫？コロツケ。」

コロツケ 「大丈夫だよ！」

悪兵士 B 「さあ今度は俺達が勝つ番だ！覚悟しろ！」

??? 「コールスロー！」

悪兵士 B 「ぐあー！」

キュアジェラート 「えっ？氷の結晶？」

リゾット 「まさか！」

??? A 「ようやくコロツケ見つけたな。」

??? B 「ええ、そうね。」

コロツケ 「シャーベットにオリーブ！」

オリーブ「久しぶりね、コロツケ。」

キュアマカロン「どうやらコロツケの仲間のようね。」

ウスター「でもどうしてここにいるんだ？」

オリーブ「ビーフシテイで美術館の館長にあなた達がこの方角に向かっているって聞いてここまで来たのよ。」

シャーベツト「どうやら奴らが噂の組織、エクリプスのようだな。」

オリーブ「そしてあなたはプリキュアね。」

キュアカスタード「はい。そうなんです。」

キュアパルフェ「てっちよつと待つて!なんで私達がプリキュアだってわかったの?」

オリーブ「そりやわかるわよ。その不思議そうな格好してればね。」

シャーベツト「コロツケ、ここからは私達も加わろう。」

コロツケ「うん!頼むよ。」

悪兵士A「チツ!邪魔が増えやがって!それで勝ったと思うな!」

シャーベツト「アイスブラスト!」

悪兵士A「ぐあ!」

オリーブ「私もいくわよ!スクリューレッグ!」

悪兵士B 「うあー！」

ペコリン 「強いペコ！」

悪兵士C 「あいつら手強いぞ！」

悪兵士A 「バカ！弱気になるな！なんとしても奴らを倒すんだ！」

シャーベツト 「なんだか奴ら、必死だな。」

オリーブ 「そうね。」

悪兵士A 「俺達はもう後がないんだ！」

オリーブ 「ジャイロキック！」

悪兵士A 「うあー！」

キュアジェラート 「あとは任せて！」

キュアホイップ 「頼むよジェラート！」

シャーベツト 「ジェラート？」

キュアジェラート 「キラキラキラル・キラキラル！」

悪兵士 「ぐああー！」

オリーブ 「やるじゃないやない！」

悪兵士A 「ちくしょー！」

ビー

悪兵士「ぐああー!」

カチーン

パリーン

コロツケ「リーフ!」

オリーブ「あいつは?」

キュアシヨコラ「エクリプスのメンバーだ!」

シャーベット「あいつ、仲間を消したと言うのか!」

コロツケ「お前!また自分の仲間を!」

リーフ「ふん、頼んでないのに勝手な行動した罰だ。」

タツ

ルイーザ「エクリプス・・・恐ろしい敵」

ソール「あつ、シャーベット、オリーブ、助かったよ。」

オリーブ「お礼には及ばないわよ。」

シャーベット「ああ、エクリプスの奴ら、何か目的があつてお前達に近づいたんだじゃないのか?」

ないのか?」

ルイーザ「はい。私達の国、サンサンキングダムのクリスタルミニシャインを狙って」  
シャーベット「そう言う事か、しかし見かけないプリキュアがいるってことは」

コロツケ「うん！みらい達はサンサンキングダムに捕らわれているんだ。」  
オリーブ「それにしてもコロツケの回りは大騒ぎね。」

いちか「そうなんだ。」

コロツケ「シャーベット、オリーブ。一緒に来てくれないか？」

シャーベット「ああ！」

オリーブ「任せなさい！」

いちか「ありがとう！」

シャーベット「そういえばキミ。」

あおい「なに？」

シャーベット「さつきジェラートと呼ばれてたな。」

あおい「あつ、変身してたときな。」

ひまり「ジェラートがどうかしましたか？」

シャーベット「いや、私の父もジェラートって名前だな。」

ゆかり「アイスつながりの名前の親子ね。」

プリンプリン「そういえばあきらも変身してるときショコラだよな？」

あきら「うん。」

シエル「プリンプリンの知り合いにショコラがいるの？」

プリンプリン「いや、家で飼ってる犬だ。」

あきら「犬!」

ゆかり「あら、あきらは犬チヨコレートだからぴったりね。」

あきら「ゆかり!それはないよ!」

つづく

## 第18話 極悪の集団、BB7！

あおい「でかい崖だな。」

ルイーザ「光はこの崖の先を指してるわ。」

シャーベツト「どうやらそのクリスタルミニシャインはこの崖の先にあると言う訳だな。」

コロツケ「そうだね。」

いちか「それにしてもきつそうな崖だね。」

プリンプリン「キャベツ、俺を乗せてくれよ。」

キャベツ「自分で登ってくださいです！」

オリーブ「それだからあんたは弱いのだよ。」

プリンプリン「なんだとこの！」

リゾット「仕方ない奴らだな。ん？おい、厄介な奴らが来たぞ！」

シエル「えっ！」

コロツケ「BB7！」

マルゲリータ「これはこれは、お待ちしていましたよ。コロツケ一味。」

あきら「あれがBB7。」

レモネード「その女だな？怪物を生み出す女は？」

ウスター「まさか黒い太陽の紋章を着けてた奴に聞いたのか！」

パンプキン「なんだ？知ってるみたいじゃねえかYO！」

フォンドヴォー「やはりリーフの奴、BB7も利用してたか。」

メンマ「どこまで卑怯な奴なんだ！」

ルツコラ「なにごちやごちや言ってるぞい！」

ヤキソバ「とにかくテメエらをギッタギタして禁貨もいただくぞ！」

クスクス「カカカカ！」

ニガリ「・・・」

ゆかり「やっぱり話しても聞く耳持ちそうにもないわね。」

ひまり「どうしましょう！」

コロツケ「決まってるだろ。バンカーバトルだ！」

ヤキトリ「俺達もやってやるぜ！」

マルゲリータ「我々もなめられたものですね。さあやってしまいなさい！」

レモネード「テメエに言われるまでもねえよ！」

リゾット「はあ！王国セイバー！」



ニガリ「フツ、私の相手は誰だ！」

マスタートード「俺が相手になるぜ！」

ヤキトリ「いくぜ！パンプキン！」

パンプキン「俺に挑んだ事後悔するなYO！」

ヤキソバ「ギツタギタにしてやる！」

チョコパイ「やれるものならやってみる！」

クスクス「カカカ！」

ウイスキー「お前の相手は俺だ！」

ルツコラ「あたいの炎で真っ黒ごげにしてやるぞい！」

ストロベリー「やってみな！」

リーフ「始まったか。それにしてもDr. ボイズン、コロッケのデータを調べてどう

するのか。BB7、奴らを倒せるのか。」

ヤキソバ「コブラブロー！」

チョコパイ「ぐあ！そんな攻撃！コロッケのハンバーガーに比べればたいしたことな

いぜ！」

レモネード「テメエにやられたかりは倍にして返してやるぜ！W水のリボルバー！」

リゾット「108魂キャノン！」

パンプキン「フラッシュユダック！」

ヤキトリ「バーニンググラッシュユ！」

シエル「トレビアーン！この前のカラスミって人達の時もそうだけどすごいバトルしてる！」

あおい「感激してる場合じゃないよ！あいつらもルイーザをねらってたんだから！」

マルゲリータ「食らうがいい！ギョラクシイフレア！」

コロツケ「テンツドン！」

誠司「あいつだ、コロツケを苦しめたもう一人のサイボーグは。」

いちか「あのマントを着けたバンカーがサイボーグなの？」

ニガリ「円月斬！」

マスタード「デリート・サンクチュアリ！」

ギン

ニガリ「なに！」

マスタード「残念だったな、デリート・サンクチュアリは攻撃だけでなく身を守るオリなんだ。」

いちか「マスタードの技のオーラにそんな役目があったんだ！」  
ルツコラ「フレアブレス！」

ストロベリー「うっ！熱いわね。」

クスクス「土蜘蛛ウエーブ！」

ウイスキー「そんな技跳ね返してやる！ミラーガード！」  
ガン

レモネード「チッ！こいつら！」

マスタード「さて、そろそろ止めといこうか。」

ニガリ「止めだと、なめるな！」

マスタード「デリート・サンクチュアリ！」

ドカツ

ニガリ「ぐあああ！」

ヤキトリ「インパクトクラッシュ！」

パンプキン「どわ！」

ストロベリー「エレキホイール！」

ルツコラ「うっ！うあ！」

ウイスキー「デイメンショントルネード！」

クスクス「カッ！」

チョコパイ「ハジケボンバー！」

ヤキソバ「ぐお!」

レモネード「水のリボルバー!」

リゾット「魂キヤノン!」

ザアン

リゾット「108マシンガン!」

レモネード「ぐあ!」

マルゲリータ「混沌フレア!」

コロツケ「108ハンバーガー!うおおお!」

ポオ

コロツケ「ハンバーガー!」

マルゲリータ「うあ!」

いちか「やった!」

あきら「コロツケ達の勝ちだ!」

レモネード「チツ!まだ終わってねえぞ!」

マルゲリータ「待ちなさい!ここは撤退です。」

レモネード「なんだと!また尻尾を巻いて逃げるってのか!」

パンプキン「レモネード、ここはマルゲリータ様の指示に従ったほうがいいYO!」

レモネード「うるせ！俺は負けを認めねえぞ！」

マルゲリータ「リーダーの指示に従うのです。」

レモネード「誰がテメエをリーダーだつて認めるか！」

マルゲリータ「ニガリ！」

ニガリ「はっ！」

レモネード「待て！わかったよ、撤退すればいいんだろ！コロツケ！テメエら覚えてろよ！」

タツ

チヨコパイ「BB7も大したことなかったな。」

ウイスキー「それにしても俺達よく勝てたよな。」

ヤキトリ「そうだな。」

リゾット「お前達が強くなったんじゃないのか。」

フオンドヴォー「そうだな。これまでいろんな奴らと戦ってきたからな。」

コロツケ「そうだね。」

ソール「みんな、邪魔な奴らは行っちゃったしクリスタルミニシャインを探しにいこう！」

ルイーザ「そうね。」

いちか「うん。」

そのころ

レモネード「ちくしよ！コロツケの奴らめ！」

マルゲリータ「そう慌てる事はない。」

レモネード「うるせ！」

リーフ「お前達でもダメだったか。」

ヤキソバ「お前は！」

リーフ「この役立たずどもが！」

バアーン

BB7「ぐああー！」

ドサツ

リーフ「こいつらも期待外れか。もっともな奴らを利用するか。」  
つづく

## 第19話 風と爆弾！爆風を起こせ！

サンサンキングダム

Dr. ボイズン 「コロツケのデータは取れたのだろうか？」

リーフ 「まあ、撮れました。」

Dr. ボイズン 「よくやったわ。それにしてもリーフ、お前が利用した奴ら、たいしたことなくかったそうだな。」

リーフ 「はい。コロツケの奴らを苦しめたから利用したのに逆に役立たずでした。」

Dr. ボイズン 「それじゃ頼んだお前も役立たずって事になるな。」

リーフ 「待ってください！まだ頼んだ奴がいます。それでもダメなら次は拙者がクリスタルミニシャインの力で奴らを倒します。」

Dr. ボイズン 「いいだろう、失敗したらお前もエレキとストームのようになる事を忘れるな。」

リーフ 「はっ！」

その頃

コロツケ 「ソール。クリスタルミニシャインの反応は？」

ソール「この先まっすぐだよ。」

いちか「まだ遠いね。」

ペコリン「そうペコ。」

ルイーザ「エクリップスが来ていなければいいけど。」

シャーベット「よっぽど大切な物らしいな。ルイーザ。」

ルイーザ「ええ、大切な物だけど間違った使い方したらとんでもない事になるから。」

オリーブ「とんでもない事?」

ドロップ「そのクリスタルには怪物を作る力があるのよ。」

オリーブ「怪物を!」

シャーベット「だからBB7の奴ら、ルイーザの事、怪物を生み出す女って言ったのか。あんたは一体何者なんだ?」

あおい「何者もなにもルイーザはサンサンキングダム of 姫だ。」

オリーブ「お姫様!」

ルイーザ「ええ。」

オリーブ「それなら自分の王国が乗っ取られて大変ね。」

ルイーザ「そうね。でも私達にはサンサンキングダムを取り戻してくれる頼もしい仲間

間があるわ!」



いちか「それなら早くクリスタルミニシャインを集めないかね！」

ひまり「はい！」

メンマ「ん？」

アユ「お兄ちゃん？どうしたの。」

メンマ「あれ、エクリップスじゃないか！」

シエル「えっ！」

あおい「本当だ！何であいつらが？」

マスタード「見ろ！誰かが襲われてるぞ！」

Tーボーン「助けに行くっぺ！」

チヨコパイ「！、コロツケ、襲われてるのは。」

コロツケ「まさか！」

悪兵士A「痛い目にあいたくなければ持つてる禁貨を全部置いていけ！」

???A「どこの誰だか知らん奴らにやる禁貨なんて1枚もねえ！」

???B「だけど僕達2人で耐えられるのか！」

悪兵士B「そうだ、数は俺達の方が有利だ。叩きのめすぞ！」

いちか「待ちなさい！」

悪兵士A「貴様ら！邪魔しに来たか！」

??? A 「コロツケ!コロツケじゃないか!」

??? B 「それからチョコパイ親分!」

コロツケ 「やっぱりウインナーにアーモンド!」

チョコパイ 「何でアーモンド達が?」

悪兵士A 「ルイーザも居るな、ちょうどいい。今度こそやつつけてやる!」

コロツケ 「何度やっても俺達は負けないぜ!」

アーモンド 「なんだコロツケ?こいつらを知ってるのか?」

ウインナー 「それに何度も戦ってるの?」

あきら 「質問は後にしよう。今はエクリプスを倒さないと。」

ゆかり 「いちか、いいわね。」

いちか 「はい!」

プリキュアアラモード 「キュアラモード・デコレーション!」

いちか 「シヨートケーキ!」

ひまり 「プリン!」

あおい 「アイス!」

ゆかり 「マカロン!」

あきら 「チョコレート!」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇氣を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・ませませ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

ウインナー「変身！その人、プリキュアなの！」

アーモンド「間違いないな、見たことない奴らだ！」

コロツケ「うん！みらい達の次になったプリキュアだよ。」

アーモンド「そうだったのか。」

ウインナー「けどコロッケ達がいると心強いよいね!」

アーモンド「ああ!バシケるぜ!」

ペコリン「みんな!頑張るペコ!」

悪兵士A「かかれ!」

ウインナー「いくよ!風のエチュード!」

悪兵士「うあ!」

キュアカスタード「あの人、風を使うんですか!」

悪兵士B「貴様ら!」

アーモンド「ムゲンボム!」

悪兵士「ぐああ!」

キュアジェラート「あっちは爆弾使いか!」

悪兵士C「くそ!」

コロッケ「俺達もいくぞ!」

ティーボーン「おう!カルシウムクラッシュ!」

フォンドヴォー「赤き線香!」

悪兵士「ぐあ!」

キュアホイップ「えい！」

悪兵士A「うあ！」

アーモンド「なんだ？あれだけの数でたいしたことねえな。」

悪兵士A「なめるなよ！お前ら！こうなればGシステムを使うぞ！」

悪兵士「おおー！」

メンマ「Gシステムだと！」

悪兵士「うおおお！」

アーモンド「なんだ！何しやがった？」

キュアジェラート「Gシステムでパワーを上げたんだ！」

悪兵士A「食らえ！」

キュアホイップ「きやあ！」

キュアパルフェ「ホイップ！」

ウインナー「確かに強くなってる！」

コロツケ「でも倒せない事はないぜ！」

悪兵士B「それはどうかな！」

アーモンド「うっ！」

キュアカスタード「アーモンドさん！」

悪兵士B 「ん?」

しゅー

アーモンド 「パペットボンバー!」

ドカーン

悪兵士B 「ぐあ!」

ウインナー 「風のラブソディー!」

悪兵士C 「うあ!」

コロツケ 「ハンバーガー!」

悪兵士A 「ぐわ!」

キュアマカロン 「今がチャンスね。」

キュアシヨコラ 「ホイップ! いけるよ!」

キュアホイップ 「はい! さっきの仕返しさせてもらうよ! キャンディロッド! キラキ

ラキラル! ホイップ・デコレーション!」

悪兵士 「ぐああ!」

バタツ

アーモンド 「やるな。」

悪兵士A 「また失敗だ! 覚えてろよ!」

タツ

キュアホイップ「なんとか倒せたね。」

ウインナー「コロツケ、助かったよ。」

コロツケ「うん。でもウインナー、どうしてここに？」

ウインナー「ちよつと風の噂でコロツケ達がこの辺に向かつてるって聞いて先回りしてコロツケ達と合流しようと思つたんだ。そしたらアーモンドが居て。」

チヨコパイ「アーモンドも俺達がこの辺に向かつてるって噂聞いたのか？」

アーモンド「いや、俺は別の噂でこの辺に来たんだ。」

ひまり「別の噂？何ですか？」

アーモンド「この先にニラジャングルがあるんだ。そこに何か太陽の形をした物が落ちたって噂を聞いて来てな。」

ルイーザ「太陽の形・・・それってクリスタルミニシャインじゃないのかしら！」

いちか「間違いないよ！私達が行くのもこの先だもん！」

ゆかり「アーモンドが聞いた噂とクリスタルミニシャインの反応が一致してるわね。」

ルイーザ「もう少して3つ目になるわ！」

いちか「よくし！ニラジャングルへ行こう！」

つづく

## 第20話 恐怖の兄弟!ビシソワーズ一族!

ひまり「あの森すごく深そうですね。」

アユ「ほんとだ。」

ソール「クリスタルミニシャインの反応が薄くなってる。」

オリーブ「えっ?まさかもうエクリプスに取られたんじや!」

ルイーザ「いいえ、薄くなったって事はクリスタルミニシャインが近いって事なのよ。」

コロツケ「するとあそこがニラジヤングルだ!」

いちか「間違いないよ!3つ目のクリスタルミニシャインもあそこに!」

アーモンド「にしてもその宝石にそんな力があるなんてな。」

ウインナー「まさにサンサンキングダムって王国の秘宝だね。」

ルイーザ「うん、でもサンサンキングダムの秘宝はクリスタルシャインなの。」

シャーベット「するとそのクリスタルミニシャインはクリスタルシャインと大きな関わりがあるようだな。」

あきら「うん。クリスタルミニシャインはクリスタルシャインの光を支える宝石みた



いだからね。」

リゾット「とにかくニラジャングルは目の前だ。行こう。」

???「急ぎでどこに行くんだい？」

コロツケ「ユバ！」

フォンドヴォー「お前達はビシソワーズ兄弟！」

あおい「あいつらがビシソワーズ兄弟？」

ユバ「そこに居る女がそうだね。」

リゾット「まさかお前らも黒い太陽の紋章を着けた男に聞いたのか？怪物を生み出す奴がいるって。」

スズキ「あれ？なんでわかるのかにや〜？」

ウスター「やっぱリリーの奴、ビシソワーズ兄弟までも利用したか。」

いちか「あなた達、エクリプスの人に騙されているのよ！」

ユバ「知ってるさ。」

ひまり「えっ？」

ブーケガルニ「騙されてるのはわかってても私達の目的はあなた達の禁貨よ。」

ストロガノフ「ばぶ！」

ウズラ「そう言う事だ！」

バジル「なるほどな。利用してる奴の言葉を利用してたつてわけか。」

ユバ「エクリップスだがなんだか知らないがキミ達を倒せばそれでいいんだ。」

オリーブ「言ってくれるわね!」

コロツケ「オリーブ、やるの?」

オリーブ「どっちみち倒さないと通してくれないみたいだしやるしかないわ!」

コロツケ「そうだね。よし!バンカーバトルだ!」

ペコリン「でも相手は強そうペコ!」

ゆかり「なんとかなるんじゃない。」

ユバ「僕達の力を思いしれ、デリートプロミネンス!」

コロツケ「させるか!スーパーハンバーガー!」

ボオン

ユバ「なに!」

コロツケ「へへん!」

ストロガノフ「ばふ!」

アーモンド「体デカイクせに赤ん坊の格好してんじやねえぞ!ムゲンボム!」

ブーケガルニ「私の相手になるのは?」

オリーブ「あなたの相手は私よ!」

スズキ「僕の相手はキミだ！」

ウィンナー「相手になるよ！」

ウズラ「やい！相手になれ覆面！」

プリンプリン「俺が！」

いちか「みんな！頑張つて！」

あおい「まあ、コロツケにオリーブ、アーモンドやウィンナーはともかくプリンプリンはダメなんじゃないのか？」

リーフ「ビシソワーズ兄弟、コロツケ一味を倒せよ。しくじったら拙者は後がない。」

ブーケガルニ「メラ？メラ！」

オリーブ「そんなの！ジャイロキック！」

ボオ

ブーケガルニ「やるわね。でもこれは無理よ、ビガ？ビガ！」

オリーブ「うっ！」

スズキ「運命トランプ！」

ウィンナー「うあ！」

ウズラ「覆面、おとなしく成仏せや！」

プリンプリン「ひいー！」

ストロガノフ「ぼぶ!」

アーモンド「この赤ん坊もどきが!」

あきら「ビシソワーズ兄弟だったね?カラスミ達やBB7より強い!」

リゾット「ああ、奴らの強さは本物以上だ。」

ウズラ「覆面!これでおしまいじゃ!」

プリンプリン「でえー!」

ぐにゅ

ウズラ「ぐえ!またこのトラップか!」

プリンプリン「今じゃ大王の雨あられ!」

ウズラ「ぐあ!」

プリンプリン「どうだ!」

あおい「まさか弱そうなプリンプリンがやるなんて!」

ウインナー「僕もいくよ!風のレクイエム!」

スズキ「うわ!」

ブーケガルニ「ビガ?ビガ!」

オリーヴ「見切ったわ!スクリユードライバー!」

ブーケガルニ「キャア!」

ストロガノフ「ぼぶー！」

アーモンド「赤ん坊もどきは赤ん坊らしく大人しくお寝んねしてな！グレートボンバー！」

ストロガノフ「おぎゃー！」

ユバ「くそ！邪神アングルモア！」

コロツケ「そんな技、通用するもんか！ギュードン！」

ドオーン

ユバ「なに！しまった！邪神アングルモアの弱点知っていた！」

コロツケ「うおおお！」

ユバ「うわあああ！」

ドサツ

コロツケ「どうだ！」

ブーケガルニ「まさか彼ら、さらに強くなってるわ！」

ユバ「くそ、覚えてろ！」

ペコリン「コロツケ達の勝ちペコ！」

ひまり「それにしても手強い人達でしたね。」

フォンドヴォー「ああ、倒すのに苦勞した奴らだからな。」

ウスター「とにかくこれで邪魔な奴らはいねえし、ニラジヤングルに行こうぜ!」  
ゆかり「そうね。」

そして

ユバ「くつ、まさか僕達が返り討ちにあうなんてな。」

スズキ「悔しいな!」

リーフ「期待はずれだったな、雑魚共!」

ユバ「貴様は!」

リーフ「やはり宛にならなかつたな。」

ユバ「僕達を侮辱する気かい?なら消えてもらおう。」

リーフ「貴様が拙者を消すって?」

ユバ「なっ!いつの間に後ろに!」

リーフ「雑魚共はくたばれ!」

ピシソワーズ兄弟「うわああ!」

ドサツ

ユバ「貴様・・・」

カクツ

リーフ「くそ、この戻れば拙者は消される。こうなれば拙者が奴らを倒すのとしよう。」

クリスタルミニシャインの力でな！  
つづく

## 第21話 ジャングルの野獣!

サンサンキングダム

D r・ボイズン「リーフはどうした。」

悪兵士A「戻ってきておりません。」

D r・ボイズン「どうやら利用した助っ人がダメだったようね。」

悪兵士B「連れ戻しますか?」

D r・ボイズン「いや、奴はクリスタルミニシャインのありかを突き止めたのだろう。それに方が一に備えてあいつを向かわせた。」

ニラジャングル

ゆかり「ここがニラジャングルね。」

ルイーザ「ソール、クリスタルの反応は?」

ソール「クリスタルの反応は消えました。間違いありません、クリスタルミニシャインはこのジャングルにあります!」

ひまり「見てください!あそこに村があります!」

コロツケ「ほんとだ!」



メンマ「何か手掛かりがあるかもな。」

アユ「行こう！」

??? 「ふうん、あの子がDr. ボイズンが調べてるコロツケね。」  
村

あおい「なんだよこれ！」

いちか「村が荒らされてる！」

ウスター「ひでえ！」

シエル「ちよつと、何があつたの？」

村人A「また来たな！」

シエル「えっ？」

村人B「お前も村を襲つた一味の仲間だな！」

コロツケ「ちよつと待つてよ！なんの事！」

村長「とぼけてもダメじゃ！とつと追い出せ！」

??? A「待つんだ長老さん、そいつ奴らの仲間じゃない。」

コロツケ「お前達は！」

??? B「久しぶり、コロツケ。」

コロツケ「フランク！ライム！」

あきら「知り合い?」

フランク「まあな、俺はフランクフルト。こっちは妹のライム。」

ひまり「兄妹なんですね。」

あおい「でもなんか似てないな。」

ライム「うん、フランクは私の本当のお兄ちゃんじゃない。」

いちか「えっ?」

ライム「私のパパとママは一度バンカーに殺されてフランクが私の面倒見てくれた。」

あきら「そうだったんだ。」

リゾット「ところでフランク、何故この村に?」

フランク「ついさっきの事だ。この村を襲った奴がいてな、俺はそいつと戦った。だがあいつにやられてしまいこの村の長老に手当てしてもらったんだ。」

フォンドヴォー「もしかして村を襲った奴は緑の髪の毛で黒い太陽の紋章着けてなかつたか?」

フランク「ああ、なんでわかつたんだ?」

いちか「リーフだ!」

ペコリン「このジャングルにリーフが来てるペコ!」

フランク「お前達、そいつの事知ってるのか?」

コロツケ「あいつらはエクリップスって悪い奴らで俺達もあいつらと戦ってるんだ！  
フランク「そうだったのか。コロツケ、俺も連れてってくれ！奴にかりを返す！」

コロツケ「うん！」

いちか「それでフランク、その後エクリップスは何処に行ったの？」

ライム「その人達森の奥に行った。」

誠司「この奥に何かあるのか？」

村長「奥には遺跡があるんじゃない。」

キヤベツ「遺跡ですか？」

ゆかり「もしかしたらその奥にクリスタルミニシャインがあるんじゃないかしら？」

あきら「可能性はたかそうだ。」

バジル「それなら行こう！」

村長「遺跡ならこの道を辿れば行けるぞ！」

遺跡

マスタード「この遺跡か！」

Tーボーン「でつけっぺ！」

あおい「この上にクリスタルがあるのかもな。」

いちか「そうだね、あおちゃん」

ひまり「早速登ってみましょう。」

遺跡の頂き

コロツケ「あつ、鳥の像だ!」

シエル「この森の守り神かな?」

ペコリン「ペコ!石像の下見るペコ!」

ルイーザ「クリスタルミニシャインだわ!」

フランク「あれがそうか。」

コロツケ「これで3つ目だ。」

リーフ「それはどうかな。」

フォンドヴォー「リーフ!」

フランク「お前は!」

リーフ「誰かと思えば拙者にやられた雑魚ではないか。またやられに来たのか?」

フランク「貴様!どこのバンカーだ!」

コロツケ「違うよ、あいつはバンカーじゃない!」

フランク「なんだと!?!」

リーフ「さて、今度は拙者が直々に相手をしよう。こいつでな!」

ルイーザ「クリスタルミニシャインが!」

大鳥「ビーー！」

マスタード「鳥の像が動いた！」

シャーベット「あれがクリスタルミニシャインの力なのか！」

ソール「そうなんだ！クリスタルミニシャインは物に取りついて怪物を生み出す力があるんだ！」

ウインナー「あのクリスタルにそんな力があるなんて！」

リーフ「さあ、今度こそお前達を倒して持つてるクリスタルミニシャインをいただくぞ！」

コロッケ「お前に渡すもんか！いちか！」

いちか「うん！」

プリキュアアラモード「キュアラモード！デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか 「元気と笑顔を！」

ひまり 「知性と勇気を！」

あおい 「自由と情熱を！」

ゆかり 「美しさときめきを！」

あきら 「強さと愛を！」

シエル 「夢と希望を！」

プリキュアアラモード 「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ 「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード 「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート 「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン 「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ 「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ 「キュアパルフェ！できあがり！」

フランク 「変身しただと！」

ライム 「この人達は一体」

コロツケ 「こいつらはプリキュアだ。」

フランク 「プリキュア？」

リゾット「話は後だ。今はあいつらを！」

キュアアカスタード「誠司君、ルイーザさんとライムちゃんを！」

誠司「おう！2人共、こっちだ。」

ライム「うん。」

リーフ「さて、ゆっくり痛め付けてやるか。葉っぱ手裏剣！」

コロツケ「うあ！あつ！髪の毛が！」

キュアマカロン「やはりただの葉っぱじゃなさそうね。」

リーフ「そうだ！拙者の葉っぱ何でも切れる凶器だ。今度は体ごと切ってやる！」

フランク「待て！お前の相手は俺だ！かりを返す！」

リーフ「いいだろう！大鳥よ！残りの奴らを倒せ！」

大鳥「ビイー！」

アーモンド「来るぞ！」

大鳥「ビイー！」

ツンツンツン

リゾット「くちばし攻撃だ！気を付けろ！」

キュアシヨコラ「彫刻のわりと素早い！」

フランク「サイクロンランチャー！」

リーフ「ふっ、その程度か。」

フランク「貴様!」

リーフ「さつき始末しそこねたが今度は始末しよう。」

フランク「さつきと同じと思うな!」

大鳥「ビイー!」

キュアホイップ「はあ!」

ビュン

キュアシヨコラ「飛び上がった!」

キュアジエラート「あれじゃ届かない!」

リゾット「任せろ魂キャノン!」

大鳥「ビイー!」

ザン

リゾット「なに!」

大鳥「ビイー!」

キュアパルフェ「羽が小鳥になった!」

ツンツンツン

スフレ「攻撃してきましたわ!」



リーフ「いいぞ！そのまま奴らをしとめろ！」

フランク「はあ、はあ」

リーフ「やはり貴様には拙者を倒すのは無理なんだよ。」

フランク「くっっ！」

コロツケ「頑張れフランク！お前ならリーフを倒せるよ！」

フランク「コロツケ……」

リーフ「雑魚より自分の心配しな！」

大鳥「ビイー！」

ウスター「またあんな高くに！」

キュアカスタード「一体どうすれば。」

キュアホイップ「それなら私のジャンプで！」

シャーベット「待て、それではやられに行くものだ。」

キュアマカロン「飛ぶのがダメならダイフクの伸びる腕しかないわね。」

キュアショコラ「けどあんなに高ければ見切られるよ。」

ダイフク「伸びる？それだ！コロツケ！お前のハンマーが俺を！」

コロツケ「えっ？あれか！よし！久しぶりに決めるぞ！ダイフク！」

ペコリン「ペコ？」

コロツケ「ハンマー伸!」

ダイフクー「伸身弾!」

大鳥「ビイー!」

マスタード「攻撃が当たったぞ!」

キュアマカロン「でも彫刻だからあんまり効いていないわ。」

キュアホイップ「それなら!コロツケ、私も飛ばして!」

コロツケ「いくよ!ハンマー伸!」

キュアホイップ「ふっ!」

大鳥「ビイー!」

キュアホイップ「はああ!」

ドン

大鳥「ビイー!」

キュアホイップ「今だ!キャンディロッド!キラキラキラル・ホイップデコレーション!」

ン!

大鳥「ビイー!!」

ボン

キラーン

コロツケ「クリスタルミニシャイン！もらった！」

リーフ「なに！」

フランク「油断は大敵だ！フェザービュレット！」

リーフ「うわ！」

フランク「食らえ！サイクロンランチャー！」

リーフ「ぐああ！」

フランク「どうだ！これでかりは返したぞ！」

リーフ「くそ、こうなれば力づくで！」

???「もう終わりだよ。リーフ。」

リーフ「バブル！」

バブル「お疲れ様、後は永遠」

リーフ「待て！これからクリスタルミニシャインを奪う！だから待ってくれ！」

バブル「うふふ、ダメ。」

ビー

リーフ「ぐあああ！」

カチーン

パリーン

バブル「だって、次はバブルがやるんだもん。」

フランク「あいつ、リーフを!」

キュアホイップ「子供みただけど。」

コロツケ「お前もエクリプスの仲間か!」

バブル「そうだよ。名前はバブル。バブル、このジャングルの入口でコロツケを注目していた。」

コロツケ「俺を?」

バブル「今日のところはそのクリスタルミニシャイン譲ってあげる。でも次はバブルがあなたを消すからね。」

スツ

プリンプリン「ガキの癖になんて恐ろしい事言うんだ」

ニラジャングル入口

フランク「するとプリキュアは別の世界から来たって事か。」

いちか「うん。」

ライム「お友達が今の人達に捕まってコロツケ達と一緒に戦ってるのね。」

ひまり「そうなんです。その場所はサンサンキングダムにいるんです。」

ライム「フランク、コロツケ達の力になってあげて」

フランク「ライム？」

ライム「コロツケはパパとママを生き返らせてくれた。だからそのお礼に力になって欲しいの。」

フランク「ああ、コロツケ、俺も共に戦おう！」

コロツケ「うん！ありがとう！」

ルイーザ「また頼もしい仲間が増えたわね。」

シエル「それにクリスタルミニシャインも3つになったし、後4つね。」  
キラーン

ソール「反応した！あっちだ！」

コロツケ「よし！出発だ！」

その頃サンサンキングダム

Dr. ボイズン「リーフは？」

バブル「消したよ。負けたから。」

Dr. ボイズン「それでコロツケについては？」

バブル「確かに強いよ。バカそうに見えて以外と頭が切れるから。」

Dr. ボイズン「ほお、引き続きお前がやるんだ。わかってるな。」

バブル「うん、すべてはエクリップスの為に。そして、あのお方に為に。」



## 第22話 プリキユアを思う魔剣士！

サンサンキングダム 檻

なぎさ 「いちか達、今どうしてるかな。」

ほのか 「クリスタルミニシャインを集めにあちこち回ってるのかしら。」

ひかり 「そうですね。」

リコ 「それにコロツケの仲間は多いから仲間探ししてるのかもね。」

みらい 「うん。」

ことは 「だとしたら」

みらい 「どうしたの？ はーちゃん。」

ことは 「コロツケ達あの人に会えたのかな？」

リコ 「あの人？」

ことは 「・・・テキーラ」

その頃

フランク 「するとサンサンキングダムは太陽のような明るく平和な国なんだは。」

ルイーザ 「うん。今はエクリプスが乗っ取ってしまつて。」

いちか「それにしてもこの先どんな所なんだろう！」

あおい「なんだいちか? やけに楽しそうだな。」

いちか「なんだかこの世界の冒険がワクワクして次の場所が楽しみになってきたんだ。」

あきら「確かにそうだね。」

コロツケ「それなら俺達もいちか達の世界も冒険してみたいな。」

ひまり「確かに私達の世界も神秘的な建物もありますから気に入ると思います。」

ストロベリー「それは見てみたいわね。」

ゆかり「ねえリゾット。」

リゾット「なんだ? ゆかり。」

ゆかり「バブルだったわね、あの子に気になる事言ってたわ。」

リゾット「コロツケを注目していたって事か?」

シエル「確かにエクリプスはコロツケを調べてるって。」

バジル「コロツケを調べてる?」

マスタード「どう言う事だ?」

ペコリン「もしかして、コロツケの弱点を探してるペコ?」

シエル「コロツケを調べてると言えば、いちか、今もコロツケの強さ気になる?」



いちか「うん、コロツケは友達を思う気持ちが強くてるみたいだけど他に何かあるんだよね。」

Ｔーボーン「ん！」

ウスター「どうした？Ｔーボーン。」

Ｔーボーン「このにおい、あいつらだつべ！」

コロツケ「あいつら？それって！」

悪兵士A「俺達のおいか。」

いちか「エクリプス！」

悪兵士A「貴様ら、クリスタルミニシャインを3つ手に入れたみたいだな。今度は我々が禁貨もクリスタルミニシャインもまとめていただくぞ！」

いちか「いくよ！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさとときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士A「こつちもいくぜ！Gシステム発動だ！うおおお！」

プリンプリン「Gシステムを使ってきやがった！」

ヤキトリ「なあと、システムを使っただって俺達はまけない！」

キュアホイップ「コロツケ、いこう！」

コロツケ「よし！」

???「面白そうな事してそうだな。」

コロツケ「えっ？」

キュアジエラート「誰だ！」

バジル「テキーラ！」

テキーラ「コロツケにバジルじゃねえか。」

ルイーザ「あの人は？」

誠司「ちよつとひねくれたコロツケの仲間だ！」

テキーラ「ひねくれて悪かったな。」

フオンドヴォー「良いとこに来たな。」

テキーラ「なんだ？参戦しろつか？ちよつどいいぜ！暴れてえ気分だな。」

キュアパルフェ「なんだか強そう！」

悪兵士B「奴らめ、また仲間が増えやがった。」

悪兵士A「まあいい、かかれ！」

テキーラ「俺様に歯向かった事後悔しな！アタッククレイン！」

悪兵士「うわ！」

キュアマカロン「あら、二刀流の剣を使うのね。」

キュアパルフェ「あなたが剣なら私はリボンよ!はあ!」

悪兵士C「うあ!」

コロツケ「シエルがリボンなら俺はハンマーだ!ハンマー壊!」

悪兵士B「ぐあ!」

悪兵士A「くそ!こしやくな!」

バジル「槍もあるぞ!」

Tーポーン「ヌンチャクもあるつぺよ!」

悪兵士A「くそ!Gシステムをパワーアップさせろ!」

キュアシヨコラ「システムをパワーアップさせた!」

キュアジェラート「そんな事も出来るのか!」

悪兵士A「可能なんだよ!おら!」

コロツケ「うあ!」

ウイスキー「確かにパワーアップしてる!」

チヨコパイ「下手に食らったら危ないぞ!」

テキーラ「そんなの関係ねえ!パワーアップした俺の技うけてみやがれ!クロスブレ

イド!」

悪兵士 「ぐあー！」

キュアジェラート 「よし！あとは私に任せて！キラキラキラル・ジェラートシエイク  
！」

悪兵士 「ぐあああー！」

テキーラ 「雑魚が。」

悪兵士 A 「くそ」

リゾット 「待て、聞きたい事がある。」

悪兵士 A 「なんだ！」

リゾット 「お前達は何の為にコロツケを調べてる。コロツケを調べてどうする気だ。」

悪兵士 A 「こんなの答える訳ないだろ！」

アーモンド 「それなら俺の爆弾でぶっ飛ばすか。」

悪兵士 A 「待て待て！俺達はただしらべるだけで何も知らないんだ！コロツケのデータをとって何するのか何も知らないんだ！それに言えるとしたら・・・」

キュアホイップ 「言えるとしたらなに？」

悪兵士 A 「それは」

ビー

悪兵士 「うわああ」

カチーン

パリーン

バブル「危ない危ない。」

コロツケ「バブル!」

テキーラ「誰だあのチビ?」

キュアカスタード「今の兵士達の仲間です!」

バブル「まったく余計な事をするわね。悔しいでしょ? 聞きそびれて。」

コロツケ「お前、仲間を消して楽しいのか!」

バブル「楽しいわよ。だってバブル、悪い子だもん。じゃあね。」

スツ

ドリアン「本当に恐ろしいガキだぜ。」

テキーラ「おい、そいつらプリキュアじゃねえのか?」

いちか「うん。」

テキーラ「なんでまたこの世界にいるんだ?」

リゾット「他のプリキュアが今の奴らに捕まってサンサンキングダムにいるんだ。」

テキーラ「なんだと、まさかと思うが。その中ことはもいるんじゃないだろうな?」

ひまり「はい、ことはちゃんもいます。」

「テキーラ「チツ、世話がやけるぜ。」

「フオンドヴォー「なんだ？ずいぶんことは心配をしてるな。」

「テキーラ「別にそんなじゃねえよ！いる所が分かるなら行くぞ！」

「ルイーザ「だけどサンサンキングダムに行く前に集めなければならぬ物があるの。」

「テキーラ「集めなければならぬ物？」

「ドロップ「このクリスタルミニシャインを集めなきゃならぬの。」

「テキーラ「ん？それは」

「ゆかり「何か知ってるの？」

「テキーラ「ああ、この前モナカ島に流れ落ちたの見たんだ。」

「リゾット「モナカ島？キャラメル王国か。」

「あおい「キャラメル王国？」

「コロツケ「リゾット、知ってるの？」

「リゾット「ああ、行ったことある。その国王は父上と知り合いなんだ。」

「シエル「キャラメル王国の王様とリゾットのお父さんが知り合い？」

「アユ「リゾットのお父さんはグランシユフ王国の王様なのよ。」

「いちか「そうなんだ！」

「あきら「待って、リゾットのお父さんが王様ならリゾットは・・・」

いちか「リゾットは王子様なの!」

リゾット「そうだ。」

ひまり「すごいです!」

ストロベリー「とにかくありがとうございます。なら行こう。」

ゆかり「そうね。」

テキーラ「待ってろよ、ことは。」

つづく



## 第23話 モナカ島へ！船に・・・乗れません！

D r. ボイズン 「奴らの行動は？」

バブル 「そうだね。仲間がまた増えて連中の団結力がさらに高まったみたい。」

D r. ボイズン 「くっ、まあいいさ。」

バブル 「D r. ボイズン。コロツケを調べてどうするの？エレキ、ストーム、リーフ達にも言っていないでしょ？」

D r. ボイズン 「いざれ分かる事だ。だが分かる前にお前も消されるかもな！」

バブル 「バブルはそんなハマしないもん！」

D r. ボイズン 「それなら次のクリスタルミニシャインを手に入れろ。場所はここだ！」

バブル 「わかったよ。絶対手に入れる！」

海岸

テキーラ 「あそこだ。」

いちか 「あの島がモナカ島？」

リゾット 「ああ、あの島にキャラメル王国がある。」

コロツケ「そこにクリスタルミニシャインがあるんだね。」

スフレ「でもどうやってあの島に行きましよう。やはり船でしょうか。」

アユ「ウインナーの飛行船があれば行けるのに。」

あおい「ウインナーは飛行船があるのか!」

ウインナー「うん。」

ゆかり「ねえ、あれはどうかしら?」

あきら「遊覧船か、あの大きさならこの人数は乗れるかもしれない。」

ひまり「でもあれに乗れるお金はあるんでしょうか?」

コロツケ「とにかく乗せてつてもらおう。」

船場

シエル「この遊覧船、ちょうどモナカ島に行くみたいね。」

ペコリン「よかったペコ。」

スフレ「でも何か変です。」

いちか「あのこの船出航しますか?」

船乗り「本来ならば出航するんだが」

ウスター「どうかしたのか?」

船乗り「この遊覧船を動かすのに船長が戻らなくて。」

誠司「船長さんはどこに？」

船乗り「街に行って買い出しに出かけたが。」

船長「お〜い！待たせたな。」

船乗り「船長！お客です。」

船長「モナカ島に行きたいのか？」

フオンドヴォー「はい、乗せてもらえますか？」

船長「別にいいけどモナカ島に行くのはやめた方がいいぞ。」

ひまり「どうしてですか？」

船長「モナカ島に化け物が現れたらしいからな。」

ルイーザ「化け物？」

バジル「どうやらクリスタルミニシャインの力のようだ。」

あおい「やっぱクリスタルミニシャインはモナカ島にあるんだ！」

ストロベリー「それでも行かなきゃならないんです！」

船長「そうか、それなら止めないが、行くなら乗りましたまえ。」

悪兵士A「そうはさせるか！」

船乗り「なんだ！」

コロツケ「エクリプス！」

テキーラ「またテメエらか。」

船長「なんだ彼らは!」

マスタード「俺達を狙う組織の奴らだ。」

悪兵士A「あの島に行くにはこの船に乗るんだろ?乗せてたまるか!」

あおい「どこまで邪魔する気だよ!いちか。」

いちか「うん!船乗りの皆さん、安全な所に隠れてください!」

船長「わかった!」

ひまり「いちかちゃん、いきましよう!」

プリキュアラモード「キュアラモード・デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を!」

ひまり「知性と勇気を!」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しきときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

悪兵士B「今度こそは倒してやる！」

ルイーザ「みんな！頑張って！」

キュアホイップ「コロツケ、いくよ！」

コロツケ「うん！」

アユ「ひまり、エクリプスが船に乗る邪魔するつてことは」

キュアカスタード「間違いなくクリスタルミニシャインはモナカ島に！」

キュアマカロン「それなら彼らを倒さないかね。」

コロツケ「ハンバーガー!」

悪兵士A「ぐあ!」

キュアシヨコラ「はあ!」

悪兵士B「うあ!」

ウスター「俺も決めるぜ!ツメトギスラツシユ!」

悪兵士C「ぐわ!」

キュアジェラート「おりや!」

悪兵士A「うお!」

キュアパルフェ「あなた達、これ以上みじめな思いしたくなかったら船にのせなさい。」

悪兵士A「くそ、それならこうしてやる!」

ドカーン

チヨコパイ「あつ!船が!」

ヤキトリ「貴様ら何て事を!」

悪兵士A「へへ!これなら船も使い物にならないだろ。」

テキーラ「テメエら!てやあ!」

悪兵士 「ぐわああ！」

キュアマカロン 「後はまかせて、キラキラキラルン！マカロン・ジエリエンヌ！」

悪兵士 「ぐわあああ！」

ドサツ

悪兵士A 「くつ、だがこれで島には行けないんだ、撤退！」

スフレ 「待ちなさい！」

船長 「おーい！」

船乗り 「大丈夫か！」

いちか 「はい、でも船が」

船長 「あゝ、これは修理するのにかなり時間がかかるな。」

ひまり 「ごめんなさい！大切な船を守れなくて！」

船長 「気にするなよ。我々も力になれなくて悪かったな。船は地道に直すよ。」

あきら 「頑張ってください。」

シエル 「モナカ島はなんとかします。」

再び海岸

シエル 「とは言うものの。」

ゆかり 「船に乗れない以上モナカ島に行くに道がないわね。」

あおい「また別の港を探すか。」

ウイスキー「でも見つけたとしてもモナカ島に行けるのか?」

ペコリン「どうするペコ。」

???「リゾット様!」

リゾット「えっ?」

いちか「誰?」

ひまり「あれ見てください!」

シエル「飛行船だわ!」

ウインナー「あれは僕の所の飛行船だ!」

???「リゾット様!」

リゾット「パエリア先生!」

パエリア「リゾット様に皆さん、お久しぶりです。」

ココア「また会えたね。」

ウインナー「ココアも!」

誠司「パエリアさん!」

パエリア「誠司君!」

あおい「リゾットの先生?」



リゾット「ああ、グランシユフ王国で武道の師範をしてるパエリア先生だ。」  
いちか「そうなんだ、はじめまして、宇佐美いちかです。」

コロツケ「いちか達はプリキュアなんだ。」

パエリア「やはりそうでしたか。誠司君がいるって事はと思っていました。」

ルイーザ「あなたもプリキュアを知ってるんですか？」

パエリア「勿論です。」

ココア「私もプリキュアに助けられました。」

フォンドヴォー「ところでパエリア、どうして飛行船に？」

パエリア「キャラメル王国に怪物が現れて様子を見に行くよう国王に言われ向かって  
いるのですが。先ほどズツキーニも向かいましたが。」

リゾット「ズツキーニがキャラメル王国に！」

あおい「ズツキーニ？」

コロツケ「リゾットの友達だよ！」

誠司「パエリアさん、俺達も乗せてください！俺達もモナカ島に行きたいんです！」

パエリア「わかりました。」

ココア「それなら皆さん、お乗りください！早速キャラメル王国に行きますよ！」

いちか「はい！」



## 第24話 キヤラメル王国の試練！コロツケとあおい！

いちか「すごいすごい！飛行船はじめて！」

ウスター「おおい、はしやいで跳ねるなよ。」

ペコリン「いちかは飛び跳ねる癖があるペコ。」

コロツケ「本当にうさぎみたいだな。」

パエリア「すると怪物とかはそのエクリップスという組織の作業なのですね。」

リゾット「はい、奴らはバンカーではなくプリキュアと同じ別の世界から来たんです。」

パエリア「なるほど、それであなたはそのサンサンキングダムという国から来たと言うのですね。」

ルイーザ「はい。それでこのに散らばってるクリスタルミニシャインを集めて旅しています。」

ココア「その1つがああのモナカ島にあるんだね。」

あおい「そうなんだ。」

ココア「みんな、そろそろキヤラメル王国に着陸するよ！」

ゆかり「あそこがキャラメル王国。」

ストロベリー「立派な町ね。」

その頃キャラメル王国の城

ピラフ「フオー王女!」

フオー「どうしました?ピラフ大臣。」

ピラフ「飛行船が向かって来ます!」

フオー「飛行船?」

城下町

いちか「ここがキャラメル王国!」

ピラフ「何者だ!」

いちか「えっ?」

ピラフ「さてはさっきの奴らの仲間だな!この悪党ども!」

いちか「待ってください!私達は」

ピラフ「黙れ!よそ者が信用できるか!」

リゾット「待つんだ!」

フオー「あなたはグランシュフ王国のリゾット王子!」

リゾット「久しぶりだな、フオー王女。」

## 城

フォー「先ほどはピラフ大臣がとんだご無礼を」

いちか「いえ、いいんです。」

コロツケ「俺達、この島に流れ落ちた宝石を探してるんだ。」

フォー「宝石？それって太陽の形をした？」

ルイーザ「知ってるのですか！」

フォー「ええ、このお城の裏の森に落ちていきました。」

コロツケ「よし！森に行こう！」

ピラフ「お前達みたいなよそ者に何ができる。」

あおい「ちよつと、なんだよその言い方！」

ピラフ「あの森におかしな怪物が現れたんだ！それをお前達のような馬の骨に何がで  
きる。」

あおい「さつきからイラつくな！」

ピラフ「フォー王女、こんな奴らに任せるわけにはいきません。」

フォー「みなさん、ピラフ大臣の態度には謝ります。ピラフ大臣は突然現れた集団に  
押し入られてからよそ者が信用できなくなってしまうって」

テキーラ「現れた集団だと？」

ゆかり「もしかして、黒い太陽の紋章をつけていなかったかしら？」

フオー「ええ、ご存知で？」

アユ「やつぱりエクリプスが来てるんだ！」

??「そいつらエクリプスって言うのか？」

パエリア「ズッキーニ！」

ズッキーニ「リゾット、コロツケ、久しぶりだな。パエリア先生も一緒でしたか。」

ひまり「あの人がズッキーニさん？」

シエル「翼がはえてる！」

パエリア「ズッキーニ、どうした？怪我をしているようだが。」

ズッキーニ「怪物と戦ってたら小さな子供がいたんだ。迷子かと思ったがその子供は怪物の仲間で油断してやられてしまった」

メンマ「怪物の仲間の子供？」

ドロツプ「まさかバブル！」

ズッキーニ「ああ、そういえばバブルって言ってたな。」

いちか「大変！フオー王女様！怪物は私達にまかせてください！」

ピラフ「フオー王女、こんな奴らを宛にしてはいけません。絶対ダメですわ！」

あおい「あんた本当にイラつくな！大体ここにいるコロツケを何だと思ってるんだ！」

ピラフ「なんだって言うんだ？女の癖にでしゃばるな！」

あおい「なにー！」

いちか「あおちゃん落ち着いて！」

フォー「ピラフ大臣もやめなさい！」

ピラフ「フォー王女の方がよすぎます！」

フォー「本当に申し訳ございません。ピラフ大臣が信じない以上お城の裏側に行かせるにはいきません。」

リゾット「俺でもか？」

フォー「リゾット王子とズツキーニはともかくですが……それならこれはどうでしょう？このお城の西側に祠があります。そこに伝説の腕輪があります。それを私に持つてくれば認めます。」

ルイーザ「それだけでいいのでもか？」

プリンプリン「なんだ、簡単じゃねえか！」

フォー「ですが祠には腕輪を守る獣がいます。極めて狂暴な獣です」

プリンプリン「極めて狂暴……」

オリーブ「さっきの強がりはどうしたの。」

コロツケ「その獣を倒して腕輪を持つてくればいいんだね。」

ソール「でも急がないとクリスタルミニシャインが」

ルイーザ「ソール、どのみちその試練をクリアしないとダメだがら。」

フォー「それに行く人の限られています。行けるのは2人までです。」

アーモンド「2人までか。」

コロツケ「よし、俺が行くよ。」

フオンドヴォー「それなら俺も行こう。」

スフレ「待ってください。私が行きますわ。」

ストロベリー「それなら私が。」

あおい「待って!私に行かせて!」

ひまり「あおいちゃん?」

あおい「あの大臣にイラついてな、だから私も行って謝らせてやる!」

スフレ「どうします?」

フオンドヴォー「これは止めても無理そうだな。」

ストロベリー「そうね。」

あおい「いちか、これを!」

いちか「えっ?スイーツパクト?」

あおい「変身してなくても女の底力みせてやる!あの偉そうな大臣に!行こうコロツ



ケ！」

コロツケ「うん！」

シエル「頑張つてね。」

あきら「でも、コロツケはともかくあおいちちゃんは心配だね。」

アーモンド「そうだな。変身アイテムを置いてつたんだからな。」

ゆかり「それにしてもコロツケとあおいつて珍しい組み合わせね。」

オリーブ「そうね。」

ピラフ「ふん」

バブル「あのおじいさん、利用出来そうね。」

西側の森

コロツケ「この先に伝説の腕輪があるんだな。」

あおい「だろうな。」

コロツケ「それよりあおい、変身アイテム置いてつて大丈夫なの？」

あおい「大丈夫だよ。絶対伝説の腕輪を手にいれる！」

そして森の奥

あおい「あつ！あんなあんな所に祠が！」

コロツケ「あそこに伝説の腕輪があるんだね。」

あおい「確か極めて狂暴な獣がいるんだっとな。どこにいるんだ?」

コロツケ「とりあえず伝説の腕輪を。」

獣「ギエー!」

コロツケ「なんだ!」

獣「ギエー!」

あおい「こいつが狂暴な腕輪を守る獣か!」

獣「ガア!」

コロツケ「あおい!気を付けろ!」

あおい「くそ!みてろ!」

ごそごそ

あおい「あれ?あつ!スイーツパクトいちかに預けたんだ!」

獣「ガアー!」

コロツケ「ハンマー伸!」

ガアン

コロツケ「あおい!大丈夫か!」

あおい「うん。」

コロツケ「あおい、下がってて、この獣は俺が何とかするから!」

あおい「わ、わかった！」

獣「ガア！」

コロツケ「ハンバーグー！」

あおい「あんまり効いていない！」

コロツケ「まだだ！」

あおい「くそ、こんなことなら強がってスイーツパクト渡さなければよかった。」

メンチ「ブヒ。」

あおい「メンチ？」

メンチ「ブヒブヒ！」

あおい「ついてこいって？」

メンチ「ブヒ！」

あおい「そうか！その間に伝説の腕輪を！コロツケ、何とかたえて。」

コロツケ「うおお！」

獣「ガア！」

あおい「あつた！伝説の腕輪だ！」

パシッ

あおい「よし！コロツケ！やったぞ！」

獣「ガアー!」

あおい「あつ!」

コロツケ「ハンマー伸!」

ドカツ

コロツケ「今だ!スーパ―ハンバーガー!」

獣「ガア!」

ドンドン

あおい「逃げてった。」

コロツケ「どうやらおっぱ間らったみたいだね。」

あおい「コロツケ、ゴメン。私が強がつて迷惑かけて。」

コロツケ「別にいいよ。強がつてもいいんじゃないかな?なんかその方があおいらしいし。」

あおい「そうか。よし!いちか達の所に戻ろう!」

キャラメル王国

あおい「あれ?」

コロツケ「なんだろ?」

いちか「あおちゃん!コロツケ!」

コロツケ「いちか！どうしたんだ？」

いちか「コロツケ達が戻るまでキャラメル王国の人達にスイーツをごちそうしてるの。新しいスイーツだよ。」

コロツケ「あつ！キャンディにナルト、ハンペンにクレープだ！」

いちか「キャンディのいちごクリームケーキにナルトのマフィン、ハンペンのかき氷とクリームのカップケーキだよ。」

パエリア「あの子スイーツ作りが得意なんですネ。」

ライム「おいしい。」

ズッキーニ「どれも生きてるバンクにそっくりだ！」

あおい「そうそう、フォー王女！腕輪を手に入れたよ！」

フォー「お見事です！まさかあの狂暴な獣から手に入れるなんて！いいでしょう。そのかわり私も合流します。この島の王女としてモナカ島を守る義務があるの。」

コロツケ「わかった。」

ピラフ「フォー王女、本当にそのよそ者を認めていいのですか！」

フォー「伝説の腕輪を手に入れた以上この方達に頼ります。ピラフ大臣、あなたも認めてはどうかしら？」

ピラフ「ふん！」

テキーラ「なんだ王女にたいするあの態度は。」

ドリアン「まあいいさ、少し頭を冷やさせておけ。」

フォー「それでは皆さん行きましょう。私が案内するわ。」

シエル「いよいよね!」

ルイーザ「ええ、4つつ目のクリスタルミニシャインがあるはずよ。」

ズツキーニ「行こう!」

そして

ピラフ「チツ、あのお人好し王女が!あいつが王女だからこの国は人が良すぎる国になつてしまったんだ。あのよそ者どもを受け入れる愚か者が!私がこの国の王になればキャラメル王国はよそ者を警戒する平和に国なる!前の王もどうかしておる、いつかフォー王女を追い出してキャラメル王国の王になつてやる!」

バブル「いろいろ苦勞してるみたいだね。」

ピラフ「貴様はさっきの!」

バブル「安心して。バブルは話に來ただけだよ。あの王女とよそ者達の事でイラついてるんでしょ?」

ピラフ「それはそうだが」

バブル「それならこうしよう。バブルと手を組もうあの王女を倒せばキャラメル王国

はおじさんの王国になるよ。それにバブルもあのよそ者達を倒さなきゃならない義務があるの。」

ピラフ「フオー王女を裏切れと言うのか？」

バブル「王女を追い出したいでしょ？ 追い出すより倒す方がいいと思うよ。」

ピラフ「・・・面白い、私もあのよそ者どもを倒すのを手伝おう。そしてフオー王女を倒して私がキャラメル王国の王になり、手を組もう。」

バブル「決まりだね。」

つづく

## 第25話 海のモンスター!

キャラメル王国の裏の森

フォー「怪物はこの森に現れて。」

ズッキーニ「たいしか事はなかったがかなりの数だった。」

いちか「あの兵士だね。」

ズッキーニ「いや、兵士ではなかった。」

コロツケ「えっ? あいつらじゃないのか?」

水の怪物「ズー!」

ペコリン「なにペコ!」

ズッキーニ「あいつらだ!」

リゾット「あの怪物、どこかで・・・」

ウスター「ツメトギスラツシユ!」

ウインナー「風のエチュード!」

水の怪物「ズウ!」

ザアン



メンマ「なんだ？弱いな。」

リゾット「そうか思いだした！今のはヌカ砂漠の砂の怪物に似ている！」

あきら「あの時か！」

アユ「ヌカ砂漠の砂の怪物？」

フオンドヴォー「ああ、今の水のモンスタークリスタルミニシャインの力で生み出した奴だ。」

チヨコパイ「クリスタルミニシャインは大きな怪物になるだけじゃなかったのか？」

ルイーザ「ええ、大きな怪物になるだけでなくモンスターを生み出す事もできるの。」

ウイスキー「そうだったのか。」

ヤキトリ「とんでもない秘宝だな。」

ルイーザ「ええ、クリスタルミニシャインは諸刃の剣だから。」

ザアン

いちか「あつ！イルカだ！」

あおい「えっ！川なのに！」

シエル「アマゾンノ、カワイルカじゃない？」

あきら「でもあれは海のイルカだ。」

フォー「そうよ、それは川のように川ではないは。」

ドロップ「えっ？」

ペロツ

ドロップ「しょっぱい、この川、海だわ！」

ひまり「でもどうして海水が？」

フオー「このモナカ島は昔島の中心に海水が吹き荒れたの、それ以来海の川が流れるようになったのよ。」

ゆかり「この島にそんな事が、イルカがいるって事はサメもいたりするの？」

フオー「たまに来るわ。」

アーモンド「危ねえ川だな」

シャーベット「ルイーザ、ちよつといいか？」

ルイーザ「なに？」

シャーベット「もしかしてクリスタルミニシャインはその島の中心にあるんじゃないのか？」

ルイーザ「そうね、可能性はありそうだわ。」

コロツケ「フオー、そこに案内してよ。」

フオー「わかったわ。こっちよ。」

島の中心

フオー「ここよ。」

いちか「ここが海水が吹き荒れた始まりの場所なんですか。」

ひまり「まるで大きな湖ですね。」

キャベツ「小さな島のような岩がたくさんで風流でつす。」

ルイーザ「みんな！あれを見て！」

コロツケ「クリスタルミニシャインだ！」

ズツキーニ「あれが！」

ペコリン「ペコリンが取ってくるペコ。」

ザアン

ペコリン「ペコ！」

いちか「ペコリン！」

シエル「なに！」

バブル「ようこそ、邪魔な人達。」

ズツキーニ「お前は！」

リゾット「バブル！」

パエリア「あの子がエクリプスのメンバーなのですね。」

バブル「それからもう一人。」

タツ

フォー「ピラフ大臣!」

あきら「なんでエクリップスに!」

バブル「この大臣さん。バブルの味方になってくれたの。」

あおい「あの大臣、フォー王女を裏切ったのかよ!」

フォー「ピラフ大臣、どうして!」

ピラフ「フォー王女がいけないんだ!」

フォー「えっ?」

シエル「まさかフォー王女がお人好し過ぎるからって言うんじゃないの!」

ピラフ「そうだ!フォー王女が誰でも受け入れるからこんな騒ぎになるんだ!」

アーモンド「あのじいさんどうかしてるぜ。」

いちか「ピラフ大臣!あなたはそのエクリップスのメンバーに騙されているんですよ!」

ピラフ「知つとるわ!」

バブル「えっ?知ってたの。」

ピラフ「騙されているのは知つとる。だが王女を倒して私がキャラメル王国の王になるにはちょうどいいんだ!」

バブル「バブル達を逆に利用してたんだね。でもいいや、あいつらを倒せばそれでいいもん。それじゃ早速。」

ドボン

ルイーザ「クリスタルミニシャインが海に！」

ズズズ

コロツケ「なんだ！」

海坊主「ボウズ！」

誠司「海坊主だ！」

いちか「みんな！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「ショートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

フオー「えっ、変身した！」

コロツケ「あいつらはプリキュアだ！」

フオー「プリキュア？」

パエリア「あれがいちかさん達の変身なのですわね。」

リゾット「はい！」

ピラフ「あいつらがそのプリキュアか。」

バブル「そうだよ、あいつらを倒すのがバブル達の役目。」

バブル「海坊主！やっちゃええ！」

海坊主「ボウズー！」

コロツケ「ハンマー伸！」

バチャン

コロツケ「ハンマーが効かない！」

ウスター「奴の体は海水だ！接近攻撃じゃ歯が立たねえぞ！」

リゾット「それなら魂キャン！」

バチャン

リゾット「長距離技でもダメなのか！」

キュアカスタード「あれではダメーじが与えられません！」

バブル「さて、またやられに来るなんてこりないね。」

ズッキーニ「黙れ！今度は倒して見せる！」

バブル「ふん、バブルボンバー！」

ボンボン

ズッキーニ「うあ！」

フォー「何て事を！」

ピラフ「こうなったのもあんたのせいなのですよ。」

フォー「ピラフ大臣！」

ピラフ「これでお分かりいただけましたかな。自分の愚かさを。」

フォー「待って！例えそうだとってもあなたの考えは間違ってる！」

ピラフ「やれやれ、こんな騒ぎになってるのにお分かりいただけなんってどうかしてますな。やはりあんたには消えてもらいますよ！」

水のモンスター「ズー！」

誠司「てや！」

ルイーザ「誠司！」

誠司「ここは任せろ！」

パエリア「誠司君、私の加わります！」

誠司「お願いします！」

プリンプリン「そうだ！ストロベリー！雷で海坊主を倒すんだ！」

ストロベリー「ダメ！そうは考えたんだけど！そんな事したら海の生き物達が感電しちゃう！もちろんみんなも。」

海坊主「ボウズ！」



キュアホイップ「くるよ！」

キュアパルフェ「そうだ！感電がダメなら、凍らせて体を硬くすれば！」

キュアシヨコラ「それだ！ジェラート、シャーベット、できる？」

キュアジェラート「よし！」

シャーベット「それなら任せろ！」

海坊主「ボウズー！」

シャーベット「だがうまく近付けない。」

バブル「海坊主！そのまま倒しちゃえ！」

ズッキーニ「そうはさせない！」

バブル「あんたがバブルを倒せると思ってるの？」

ズッキーニ「勝負は最後までわからない！」

誠司「はあ！」

パエリア「ガトリングドロップ！」

水のモンスター「ズー！」

ピラフ「生意気な子供だ！」

フオー「ピラフ大臣、考え直して！あなたの言いたい事はわかってる。確かに私はお

人好しよ。」

ピラフ「そうだ。なのになぜ前の国王は私ではなくあんなにした! キャラメル王国を考えてる私ではなくあんななんだ!」

フォー「言うしかないわね。」

ルイーザ「えっ?」

フォー「前の国王は・・・お父様はあなたを王に候補してた。」

ピラフ「なんだと!」

フォー「お父様はピラフ大臣はキャラメル王国をよく考えてくれていた。私も次の王はピラフ大臣がいいと思っていた。でもあなたは王様としての優しさはかけていた! だからあなたは王様になる事は出来なかつたのよ。」

ピラフ「そんな・・・前の国王もあんなも私を考えていたなんて」

フォー「黙っていてごめんなさい! いつか言おうと思ってたけど」

ピラフ「私は間違っていたのか」

バブル「役立たずな大臣ね! 海坊主!」

海坊主「ボウズー!」

コロツケ「くるぞ!」

キュアマカロン「みんな、私に作があるわ。」

キュアホイップ「本当ですか!」

キュアマカロン「シャーベット、氷の結晶を。」

シャーベット「なるほど、いいだろう。コールスロー！」

キュアマカロン「ジェラート！その結晶に乗りなさい！」

ジェラート「よし！」

海坊主「ボウズ！」

ジェラート「おりゃー！」

海坊主「ボウズ！」

カチカチ

シャーベット「私もいくぞ！アイスバスター！」

海坊主「ボウズー！」

Tーボーン「海坊主が凍つくツペ！」

カチン

キュアカスタード「海坊主が固まりました！」

キュアマカロン「いくわよ、キラキラキラルン！マカロン・ジュリエヌ！」

海坊主「ボウズ！」

パリン

ソール「クリスタルミニシャイン！」

パシッ

ルイーザ「やった!」

バブル「あっ!クリスタルミニシャインが!」

ズッキーニ「残念だったな。」

バブル「この!バブルボンバー!」

ズッキーニ「その技は見切ったぞ!ハード・ブレイク!」

パンパンパン

バブル「うそ!」

ズッキーニ「とどめだ!エターナル・シヨック!」

バブル「きやあ!」

ポチャン

リゾット「やったぞ!ズッキーニ!」

パエリア「見事です!」

ズッキーニ「はい!」

バブル「くそく、取り返してやる!」

???「ここまです。バブル。」

バブル「フリーズ!」

フリーズ「何でここって顔ですな。わかってるんでしょ。」

バブル「待って！バブルはまだ子供なんだよ！」

フリーズ「大口叩いてた割に命乞いするとは見苦しい。それにエクリプスは老人でも子供でも容赦はしません！」

ビー

バブル「うあああ！」

カチーン

パリーン

ズツキーニ「あいつは！」

スフレ「コロツケ！あの人の付けてる紋章！」

コロツケ「エクリプスの紋章だ！」

キュアホイップ「バブルを消したんだもん！エクリプスに間違いないよ！」

フリーズ「フツ。」

ビー

ドリアン「海を凍らせて橋を作りやがった！」

フリーズ「お初にお目にかかります。僕はエクリプスの頭脳派、フリーズです。見ての通りキミ達のように氷の能力を使います。」

キュアパルフェ「意外と礼儀正しい口調なのね。」

キュアホイップ「うん。」

フリーズ「今日は挨拶だけで引き下がりますよ。けど次はクリスタルミニシャインは貰いますよ。その時はキミ達の命も凍らせますから。すべてはあの方の為に。」

フォンドヴォー「あの方? 待て! エクリプスにはさらに上の奴がいるのか!」

フリーズ「・・・あなたが知る必要はありません。」

タツ

フランク「エクリプスの上の奴か。」

マスタートード「ルイーザ、知ってるか。」

ルイーザ「いいえ、知らないわ。」

キャラメル王国の城

フォー「あなた達のおかげでキャラメル王国に平和が戻りました。」

いちか「はい!」

あおい「あつ、大臣。」

フォー「ピラフ大臣、どこに行くのです。」

ピラフ「私はフォー王女を裏切りまし。もうこの城に居られません。私はこの国から出ていきます。」

ひまり「そんな」

フオー「待つて！あなたが出ていく必要はないわ。確かにあなたは私を倒してキヤラメル王国の王になろうと企み私を裏切った。けど原因は私のお人好し過ぎる性格がいけなかったのかもしれない。」

ピラフ「そんなことありません！王女はなに1つ間違つてはいませんでした。間違つてたのは私です。」

フオー「ピラフ大臣、あなたは出ていく必要はありません。あなたには私を裏切った罪として2つの罰をあたえます。」

ピラフ「2つの罰、それは何ですか」

フオー「1つは大臣見習いとして1からやり直してもらいます。」

ピラフ「もう1つは」

フオー「見習いから大臣に戻つたら一生大臣の刑になります。ずっと大臣として働いてもらいます。」

ピラフ「フオー王女」

フオー「頼みますよ、ピラフ大臣見習い。」

ピラフ「はい！申し訳ございませんでした！」

コロツケ「よかつたな。」

いちか「うん。フォー王女はお人好しじゃなくてすごく優しいだね。」  
城下町

ソール「これでクリスタルミニシャインが4つ揃ったよ。」

ルイーザ「残りは後3つつ。」

ズッキーニ「リゾット。この戦いの旅、俺とパエリア先生も加わることにした。」

コロツケ「えっ！一緒に来てくれるの！」

パエリア「もちろんです。」

ゆかり「とても心強いいわね。」

あきら「よろしくお願いします。」

キラーン

ひまり「クリスタルミニシャインが光りました！」

シエル「あっちを指してるわ。」

ココア「よし、あそこまで送ろう。飛行船に乗って。」

ルイーザ「ありがとうございます。」

リゾット「それにしても、フリーズが言ってたあの方とは一体何者なんだ」

つつく



## 第26話 ルイーザの家族

サンサンキングダム之城

Dr. ボイズン「奴ら、とうとう4つつもクリスタルミニシャインを集めたそうだな。」

フリーズ「そうですね。でも心配いりませんよDr. ボイズン。次は僕が彼らを始末します。僕の頭脳ならクリスタルミニシャインも簡単には手に入れますから。」

Dr. ボイズン「ほお、言うじゃないか。期待しよう。」  
檻

みらい「いちかちゃん達どうしてるかな。」

リコ「クリスタルミニシャインを集めるのにまだ時間かかるかもしれないわね。」  
はるか「そうですね。」

ことは「はー、魔法の杖があれば出られるのに。」

チャールズ教授「皆さん、プリキュアの皆さん。」

なぎさ「チャールズ教授？」

ほのか「どうかしたの？」

チャールズ教授「いろいろな調べました。私が奴らのコンピューターをハッキングしてこの檻を開けます。」

みなみ「そんなことできるの！」

チャールズ教授「はい、ですがかなり時間かかります。もう少しお待ちを。」

みらい「わかった、頑張つて。」

チャールズ教授「絶対に出してみせる！」

その頃

あおい「飛行船は便利だな。今まで歩いていたけど楽だ。」

ひまり「そうですね。楽だからTーポーンさんは」

Tーポーン「ぐごく」

誠司「相変わらず良く寝る奴だな。」

ウスター「そうだな。」

アユ「お兄ちゃん、今度はどこに行くんだろ。」

メンマ「そうだな。まっ、険しい所だろうがな。」

ルイーザ「お兄ちゃん・兄か」

ソール「ルイーゼ様を思い出したのですね。」

ルイーザ「ええ。」

コロツケ「どうしたんだルイーザ。」

いちか「話が聞こえたけどルイーゼって。」

ソール「ルイーザ様の兄なんだ。」

ストロベリー「ルイーザの兄？」

あきら「するとその人は王子様！」

ルイーザ「ええ、3つ上の兄なの。」

ゆかり「3つ上となると私達と同じ歳ね。」

あきら「そうだね。」

ルイーザ「ルイーゼお兄様は太陽の光の力を持つ勇者で太陽のように明るくやさしかったわ。」

いちか「太陽の光の力を持つてるんだ。」

プリンプリン「なあルイーザ、そのルイーゼも囚われてるのか？」

ルイーザ「兄は両親と一緒に行方不明なの。」

コロツケ「えっ？」

ルイーザ「サンサンキングダムはエクリップスに襲われる前巨大な怪物にクリスタルシャインを狙われて襲ってきたの。」

シエル「その怪物もクリスタルシャインを？」

ルイーザ「その時、お父様とお母様、そしてルイーゼお兄様が怪物を倒したんだけど。その戦いからお兄様達はクリスタルシヤインの前から姿を消してしまったの。お兄様、お父様、お母様、どこにいるの……」

いちか「ルイーザ……」

ペコリン「ペコ？なんだか寒くないペコ。」

チヨコパイ「そういえば？」

フォンドヴォー「みんな、外を見てみる。」

ウイスキー「雪だ！」

あおい「寒いと思っただけの間に雪原に来てたのか。」

グラグラ

ヤキトリ「ココアさん、どうしました！」

ココア「吹雪が！このままでは墜落してしまいます！」

ゆかり「どこかで降りるしかないわね。」

ウスター「ずいぶん落ち着いていられるな。」

シエル「あつ、村があるよ！」

ココア「あそこでおります。」

ブルーベリー村

リゾット「ここはブルーベリー村か。」

コロツケ「懐かしいなバジル。」

バジル「ああ。」

いちか「えっ？コロツケとバジルってこの村で出会ったの？」

コロツケ「そうじゃないんだ。俺達はこのあたりで戦ったんだよな。」

バジル「そうだな、敵として。」

テキーラ「俺もそうだ。」

ウスター「今思えば敵だったバジルとテキーラが仲間になって不思議だぜ。」

シエル「そうだったんだ。」

ビューー！

あおい「吹雪がひどくなってきたぞ！」

ゆかり「あのペンションに入るしかないわね。」

ペンション

ルイーザ「あく寒かった」

誠司「ひどくなる前で助かったな。」

オリーブ「でも参ったわね。クリスタルミニシャインを探してるのに。」

ソール「あっ！」

ひまり「どうしたんですか？」

ソール「クリスタルミニシャインの反応が薄れてきてる。」

コロツケ「なんだって！」

ルイーザ「それじゃクリスタルミニシャインはあっちにあるって事！」

ペコリン「でもこの吹雪じゃ出られないペコ。」

フォンドヴォー「そうだな。」

??? A「大丈夫、そう少いで収まるわ。」

いちか「えっ？」

コロツケ「テト！」

??? B「ワシらもいるぞ。」

??? C「ヤッホー！コロツケ！」

コロツケ「じーちゃんにポー！」

あきら「コロツケの知り合いなんだね。」

テト「はじめまして。いちかちゃん。」

いちか「えっ！何で私の名前知ってるの！」

コロツケ「じーちゃんの占いだね！」

タロ「うむ、ワシの名はタロ。」

あおい「意外と普通の名前か？」

ひまり「タロ芋の事でしようか？」

ポー「私はポー。こっちは妹のテト。」

誠司「名前を会わせるとポテトなんだ。」

シエル「そうなんだ」

タロ「よろしく頼むぞ。プリキュアのキミ達。」

あきら「あの占いで私達がプリキュアって事がわかるんですか。」

タロ「うむ、お主達がここに来るのも占いで見てこの村に先回りしてたんじゃ。」

テト「あなたも大変なだったわね、ルイーザさん。」

ルイーザ「私の事もわかったんですか。」

パエリア「相変わらず凄腕の占い師ですね。」

ズッキーニ「さすがにバーグの師匠だ。」

いちか「すごいおじいさんなんだ！」

誠司「だが実は今は真面目に話してるのは仮にみたいな者なんだ。」

ひまり「どういう事ですか？」

タロ「本当にひどい吹雪じゃ、雪はとても冷たいでスノー！だっはは！」

ゆかり「本来の姿はダジャレ好きの占い師って事ね。」

テト「おバカ！」

タロ「ぐげ！」

誠司「相変わらずだな。」

タロ「痛たたたた」

ルイーザ「おじいさん、お兄様、ルイーゼお兄様はどこにいるのか占ってください！」

ポー「ルイーゼお兄様？」

ひまり「ルイーザさんのお兄さんでサンサンキングダム王子様です。」

タロ「そうじゃな、やってみるかの。」

あおい「本当にわかるのか？」

タロ「うくん、占ったところそのルイーゼ王子はとそなたの両親は生きとるのは明らかじゃ。」

コロツケ「本当なのか！じいちゃん！」

ルイーザ「それでお兄様達は今どこに！」

タロ「どうやらサンサンキングダムにいるらしいぞ。」

ルイーザ「サンサンキングダムに!？」

ソール「そんなバカな！ルイーゼ様達が姿を消してかなり探したのにサンサンキングダムいるなんて」



タロ「わかったのはそれだけじゃ、後はわからん。」

ズツキーニ「手掛かりは無しか。」

ルイーザ「でもお兄様達はサンサンキングダムにいる、お兄様達は生きてる！コロツケ！いちか！早くクリスタルミニシャインを集めてサンサンキングダムに行こう！」

コロツケ「もちろん！」

いちか「私も頑張るよ。」

テト「見て！吹雪がやんだわ！」

コロツケ「よし、クリスタルミニシャインを探しい行こう！」

ルイーザ「みんな！張り切って行こう！」

いちか「お兄さんが生きてるってすっかり張り切ってるね。」

ひまり「そうですね。」

タロ「みんなでシャイン見つけなシャイン！」

ズコツ

テト「台無しにしない！」

タロ「ぐげ！」

つづく

## 第27話 再会!プリンセスバンカー!

雪原の森

コロツケ「この辺にあるの?」

ソール「そのはずなんだけど。反応がかなり薄くなってるから。」

いちか「するとこのあたりのどこかにあるの。」

タロ「ムツ!誰じゃ!」

雪だるまモンスター「ユツキー!」

ひまり「雪だるま!」

フオンドヴォー「クリスタルミニシャインの力で生まれたモンスターだな。」

フリーズ「その通りです。」

ポー「あなたは?」

コロツケ「お前はフリーズ!」

テト「もしかしてエクリプスの!」

フリーズ「はじめてお会いする人もいますね。」

いちか「やっぱりあなたもクリスタルミニシャインを探しに来たのね。」

フリーズ「フフフ、これを。」

ルイーザ「クリスタルミニシャイン！」

フリーズ「さつきそこで手に入れましたよ。そして皆さんが持つてるクリスタルミニシャインもいただきので倒させてもらいます。」

あおい「化け物を呼ぶ気かよ！」

フリーズ「その心配にはおよびません。あなた方なんぞ僕の頭脳は戦略で倒すとしましよう。その者達と一緒にね！出てくるのです！」

雪だるまモンスター「ユツキ！」

いちか「いくよ！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を!」

あおい「自由と情熱を!」

ゆかり「美しさときめきを!」

あきら「強さと愛を!」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり!」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ!できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり!」

テト「あれがいちかちやん達のプリキュア姿!」

ポー「スイーツがモチーフなのね。」

フリーズ「雪だるまモンスター、兵士達、プリキュアとバンカーを倒すのです!」

悪兵士「おー!」

雪だるまモンスター「ユツキー!」

コロツケ「ハンバーグー！」

悪兵士A「ぐあ！」

キュアホイップ「はあ！」

雪だるまモンスター「ユキ！」

フリーズ「僕もいきますよ、フリーズボール！」

キュアカスタード「きゃあ！」

メンマ「大丈夫か！ひまり。」

キュアカスタード「はい、大丈夫です。」

アユ「ひまり！足が凍ってるよ！」

フリーズ「フリーズボールは当たる度に体が凍っていきます。いくらでも攻撃します

よ。フリーズボール！」

テキーラ「チツ、テメエらあの野郎の攻撃に気を付けろ！」

キュアパルフェ「わかつたわ！」

雪だるまモンスター「ユキー！」

コロツケ「ハンマー伸！」

ドス

キュアカスタード「足が凍って思うように動けません」

コロツケ「いちか!ひまりを!」

キュアホイップ「わかったわ!カスタード、こっちに!」

フリーズ「させないよ、フリーズボール!」

キュアホイップ「きやあ!」

キュアショコラ「ホイップ!」

キュアホイップ「腕が!」

フリーズ「今度のもつと痛い思いを味割らせてあげますよ。」

ウスター「でええ!」

プリンプリン「しかも棘つきかよ!」

コロツケ「やめろフリーズ!」

悪兵士A「行かせるかよ!」

キュアジェラート「兵士とモンスターが多すぎる!」

フリーズ「2人まとめて傷だらけで凍るのです!」

テト「いちかちゃん!ひまりちゃん!」

???「アクアブラスター!」

ザア

フリーズ「なに!」

ズッキーニ「アクアブラスター！」

リゾット「まさか！」

???「危なかったわね、あなた達。」

コロツケ「ポトフ！」

ポトフ「コロツケ、久しぶり。」

ペコリン「誰ペコ？」

誠司「以前コロツケやプリキュアと共に戦った深海世界のバンカーだ。」

フォンドヴォー「ポトフ、何でこの地上世界に！」

ポトフ「話は後よ、今は彼を倒さないで。」

フリーズ「誰だか知りませんが僕の邪魔をする者は許しません！」

ポトフ「コロツケ、彼は私がやるわ！」

コロツケ「大丈夫か？」

ポトフ「任せて。私の修行の成果を見せてあげる！」

フリーズ「フリーズボール！」

ポトフ「アイスブラスター！」

ザア

フリーズ「くっ！」

オリーブ「あのバトルに自信がなかったポトフが前より強くなってる!」

ドリアン「ああ!」

ポトフ「アクアビーム!」

フリーズ「うあ!」

コロツケ「108ハンバーガー!」

雪だるまモンスター「ユツキー!」

キュアホイップ「キラキラキラル!キラキラル!」

悪兵士「うあ!」

フリーズ「くっ!食らいなさい!フリーズボール!」

ペコリン「またでかいペコ!」

ソール「ポトフ!危ない!」

ポトフ「アクアブラスター!」

フリーズ「なに!」

キュアシヨコラ「自分の技で飛んだ!」

キュアマカロン「彼女、やるわね。」

ポトフ「いくわよ!アクアビッグバン!」

フリーズ「うわあ!」



ドサツ

ポトフ「やったわ！」

コロツケ「すげえ！すげえよポトフ！」

フリーズ「参りましたよ」

リゾット「意外と素直だな。」

キュアジェラート「さあ、クリスタルミニシャインを返すんだ。」

フリーズ「いいでしょう、その代わり僕に面白いパフォーマンスを見せてください。」

キュアホイップ「パフォーマンス？」

フリーズ「コロツケとポトフでバンカーバトルをやってもらいます。」

コロツケ　ポトフ「「えっ！」」

フリーズ「いやとは言わせませんよ。断ればクリスタルミニシャインは真つ二つです

から！」

キュアカスタード「なんですすって！」

ドロツプ「なんて卑怯なの！」

フリーズ「さあどうします。僕は素直に降参したのですよ。」

ポトフ「コロツケ、戦おう！」

コロツケ「ポトフ！」

ポトフ「私、この地上世界で旅したらコロツケとバンカーバトルしたいと思ったの！  
例え敵の罠でも私はコロツケと戦いたい！」

コロツケ「そうか、それない戦おう！フリーズに勝ったポトフの実力、見せてもらおうぞ！」

フリーズ「決まりですね。」

キュアマカロン「・・・」

コロツケ「いくぜポトフ！」

ポトフ「勝負よコロツケ！」

つづく

## 第28話 ウードン決戦！コロツケ対ポトフ！

フリーズ「それではコロツケ対ポトフ、はじめて！」  
ダッ

ウスター「いきなり2人が動いた！」

ポトフ「アクアビーム！」

コロツケ「ハンバーガー！」

ザアン

ポトフ「相変わらずやるわね。」

コロツケ「ポトフもやるね。ハンバーガー！」

ポトフ「アクアブラスター！」

コロツケ「うっ！」

ポトフ「どんどんいくよ！ドルフィン流星群！」

コロツケ「うあ！」

キュアジェラート「すげえ！」

キュアホイップ「ポトフがコロツケを圧してる！」

ドロップ「本当に信じられないわ、あのポトフがあんなに強くなってたなんて」

キュアカスタード「ポトフさんって前はそれほどでもなかったんですか?」

ウスター「ああ、バンカーバトルに自信がなくなっただけの少ししか戦えなかったんだ。」

プリンプリン「しかも新しい技まで使ってたやがる!」

ダイフクー「こりやおメエらよりやれるかもな。」

ウスター「プリンプリン」「うっ!」

コロツケ「うわ!」

フリーズ「ほお、あのお嬢さんやりますね。」

キュアパルフェ「ポトフ、本当に強い!」

リゾット「俺達と別れてかなり立つがあそこまで強くなるなんて!」

スフレ「ポトフもかなりの修行をしたのでしよう。」

コロツケ「108ハンバーグ!」

ポトフ「キュア!これがコロツケの拳・効いたわ!でも私はコロツケに勝つ為に頑張って修行をしてきたんだもん!絶対勝ってみせる!」

コロツケ「俺も負けるもんか!」

フリーズ「これはすごいバトルになりましたね。どんどん戦うのです。」

キュアマカロン「・・・」

コロツケ「ハンバーグー！」

ポトフ「キヤア！」

キュアホイップ「コロツケのハンバーグーが決まった！」

ポトフ「コロツケのハンバーグー、これも効いたわ！でもまだまだこれからよ！まだ終わらせたくないわ。」

コロツケ「俺も終わらせたくないね。」

ポトフ「終わらせたくないけどこれで決める！ウー！」

コロツケ「なに！」

リゾット「あれはまさか！」

ポトフ「ウードン！」

コロツケ「うわ！」

キュアホイップ「なに今の！凄いパワー！」

誠司「ウードンだ！時間にかかる技だが凄まじいパワーを秘めたパンチだ！」

キュアカスタード「ウードン」

フォンドヴォー「でもなんでポトフが！」

ポトフ「どうコロツケ？ウードンのパワーは。」

コロツケ「すげえなポトフ、まさかウードンが使えるなんて。それなら俺も見せてや

る!ウードン!」

ポトフ「キヤア!」

キヤアパルフエ「コロツケもあの技を!」

コロツケ「はあはあ」

ポトフ「はあはあ」

ペコリン「ペコ、コロツケとポトフ、もう限界ペコ!」

タロ「そうじゃな、次の一撃が決着をつけるじやろ。」

ポトフ「今度こそこの技で決めるわ!アクアビッグバン!」

キュアシヨコラ「あれはフリーズを倒した技だ!」

コロツケ「ギュードン!うおおお!」

ズバン

ポトフ「キヤア!」

ドサツ

コロツケ「どうだ!」

ポトフ「はあはあ、まだまだね。降参」

キュアホイップ「コロツケの勝ちね。」

キュアジェラート「こりや凄いバトルだ。」

ポトフ「私もまだ修行が足りないわ。」

コロツケ「ナイスファイト、ポトフ。」

ポトフ「ありがとう、コロツケ。」

フリーズ「いや〜凄いバトルでしたよ。最高のパフォーマンスでした!」

ルイーザ「最高のパフォーマンス見せたんだから。クリスタルミニシャインを返して。」

フリーズ「そうですね。」

キュアマカロン「とかなんとか言って返す気ははじめからからないでしょ。」

フリーズ「えっ!」

キュアマカロン「コロツケとポトフを戦わせたのもあなたの作戦だったんでしょ。」

ドリアン「なんだと!?!」

キュアマカロン「コロツケとポトフを戦わせて体力を削ってチャンスを狙っていたのよ。そうでしょフリーズ?」

フリーズ「くっ、おみとうしでしたか。」

キュアマカロン「あなたは頭脳派と同時に悪知恵も働くみたいね。」

キュアジェラート「汚いぞ!」

フリーズ「黙りなさい!バレたからには仕方ないですね。こうしてやります!」

ズズー

雪男「スノー!」

ポトフ「何が起きたの!」

ルイーザ「クリスタルミニシャインの力で怪物を生み出したのよ。」

フリーズ「後は頼みましたよ。キミ達が勝てたとしてもクリスタルミニシャインは僕  
の物ですから!」

タツ

リゾット「待て!」

キュアパルフェ「私達が勝てたとしてもクリスタルミニシャインはフリーズの? どう  
いう意味?」

フォンドヴォー「それよりあの化け物を倒すぞ!」

キュアホイップ「よし、いくよ!」

つづく



## 第29話 雪原の化け物！

雪男「スノー！」

ポー「まさかあの宝石が怪物を生み出すなんて！」

テト「これがクリスタルミニシャインの力なの！」

キュアホイップ「うん、テトちゃん達はそこに隠れて！」

コロツケ「誠司、こんな役ばかりで悪いけどルイーザ達を守って！」

誠司「任せろ！これも大事な役割だからな。」

コロツケ「うん、ありがとう。」

オリーブ「コロツケ、ポトフ、あなたも下がってた方がいいわ。」

ポトフ「えっ？」

キュアシヨコラ「確かに2人は戦って体力も限界だ。ここは私達に任せて。」

ポトフ「大丈夫よ！まだまだ戦えるわ！」

コロツケ「俺もやるぞ！」

キュアジエラート「無理するなよ。」

雪男「スノー！」

キュアシヨコラ「みんな!くるよ!」

コロツケ「雪の体なんて溶かしてやる!ハンバーグー!」

じゅく

コロツケ「えっ?」

リゾット「あんまり効いていないぞ!」

雪男「スノー!」

キュアカスタード「どうします?」

雪男「スノー!」

ぶおー

プリンプリン「でええ!」

カチーン

コロツケ「プリンプリン!」

キュアパルフェ「気をつけて!あいつのプレスは人を凍らせていくわ!」

誠司「みんな頑張れ!プリンプリンが凍死してしまう!」

ポトフ「わかったわ!」

キュアジェラート「けどどうするんだ、コロツケのハンバーグーがあんまり効かない

し」

リゾット「溶かすのがダメならこれはどうだ！王国セイバー！」  
ジャキン

雪男「スノー！」

ピタ

マスタード「切れた体がくつついた！」

キュアカスタード「雪だか平気なんですわね！」

キュアパルフェ「それならレインボーリボン！」

バラツ

キュアパルフェ「えっ!？」

雪男「スノー！」

ぶおードン

キュアパルフェ「キュアア！」

カチーン

キュアホイップ「パルフェ！」

コロツケ「プリンプリンどころかシエルまで！」

アーモンド「どうするんだよ！このままじゃ俺達まで凍る一方だ！」

フランク「焦るな、奴に弱点はあるはずだ。」

コロツケ「それならハンマー伸！」

スツ

キュアシヨコラ「かわされた！」

キュアマカロン「頭はよけた? ・ ・ ・ 体は壊れてもすぐに直るのに ・ ・ ・ なるほどね。」

テキーラ「何がなるほどなんだ？」

キュアマカロン「あの雪の怪物、頭が弱点なのよ。」

フオンドヴォー「そうか! 頭にクリスタルミニシャインがあるから!」

キュアマカロン「そのためにはまずあの体をどうにかしないとね。いい考えがあるわ。リゾット、もう一度体を壊して。」

リゾット「よし! W王国セイバー!」

スフレ「竜巻切り!」

テキーラ「シザースホーン!」

ジャキン

雪男「スノー!」

キュアマカロン「今よ! 小さくなった体ならいける!」

ストロベリー「任せて! エレキホイール!」

ザアン

雪男「スノー!?」

キュアマカロン「後は私よ!キラキラキラル!マカロン・ジュリエンヌ!」

雪男「スノー!」

ボサツ

パリン

プリンプリン「ぶは!」

キュアパルフェ「助かったわ!」

ソール「あつ!クリスタルミニシャインが!」

ポトフ「あっち飛んでいっちゃった。」

ルイーザ「あつちはフリーズが走っていった方だわ。」

キュアシヨコラ「まさかフリーズは私達が怪物を倒す事をとクリスタルミニシャインがあつちに飛んでいく事を知って計算していたんだ!」

キュアホイップ「えっ!」

キュアマカロン「やっぱりは彼は頭脳派ね。」

ウスター「感心するな!取りにいくぞ!」

その奥

ペコリン「見つからないペコ。」

コロツケ「どこに飛んでいったんだ？」

キュアカスタード「まさかフリーズが持つて行ったんじや」

キュアジェラート「まさか」

リゾット「誰だ！」

フリーズ「・・・」

キュアパルフェ「フリーズ！」

アーモンド「また来やがったな！」

オリーブ「待って！様子がおかしい」

フリーズ「ううう」

ドサツ

キュアホイップ「えっ！フリーズが倒れちゃった！」

テト「ポトフの攻撃が今さら来たの？」

リゾット「いや違う、それにこのやられ方はどこかで」

キュアホイップ「でも誰が？」

???「そいつは俺がやったんだよ。俺にたてついたからな。」

ザツ

コロツケ「ブルックス！」

ブルックス「久しぶりだな。」

キュアカスタード「誰がですか？」

ポトフ「私の国を襲った組織の元幹部よ。」

オリーブ「まさかブルックス、その男も一撃で！」

ブルックス「当然だ。一撃で倒せる雑魚だからな。」

リゾット「エクリプスの幹部まで一撃だと！」

フォンドヴォー「ポトフの攻撃でダメージもらったとはいえ、簡単には倒せる奴ではないのに！」

キュアジェラート「あいつ、そんなに強いのか？」

ポー「うん、リゾット達を本気出さずに一撃で倒せる実力があるの」

ブルックス「貴様らが探してるのはこれだろ？」

ルイーザ「クリスタルミニシャイン！」

タロ「飛んでいったところ手に入れたのか！」

ルイーザ「ブルックス、お願い！その宝石は私達の大切な物なの。」

ブルックス「・・・くれてやる。」

ルイーザ「えっ？」

ブルックス「俺には不必要だからな。だがコロツケ、俺と勝負しろ！」

コロツケ「えっ!」

ブルックス「あの時のかりを返す為に今度こそ決着をつける!」  
ポトフ「待つて!コロツケは私のバトルで体力は限界なのよ!」

コロツケ「いいよ、勝負だブルックス!」

キュアホイップ「コロツケ!」

コロツケ「これくらいどうってことないよ。」

ブルックス「良い心構えだ。」

コロツケ「いくぞ!」

つづく



### 第30話 黒い拳！ブルツクスの逆襲！

コロツケ「いくぞ！ブルツクス！」

ブルツクス「本気でいくぞ。」

リゾット「うっ」

ウスター「本気を出したブルツクスは相変わらず恐ろしいぜ」

いちか「本気を出した？」

ひまり「まだ戦ってないのに？」

シャーベット「ブルツクスは本気を出すとき恐ろしい気をだすんだ。私達バンカーが

出す冷や汗がその証拠」

ブルツクス「こい！」

コロツケ「ハンバーガー！」

パシッ

ブルツクス「あまい！」

あおい「ハンバーガーを受け止めた！」

コロツケ「テンツドン！」

ガシッ

あきら「テンツドンをガードした!」

ゆかり「彼って強いよね。」

メンマ「ああ、ブルックスは本気を出さずに他のバンカーの技を片手で受け止め一撃で倒したからな。」

アユ「お兄ちゃんもリゾットも本気じゃないブルックスにやられたんだよ。」

シエル「でもそのブルックスがなんでコロツケに本気を出してるの?」

フォンドヴォー「ブルックスが初めて本気を出させた相手はコロツケだからだ。」

ペコリン「ペコ!そうだったペコ!」

リゾット「ああ、本気のブルックスに勝ったのもコロツケだ。だからブルックスにとつてコロツケは本気で戦えるライバルって事だ。」

コロツケ「108ハンバーグー!」

パシパシパシッ

ブルックス「見事は攻撃だがその技俺には通じない。」

ルイーザ「すごい」

ブルックス「今度はこつちの番だ!サウザントデビル!」

コロツケ「うわ!」

いちか「コロツケ！」

ブルツクス「今度こそ蹴りをつける！闇の魔神！」

コロツケ「ハンマー掌！」

ガン

コロツケ「忘れたのか？俺に闇の魔神は通用しないぞ！」

ブルツクス「面白い、やはり貴様とのバトルは本気を出せて最高だ。」

ひまり「あの技を野球みたいに打ち返すなんて！」

メンマ「俺もリゾットもあの技にやられたんだよ。」

アユ「でもコロツケは何回も回避できて逆転してきたんだよ。」

ブルツクス「それならこれを食らうがいい！」

オリーブ「あの技は！」

Tーボーン「やばいッペ！あれはかわしきれないッペ！」

ブルツクス「暗黒の大魔人！」

コロツケ「ハンマー掌！」

ブルツクス「ハンマーで暗黒の大魔人は回避できまい！」

ザアン

ブルツクス「なに！」

いちか「ハンマーで雪の壁を!」

あおい「コロツケが消えたぞ!」

ブルックス「なんだと!どこに行った!」

コロツケ「隙あり!ハンバーガー!」

ブルックス「ぐあ!」

シエル「コロツケのハンバーガーが決まった!」

ゆかり「なるほど、雪の壁はブルックスの大技をかわすだけでなく隠れ蓑としてブルックスに近づいたみたいね。」

コロツケ「うっ」

スフレ「コロツケ?どうしましたの。」

コロツケ「やつぱりかわしきれなかったみたいだ、当たっちゃったよ、暗黒の大魔人」

ブルックス「当然だ、暗黒の大魔人は簡単には避けられん。」

ペコリン「ブルックスも立ったペコ!」

ウスター「そりゃ一発で倒せる奴じゃない!」

ブルックス「今度は俺の拳でだ!ブラックハンバーガー!」

コロツケ「うわ!」

いちか「コロツケ!」

スフレ「ブルックスがハンバーガーを！」

ブルックス「これが俺のハンバーガー、ブラックハンバーガーだ！」

コロツケ「まさかお前もハンバーガー使うなんてね。だったらこのハンバーガーをおみまいしてやるぞ！ハンバーガー！」

ダイフク「通常の倍のハンバーガーだ！」

ブルックス「あの時俺を倒した技か、だが！ブラックハンバーガー！」

ドカーン

いちか「あっ！」

ひまり「どうなりました！」

コロツケ「はあ、はあ」

ブルックス「はあ、はあ」

フォンドヴォー「相討ちで体力が限界状態だ！」

スフレ「でもあれくらいでブルックスがバテるなんて」

ブルックス「やはりまだ未完成だったか、完成ではないから体力がけずられる。次で

決めるぞ！」

シエル「次は1発が決着となるのね！」

ブルックス「今度こそ完璧に食らわせる！暗黒の大魔人！」

コロッケ「ブルックスに同じ手は通用しない!こうなったらスーパーハンバーガー!

ウスター「ブルックスの暗黒の大魔人をスーパーハンバーガーで押し返すつもりかよ

!

プリンプリン「いくらなんでも無茶だ!」

コロッケ「うおおおお!」

ドカーン

ブルックス「うお!暗黒の大魔人を押し返しただど!」

コロッケ「これがとどめだ!ハンバーガー!」

ブルックス「ぐああ!」

ドサツ

いちか「やった!」

ブルックス「くっ、ブラックハンバーガーが完成していれば勝てたかもしれんな。」

コロッケ「ブルックス、俺の勝ちだ。」

ブルックス「そうだな。そらよ!」

ソール「クリスタルミニシャインだ!」

あおい「本当にくれるのか?」

ブルックス「俺には不必要だって言ったはずだ。」  
ルイーザ「ありがとう、ブルックス。」

ブルックス「ふん、コロツケ！次は完成したブラックハンバーグで必ず倒す！首を洗って待っている。」

コロツケ「うん、いつでも挑戦まってるからな。」

フリーズ「うくん、あつ！クリスタルミニシャイン！なんて事！すぐに奪わないと！」  
???「無駄だぞ、フリーズ。」

フリーズ「サンド！何しに来たんですか！」

サンド「何を言ってるでござす？お前はクリスタルミニシャインの回収に失敗した、そして奴らにも負けた。そんな奴はどうなるかわかってるでござすな？」

フリーズ「待って！僕はこれから彼らを！」

サンド「負けた奴にはようはない！」

ビー

フリーズ「うわあああ！」

カチーン

パリーン

サンド「頭脳派って偉そうな事言ったばつでござす。」

ポトフ「なに!フリーズを!」

コロツケ「お前もエクリプスだな!」

サンド「そうだ、おいどんは土の使い手、サンド!今度はおいどんが貴様らを倒すでござす!」

タツ

ポトフ「とんでもない戦いになるみたいね。」

ブルーベリー村

ココア「吹雪はおさまりました、これなら出発できます。」

ソール「見て、光があつちを!」

ポトフ「残りのクリスタルのあつちにあるのね。」

ルイーザ「うん!」

いちか「それじゃあ行こう!」

サンサンキングダム

Dr. ボイズン「フリーズは消したか?」

サンド「はい!奴らの味方ではない奴やられた情けない奴でござした。」

Dr. ボイズン「だらしない奴だ。」

サンド「Dr. ボイズン、よいみあげが!」



Dr. ボイズン「コロツケのデータか。このブルツクスって奴の力なかなかだな。ブラツクハンバーガー、利用する手はないな。」

つづく

## 第31話 ポトフの師匠!

### 飛行船

あおい「それじゃあポトフは深海世界のお姫様つて事か!」

ポトフ「そうよ。それであな達は新しいプリキュアつて訳ね。」

いちか「うん。」

コロツケ「まさかまたポトフと旅に出られるなんて思わなかつよ。」

ポトフ「私も、旅に出てこんなに早くコロツケと戦えるなんて思わなかつたわ。」

リゾット「それにしてもポトフ。お前は何でまた地上世界に?」

ポトフ「私がお母様のような王女になる為にはコロツケのように強くならなきゃって思ったの。だからロイヤリティースを救った1週間後再び地上世界で修行の旅に出た訳。」

フオンドヴォー「そうか、ピオーネの後を継ぐ事にしたのか。」

シエル「でもコロツケと互角に戦えたんだから王女になれるんじゃない?」

ポトフ「まだまだだよ、コロツケに負けたんだから。」

コロツケ「でもどうしてそんなに強くなれたんだ?しかもウードンを使うし。」

ポトフ「それはね」

ゆかり「あら？あれは何かしら。」

ヤキトリ「どうしたゆかり？」

あきら「あれは！」

悪兵士A「へっへへ！」

ウイスキー「エクリプスの奴らだ！」

チヨコパイ「空中なのに！」

ひまり「見てください！ジェットエンジン着けて飛んでいます！」

アーモンド「わざわざ空中まで襲ってくるのかよ！」

悪兵士A「飛行船に打て！」

悪兵士「オラオラ！」

ドカーン

ココア「まずい！エンジンが！このままでは墜落する！」

ズッキーニ「こうなったら俺が！」

リゾット「待て！一人じゃ無理だ！」

ココア「ひとまずあの村に着陸します！」

ウエルウエルⅡダンダン村

シエル「危なかった。みんな、無事？」

いちか「うん、なんとか」

ペコリン「まさかエククリプスが空中で攻撃してくるなんて」

ココア「ダメだ」

あきら「ココアさん、どうかしたんですか。」

ココア「今の攻撃で飛行船のエンジンが故障してるだ。直すのにかなり時間がかかるよ。」

ルイーザ「ここからは歩きしかないわね。」

ひまり「それにしてもここはどこなんでしょう？」

あきら「村があるね。」

ティーボーン「おお！オラのふるさとウエルウエルⅡダンダン村だツペ！」

あおい「えっ？ここティーボーンの村だったの？」

メンマ「へえ、ここがティーボーンの。」

ティーボーン「あそこがオラの家だツペ！それにオラの家族がいるツペ！」

ティーボーンの家族「ぐぐぐ」

いちか「やっぱり家族も寝てるんだね」

ゆかり「あら？変わった山ね。」

コロツケ「あれはオコゲ師匠の道場だよ。」  
シエル「オコゲ師匠？」

コロツケ「俺とキャベツの師匠だよ、とてもすごいんだ。」  
キャベツ「そうでつす。」

あおい「コロツケも弟子入りするんだな。」

ひまり「それほど強い方なんですな。」

コロツケ「それから父さんも弟子入りしてたんだ。」

いちか「コロツケのお父さんも！」

オコゲ「おや？コロツケ達かい。」

コロツケ「オコゲ師匠！」

いちか「えっ？オコゲ師匠って」

あおい「あのおばあちゃんが！」

ポトフ「オコゲ師匠、お久しぶりです。」

オコゲ「おやポトフ。コロツケと合流してたんだね。」

コロツケ「えっ？ポトフ、師匠って」

ポトフ「さつき言いそびれたけど私、オコゲ師匠の弟子になったの。」

キャベツ「ポトフさんがオコゲ師匠の弟子！」

オコゲ「詳しい事聞いたよ。コロツケのように強くなりたいうって。しかも以前とは違  
いかなり根性を持ち始めたから厳しい修行を耐えたんだよ。」

コロツケ「まさかウードンは！」

ポトフ「そう、オコゲ師匠に教わった！」

ゆかり「ウードンって大地のパワーを貯めてパンチ技よね。」

あきら「オコゲさんもウードンが使えるんですか？」

コロツケ「そりやもともとウードンはオコゲ師匠の技だから。」

いちか「えっ！そうだったの！それじゃあコロツケもオコゲさんからウードンを教  
わったの？」

コロツケ「ううん、俺は父さんやってたのを真似してやったようなもなんだ。父さ  
んがオコゲ師匠に教わったんだよ。」

ペコリン「そうだったペコ。」

オコゲ「ところでお前さん達はまたトラブルに巻き込まれているようだね。噂は聞い  
てるよ。」

リゾット「そうなのか。」

オコゲ「アンタかい？怪物と関わりがあると云うのは。」

ルーイーザ「関わってる訳ではないのですが」

オコゲ「まつ、どっちにしても大変な旅をしてるのは確かだろうけどね。」  
悪兵士A「あそこにいたぞ！」

チヨコパイ「またあいつらだ！」

ウイスキー「今度は追っ払ってやる！」

いちか「いくよ！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チヨコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアラモード「レッツ・ラ・ませませ！」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ!できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり！」

オコゲ「まさかこの子達!プリキュアなのか！」

コロツケ「そうなんだ。」

悪兵士A「覚悟しろ！」

キュアホイップ「いくよ!はあ！」

悪兵士A「ぐあ！」

コロツケ「ハンマー伸！」

ダイフクー「伸身弾！」

ポトフ「アクアブラスター！」

悪兵士「うわ！」



キュアカスタード「はあ！」

悪兵士B「うわ！」

オコゲ「ほお、今度のプリキュアもやるねえ。」

悪兵士C「ルイーザ姫、覚悟しろ！」

キュアシヨコラ「しまった！」

ウスター「ルイーザ！」

オコゲ「したかないねえ、オコゲの舞！」

悪兵士「うわー！」

キュアホイップ「うそ！」

悪兵士A「あのババ！」

オコゲ「ウードン！」

悪兵士A「ぐああ！」

キュアカスタード「あれは！ウードン！」

キュアジェラート「マジでウードン使えるのか！」

キュアマカロン「それもかなりな速さだわ。」

オコゲ「どこかのお姫様を襲う悪者、とつととうせな！」

パチン

悪兵士A 「うわああ!」

キュアパルフェ 「デコピンでぶっ飛ばした!」

ポトフ 「さすがオコゲ師匠!」

悪兵士B 「なんだよ・・あの婆さん」

悪兵士C 「ええい!調子に乗るんじやねえ!」

キュアホイップ 「後は私に任せてください!キャンディロッド!キラキラキラル!ホイップ・デコレーション!」

悪兵士 「うわああ!」

コロツケ 「やった!」

悪兵士A 「ちくしょ!」

オコゲ 「お前達は何でこんな悪い事するんだい?」

悪兵士A 「決まってるだろ、世界を支配するためだよ!あの方の為にな!」

キュアアシヨコラ 「あの方?」

リゾット 「フリーズが言ってた奴の事か、あの方ってDr.ボイズンの事じゃないのか?」

悪兵士A 「違う!あの方ってのは」

ビィィィィ

悪兵士「うわああ！」

カチーン

パリーン

オコゲ「なんだい！」

サンド「婆さんにやられる役立たずめ。」

コロツケ「サンド！」

サンド「また会ったでござすな。聞きそびれて悔しいでござすな。」

キュアパルフェ「サンド！あなたも仲間を消すの！」

サンド「エクリプスに役立たずはいらないでござす！コロツケ！貴様の力を我らの物にするでござす！」

タツ

キュアホイップ「コロツケの力をエクリプスの物に？どういう事？」

キュアジェラート「あいつら、コロツケの力を奪う気かよ！」

キュアマカロン「それとリゾット、エクリプスで1つわかった事があるわ。」

リゾット「エクリプスのトップはDr. ボイズンじゃないって事か？」

ルイーザ「それじゃあエクリプスに黒幕がいるって事！」

オコゲ「大変な戦いになりそうだね。よし、私も付いていこう。」

キャベツ「えっ? オコゲ師匠も来てくれるんですか?」

オコゲ「しばらく愛のカルボナーラもやらないみたいだしね。」

ペコリン「愛のカルボナーラ?」

ポトフ「オコゲ師匠の好きなドラマよ。」

オコゲ「それで行く宛てはあるのかい?」

ソール「うん、光はあつちに指してるんだ。」

オコゲ「あつちはスクランブルバレーのようだね。」

いちか「スクランブルバレー?」

ひまり「バレーは谷の事です。」

オコゲ「そういえばそのスクランブルバレーに何かが落ちたつて噂があつたね。」

ルイーザ「何かつて何ですか?」

オコゲ「確かその太陽の形をした物らしいが。」

いちか「クリスタルミニシャインはそこに!」

コロツケ「絶対そうだよ!」

オコゲ「それじゃ行くとするかね。」

つづく

## 第32話 エクリプスのプロジエクト！

サンサンキングダム

Dr. ボイズン「そうか、知られそうになったか。」

サンド「はい、ギリギリでございました。」

Dr. ボイズン「まっ、知ったところで我がエクリプスの天下にかわりはないがな。」

サンド「Dr. ボイズン、あの方はどうなってるでござすか？」

Dr. ボイズン「あんずるな、目覚めるまでまだ時間がかかる。」

サンド「あの方が居れば世界は余裕で支配出来たのにでござす。」

Dr. ボイズン「そうね。まっクリスタルミニシャインと禁貨させればすぐに世界を支配できるからな。サンド、このまま奴らを監視しクリスタルミニシャインの手掛かりをみつけろ。そしてクリスタルミニシャインを手に入れる！」

サンド「了解でござす！」

その頃檻

チャールズ教授「あった！プリキュアの皆さん！」

なぎさ「どうしたの？」

チャールズ教授「この檻を開ける為のデータが見つかりました!まだ時間がかかりませんが待っていただけですか?」

みらい「うん!チャールズ教授、頑張つて。」

チャールズ教授「ん?これは最近のエクリプスの計画データ?プロジェクトCK?」

その頃いちか達

オコゲ「ほお、ポトフはコロツケと戦つたのか。」

ポトフ「はい!でもやつぱり敵いませんでした。」

コロツケ「でもポトフも強かつたよ。」

シエル「いちか、コロツケの強かつたのはオコゲの修行の成果みたいね。」

あおい「あんなに凄い人に弟子入りしたんだ。強くなる訳だ。」

いちか「うくん」

ひまり「どうしたんですか?」

いちか「オコゲさんの修行に友達を思う心、だけどそれだけじゃないような気がする」

あきら「他にコロツケの強さの秘密がありそうなのかい?」

いちか「それってなんだろう」

ゆかり「オコゲさん、そのスクランブルバレーってどんなところですか。」

オコゲ「かなり昔地割れでできた険しい谷だよ。確か中央に溶岩が噴いたみたいだか

らね。」

ルイーザ「もしかしてクリスタルミニシャインはその中央部分にあるのかもしれない。  
い。」

リゾット「可能性はあるな。」

ゆかり「ちよつと気になつてゐる事あるんだけど。」

コロツケ「どうしたんだ？ ゆかり。」

ゆかり「私が行く所に必ずクリスタルミニシャインがあるわね。」

ルイーザ「そうよ。」

ゆかり「エクリプスは何故私達より先に手に入れないのかしら。」

あきら「言われてみれば。ありがたければすぐに持つて帰るのに。」

ウスター「むしろ俺達を襲つてくるしな。」

バジル「目的はルイーザを襲う事なのかもしれないな。」

シャーベット「確かにそうだな。」

ウインナー「それにクリスタルミニシャインは怪物を生み出す力を持つてゐるしね。」

オコゲ「怪物を生み出す力？」

ルイーザ「はい、クリスタルミニシャインは諸刃の剣の秘宝で物に取りつけば怪物を生み出すんです。」

オコゲ「うーん、それはおつかないねえ。そんなおつかない秘宝、何のためにあるんだい?」

ルイーザ「サンサンキングダムの本래の秘宝、クリスタルシャインを支える光を与える為なんです。」

オコゲ「なるほどねえ。」

ウスター「なあ、この辺なんか見覚えねえか?」

ストロベリー「あつ、この先はホイップの神殿よ。」

コロツケ「えっ!ホイップの神殿なの!」

いちか「ホイップの神殿?」

リゾット「ストロベリーの故郷だ。もちろん、コロツケもその町で生まれた。」

あおい「そうか、コロツケとストロベリーは兄妹だもんな。」

誠司「思い出すな。ホイップの神殿のバンカーサバイバル。」

シエル「バンカーサバイバル?」

ペコリン「それなにペコ?」

誠司「バンカーバトルの大会さ。優勝賞金の禁貨を手に入れる為にいろんなバンカーが集まったんだ。」

あきら「バンカーにも大会があるんだね。」



ゆかり「あなた達も参加したの？」

リゾット「ああ、その中で優勝したのはコロツケだ。」

いちか「コロツケ優勝したの！」

ストロベリー「ちなみに私は準優勝。」

あおい「すげえな！」

コロツケ「母さんどうしてるんだろうな。」

ストロベリー「1回里帰りするのも悪くないわね。」

悪兵士A「そこまでだ！」

オコゲ「おや、またお客さんかい？」

いちか「エクリップス！」

悪兵士B「さあ今度こそその姫を叩きのめしてやる！」

あきら「させないよ！」

いちか「いこう！」

プリキュアアラモード「キュアラモード・デコレーション！」

いちか「シヨートケーキ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を!」

ひまり「知性と勇気を!」

あおい「自由と情熱を!」

ゆかり「美しさときめきを!」

あきら「強さと愛を!」

シエル「夢と希望を!」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・ませませ!」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり!」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり!」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり!」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり!」

キュアショコラ「キュアショコラ!できあがり!」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり!」

悪兵士A「覚悟しろ!」

リゾット「覚悟するのはお前達だ！108マシンガン！」

悪兵士「ぐあー！」

キュアジェラート「おりや！」

悪兵士B「うわ！」

スフレ「竜巻切り！」

悪兵士C「ぐあーやろ！」

キュアマカロン「いい子ね」

悪兵士C「えへ、はっ！この！」

キャベツ「びよーんパンチ！」

悪兵士C「ぐあー！」

パエリア「ガトリングドロップ！」

悪兵士A「うあー！」

コロツケ「ハンバーガー！」

悪兵士「ぐあー！」

テト「みんな！頑張つて！」

サンド「なるほど。あの力、エクリプスに必要でござす。」

悪兵士A「くそ！こうなれば、一気にかかれ！」

キュアカスタード「まとめて来ました!」

キュアアシヨコラ「いくら何でもなの数じゃ!」

キュアパルフェ「どうするの!」

コロツケ「任せて。」

キュアホイップ「コロツケ?どうするの。」

コロツケ「いくぞ!ハンバー!」

キュアホイップ「ハンバーグーであの数を!」

コロツケ「ブー!」

ブー

悪兵士「ぐあああ!」

悪兵士A「くっせー!」

キュアホイップ「なにそれ!」

キュアジェラート「てか臭いんですけど!」

コロツケ「今だ!」

キュアパルフェ「う、うん!いくよ!アン・ドウ・トレビアン!キラクル・レインボー

パルフェ・エトワール!」

悪兵士「ぐわあ!」

タロ「うむ！見事じゃ！」

悪兵士A「くそ、撤退だ！覚えてろよ！」

サンド「チツ、根性無しが。まあいいでござす。コロツケの戦闘データが撮れた。でもこの技？はどうするでござすかな。」

タツ

コロツケ「さあて、エクリップスは逃げてったし。ホイップの神殿に向かうか。」

いちか「そうだね。」

ひまり「ホイップの神殿、どんな所でしよう。」

あおい「それにしても臭かったな、今の」

ペコリン「ペコ」

その頃サンサンキングダム

Dr. ボイズン「サンド、コロツケのデータご苦労だったな。」

サンド「はい。」

Dr. ボイズン「このまま奴らを監視せよ。そしてクリスタルミニシャインを手に入れプリキュアとバンカーを倒すのよ！」

サンド「了解でござす！」

学者「Dr. ボイズン、研究がいよいよ終盤に入ります。」

Dr. ボイズン「そうか、いよいよ実行のときだ! プロジェクトCK計画を!」  
つづく

## 第33話 ペペロンチーノと思い出のハンバーガー！

ホイップの神殿

コロツケ「ついた！」

誠司「ここに来るのも久しぶりだな。」

いちか「あそこがホイップの神殿！」

ドリアン「なかなかいい町じゃねえか。」

あきら「あの神殿にコロツケとストロベリーのお母さんがいるんだね。」

ストロベリー「ええ。さあ行きましょう。」

神殿

巫女「ペペロンチーノ様、お客様です。」

ペペロンチーノ「お客？通して。」

コロツケ「母さん！」

ストロベリー「ただいま！」

ペペロンチーノ「コロツケ！ストロベリー！」

ゆかり「あの人がコロツケとストロベリーのお母さん。」

シエル「キレイな人ね。」

ペペロンチーノ「あら、リゾット達も久しぶりね。」

リゾット「はい、お久しぶりです。」

ペペロンチーノ「よく見ると仲間がかなり増えたわね。」

コロツケ「でしょ。」

スフレ「はじめまして、私はスフレ。コロツケの恋人ですわ。」

ペペロンチーノ「恋人!コロツケに恋人が出来たの。」

コロツケ「うん!後こっちはいちか。」

いちか「こんにちはペペロンチーノさん。宇佐美いちかです。」

コロツケ「いちか達はプリキュアなんだ。」

ペペロンチーノ「プリキュア?この達も。」

ひまり「プリキュアを知ってるんですか?」

ペペロンチーノ「はい、私とバークが子供の頃に一緒に戦ったのがあります。」

ゆかり「戦った?」

あきら「ペペロンチーノさんもバンカーなんですか。」

ペペロンチーノ「ええ、今でも現役のバンカーよ!」

いちか「そうなんですか。」



ペペロンチーノ「でもどうしてプリキュアがこの世界に？まさかまたトラブルに巻き込まれたのかしら。」

いちか「はい！私、エクリプスって組織と戦ってるんです！」

ペペロンチーノ「エクリプス？確か噂で聞いたわね。」

オリーブ「やっぱりここも噂になってるのね。」

ペペロンチーノ「そのエクリプスは何者なの？」

ルイーザ「私の国を支配した組織です。」

ペペロンチーノ「あなたは？」

ルイーザ「私はサンサンキングダムの姫、ルイーザです。」

いちか「私達の世界とコロツケ達の世界と別の世界から来たお姫様なんです。」

ペペロンチーノ「そうなのね。あなたも大変だったわね。」

ルイーザ「はい。」

コロツケ「母さん、俺達はこの先にあるスクランブルバレーに行くんだ。」

ペペロンチーノ「スクランブルバレー？」

ルイーザ「はい、そこに私達が集めないとならない物がありました。」

ペペロンチーノ「それってオレンジ色の流れ星の事かしら」

シエル「オレンジ色の流れ星！」

ルイーザ 「間違いないよ!クリスタルミニシャインだ!」

ソール 「はい!」

コロツケ 「それじゃ行こう!」

悪兵士A 「簡単には行かせんぞ!」

あおい 「あいつら!」

ペペロンチーノ 「彼らは?」

あきら 「今言ったエクリプスです。」

ペペロンチーノ 「あれがエクリプス。」

誠司 「あいつらはただの兵士です。」

いちか 「いくよ!」

プリキュアアラモード 「キュアラモード・デコレーション!」

いちか 「シヨートケーキ!」

ひまり 「プリン!」

あおい 「アイス!」

ゆかり 「マカロン!」

あきら 「チョコレート!」

シエル 「パフェ!」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・ませませ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

ペペロンチーノ「あれがいちかさん達のプリキュア。」

ストロベリー「母さんはルイーザを願う！」

悪兵士A「いくぞ！」

悪兵士「オオー！」

ストロベリー「ハンバーガー!」

悪兵士A「うあ!」

キュアホイップ「えい!」

悪兵士B「うっ!動けん!」

スフレ「スパイラル斬!」

悪兵士B「ぐあ!」

キュアカスタード「はあ!」

キュアジェラート「てや!」

悪兵士「ぐあ!」

ソール「いいぞ!みんな!」

悪兵士C「ちくしょ!」

テキーラ「まだやるのか?」

悪兵士C「なめんじゃねえぞ!」

Tーボーン「カルシウムクラッシュ!」

悪兵士C「ぐあ!」

ルイーザ「みんな!頑張つて!」

悪兵士A「バカめ、奴らが戦いに夢中になってるうちにここにいないとは知らずに。

ルイーザ、覚悟！」

ペペロンチーノ「ハンバーガー！」

悪兵士A「ぐあぁ！」

ルイーザ「えっ？ハンバーガー！」

誠司「そうか！ペペロンチーノさんはハンバーガーが使えるんだ！」

キュアパルフェ「さすがコロツケのお母さん、やるわね！」

悪兵士B「このやろ！」

ペペロンチーノ「プラネットサンダー！」

悪兵士B「ぐあぁ！」

キュアホイップ「今はストロベリーの花！」

コロツケ「母さんもプラネットサンダーか使えるのか！」

悪兵士C「この巫女、強いぞ！」

キュアカスタード「後は任せてください！キラキラキラル！カスタード・イリユ-

ジョン！」

悪兵士「ぐあぁあぁ！」

ペコリン「やったペコ！」

悪兵士A「ちくしょ、覚えてろ！」

ペペロンチーノ「お見事。」

ルイーザ「助かりました。」

コロツケ「驚いたな、母さんがプラネットサンダーを使えるなんて。」

ストロベリー「そりやそうよ。私のプラネットサンダーは母さんから教わったんだもん。」

あおい「えっ! それじゃプラネットサンダーはペペロンチーノさんの技!」

ペペロンチーノ「ええ。私とバークが1番最初に覚えた技を子供達に受け継ぐ事が私達親の使命。」

ドロップ「それがハンバーガーとプラネットサンダー。」

いちか「でもストロベリーはハンバーガーも使えるけど。」

ペペロンチーノ「ハンバーガーは私の思い出の技。」

ストロベリー「思い出?」

ペペロンチーノ「私、子供の頃、バークのハンバーガーに助けてもらったの。バンカーじゃなかった私を盗賊から。それがバンカーとなりハンバーガーを覚えたきっかけ。」

コロツケ「そうだったんだ。母さんと父さんにそんな思い出が。」

ストロベリー「だから母さんは私にハンバーガーを。」

ペペロンチーノ「あなた達、この先はかなり厳しい戦いになるはずよ。頑張つて!」

コロツケ「うん！」

いちか「それじゃ行こう！スクランブルバレーへ！」

サンド「スクランブルバレーか、今度こそおいどんが手に入れるでござす。  
つづく

## 第34話 岩窟の巨人!

サンサンキングダム of 城の檻

チャールズ教授「よし! 後はこれをハッキングすればみんな出られる! プリキュアの皆さん、いよいよ出られます!」

なぎさ「ホント!」

みらい「お願いね! チャールズ教授!」

チャールズ教授「はい! 早くしないと。」

スクランブルバレー

コロツケ「ここがスクランブルバレーか!」

いちか「ここに6個目のクリスタルミニシャインが。」

ルイーザ「行きましょう、エクリプスが来てるかもしれないわ。」

あきら「でも本当に険しい谷だね。」

ズッキーニ「ああ、もしかしたらエクリプスの奴らが隠れているかもしれないな。」

???「がっはっはっは! そこまでだせ!」

ウスター「だれだ!」



タツ

コロツケ「お前達は！」

アブラミー「バンカー最強の暴れん坊！アブラミー！」

スージー・ニック「アブラミーの子分！スージー・ニック！」

ババロア「七色七変化！ババロア！」

ブロッコリー「南海の破壊王！ブロッコリー！」

ホイコーロー「リトルマジシャン！ホイコーロー！」

ナゲット「出っ歯が自慢！ナゲット！」

テバサキ「翼のお姉キャラ！テバサキ！」

コノワタ「そして私、哀愁の52歳、コノワタ！」

アブラミー「全員そろって、超グレートアブラミー軍団参上！コロツケ、久しぶりだ

な。」

コロツケ「アブラミー！何でここに！」

アブラミー「お前ここに来るから倒してくれって頼まれてな。」

ひまり「頼まれた？」

あおい「一体誰に？」

ゆかり「もしかして黒い太陽の紋章してて最後にごわすって言うってたかしら？」

アブラミー「詳しいな。」

シエル「サンドね!」

プリンプリン「サンドの奴、雇っても意味ねえ奴らを頼んだな。」

ソール「えっ?」

アブラミー「ここで会って100年目。今日こそ倒してやる!」

コロツケ「来るならこい!」

メンマ「コロツケ、こいつらは俺達に任せろ。」

ヤキトリ「あんな奴ら、俺達で大丈夫だ。」

コロツケ「わかった!頼むよ。」

アブラミー「だったらテメエらから叩きのめしてやる!」

その頃スクランブルバレーの中心部

サンド「見つけたでござす!クリスタルミニシャインが!これをおいどんのお手柄でござす!」

悪兵士A「しかしサンド様、あのアブラミーとか言う奴らを雇ってもよかつたのでしようか?」

サンド「安心するでござす。あいつらはほんの足止めでござす、時間稼ぎになればそれで」

悪兵士B 「サンド様！」

サンド 「何でござすか？騒々しいでござす。」

悪兵士B 「コロツケとプリキュアの奴らがすごそこに迫っています！」

サンド 「なに！バカな！アブラミーの奴らはどうしたでござすか！」

悪兵士B 「それが」

入口

アブラミー 「ふが〜」

あおい 「あいつらよわ！」

あきら 「まさかただの見かけ倒しだったんだね。」

コロツケ 「メンマ達もやるね。」

中心部

悪兵士B 「雇ったアブラミーの奴ら、一撃の秒殺でやられてしまいました」

サンド 「足止めにもならなかったな！なんでござすかあいつら！あんなに弱かったんでござすか！」

悪兵士C 「どうします？クリスタルミニシャイン手に入れましたし、このまま撤退しますか？」

サンド 「そうでござすな。とりあえずクリスタルミニシャインをD r. ボイズンに渡

して」

コロツケ「見つけたぞ! サンド!」

サンド「チツ、もう来たでござるか!」

ルイーザ「あつ! クリスタルミニシャイン!」

ウイスキー「そのクリスタル、こっち渡すんだ!」

サンド「誰が渡すかでござす! それならこうするでござす!」

ニユーン

チヨコパイ「岩に乗り移ったぞ!」

ゴゴゴゴ

バジル「なんだ!」

ゴレム「ふごー!」

ひまり「岩の巨人になりました!」

サンド「さあゴレム! 奴らを倒すでござす!」

コロツケ「いちか、プリキュアに変身だ!」

いちか「うん!」

プリキュアアラモード「キュアアラモード! デコレーション!」

いちか「シヨートケーキ!」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元氣と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアアカスタード「キュアアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ! できあがり!」

サンド「いくでござす! ゴーレム!」

ゴーレム「ふごー!」

キュアホイップ「はあ!」

ゴン

キュアホイップ「硬い!」

ウスター「岩なんだから当然だろ!」

サンド「食らうでござす! 大地の拳!」

ドカッ

キュアシヨコラ「うわ!」

キュアジエラート「シヨコラ!」

キュアカスタード「大丈夫ですか!」

キュアシヨコラ「大丈夫だよ。」

キュアマカロン「あの硬さ、厄介ね。」

コロツケ「任せろ!」

ペコリン「どうするペコ!」

コロツケ「ハンバーガーで倒す!」

キュアホイップ「無茶だよ！」

コロツケ「ハンバーグー！」

ゴオーン

ゴーレム「ふごー！」

キュアジェラート「効いてる！」

フォンドヴオー「当然だハンバーグーは岩や鉄を砕く程のパワーがある！」

キュアパルフェ「さすがバンカーね！」

サンド「これで倒せると思ったら大間違いでごわす！」

アーモンド「どういう事だ！」

ゴーレム「ふごー！」

カチツ

テキーラ「その辺の岩で直しやがった！」

サンド「残念でごわすな、岩男のゴーレムは何度壊されても修復出来るでごわす！」

オリーブ「まさに不死身って訳ね」

サンド「これでお前達もおしまいでごわすよ、大地の拳！」

オリーブ「ジャイロキック！」

キュアジェラート「おりゃ！」

ゴン

ゴーレム「ふごー!」

リゾット「108魂キャノン!」

ドカン

カチツカチツ

ダイフクー「ダメだ!いくらやっても修復してきやがる!」

キュアパルフェ「一体どうすれば!」

オコゲ「そういえば、あの硬い体の中。」

ルイーザ「中?」

オコゲ「空洞になっていたようだが。」

ソール「確かに何も無さそうな感じだった。」

ドロップ「もしかしたらその中に攻撃をすれば倒せるかも!」

誠司「みんな!ゴーレムの体の中は空洞だ!」

リゾット「空洞だと!」

キュアマカロン「確かにそうね。任せなさい。」

コロツケ「ゆかり?どうするの。」

キュアマカロン「私が動きを止めるわ。はあ!」



ゴーレム「ふご!？」

キュアマカロン「いい子ね。」

ゴーレム「ふご〜」

プリンプリン「なんじやそりや！」

フォンドヴォー「だがゴーレムの動きは鈍った！」

リゾット「いくぞ！トリツクキャノン！」

ドカン

キュアシヨコラ「よし！キラキラキラル！シヨコラ・アロマーゼ！」

ゴーレム「ふごー！」

ゴオーン

ソール「クリスタルミニシャイン！」

パシッ

ソール「やった！」

サンド「あっ！」

オリーブ「残念だったわね。」

サンド「すぐに取り返してやるでござす！大地の拳！」

オリーブ「その技見切ったか！」

サンド「なに!」

オリーブ「食らいなさい、私の新技!スクリユードライバー!」

サンド「ぐわ!」

ゴオーン

オリーブ「参ったかしら。」

コロツケ「やったなオリーブ!」

サンド「くそ!まだでござす!」

???「見苦しいぞ、サンド。」

サンド「ヒート!何でここにいるでござす!」

ヒート「テメエの様子を見に来たんだよ。ブザマだな、やられやがって。わかってるんだらうな?」

サンド「待つでござす!おいどんはまだやれるでござす!」

ヒート「黙れ。」

ビー

サンド「ぐあああ!」

カチーン

パリーン

ヒート「ふん、役立たずは消えるんだよ。」

キュアホイップ「黒い太陽の紋章！エクリップスね！」

ヒート「そうだけ。俺様はエクリップス最強の幹部、ヒートだ！テメエが幹部と雑魚どもを倒しここまで来た事は誉めてやる。だがな、貴様らが平和の為に戦う旅も次で終わりだぜ。」

コロツケ「待て！俺達は絶対負けられない！絶対エクリップスを倒してサンサンキングダムを救うんだ！」

ヒート「ケツ、精々吠えてろ！」

タツ

リゾット「最強の幹部か、相当なじしんかじょうな奴だな。」

ソール「おっ！クリスタルミニシャインが光った！」

ルイーザ「最後のクリスタルミニシャインはあっちにあるのね。」

ペペロンチーノ「おっ！！」

ストロベリー「あれは！」

ウインナー「ココアの飛行船だ！」

ペペロンチーノ「みんな！」

ストロベリー「母さん！」

ペペロンチーノ「よかったわ、ここにいて。」

いちか「ココアさん、飛行船直ったんですか？」

ココア「なんとか。」

コロツケ「でも何で母さんが飛行船に？」

ココア「皆さんがホイップの神殿に向かったと聞いて向かったんだ。」

ペペロンチーノ「ええ、私もあること思い出してあなた達に伝える為に乗せてもらったの。それがオレンジ色の流れ星の正体ね。」

ルイーザ「はい。」

ひまり「あの、あることって？」

あきら「何を思い出したんですか？」

ペペロンチーノ「グランシユフ王国に赤い流れ星が落ちたって話があったの。」

コロツケ「グランシユフ王国に！」

シエル「グランシユフ王国って確か」

ゆかり「リゾットの故郷だったわね。」

パエリア「それって本当ですか！」

ペペロンチーノ「ええ、詳しい事はわかりませんがその流れ星がグランシユフ王国に流れ落ちたって話を聞きました。」

あおい「もしかしてその光、グランシユフ王国を指してるんじゃないのか！」  
ズッキーニ「それなら行かなければ！」

ココア「よし、皆さん、飛行船に！」

ペペロンチーノ「コロツケ、ストロベリー、あなた達なら乗り越えられるわ！」

コロツケ「うん！行ってくるね！」

ストロベリー「私は負けないから。」

ペペロンチーノ「頑張るのよ、バーグ、あの子達を見守ってね。」

サンサンキングダム

Dr. ボイズン「そうか。サンドもダメだったか。」

ヒート「はい、ですがお任せ下さい。この俺がクリスタルミニシャイン全て手に入れ

ますよ。プリキュアもバンカーも俺にかかればすぐにでも。」

Dr. ボイズン「期待しよう。」

ビービー

ヒート「なんだ！」

Dr. ボイズン「あのお方がついにお目覚めになる！」

ヒート「いよいよですね！あの方が！」

つづく

## 第35話 諸刃の剣の正体!

サンサンキングダム

D r. ボイズン「おお! まもなくお目覚めになる!」

ピー

ガチャ

ザー

ヒート「カプセルが空いた!」

???「・・・」

D r. ボイズン「ついに復活ですな! 我がエクリップス総帥、ダークラスト様!」

ダークラスト「ああ、待たせたな。D r. ボイズン、お前の計画やデータを頭に送ってくれたお陰で状況がわかった。幹部はヒートしかいなくなるとわな。」

D r. ボイズン「はい、幹部の残りはヒートのみとなりました。」

ダークラスト「役に立てず消したみたいだな。」

ヒート「仕方ありませんよ。プリキュアやバンカーにやられた役立たずなんて。」

ダークラスト「まさか我がエクリップスに歯向かう雑魚どもがまだいるとわな。」

D r. ボイズン 「はい、かなりの数のプリキュアは捕らえましたが残りのプリキュアも居ましたので苦戦中です。」

ダークラスト 「そうか。まあいい、D r. ボイズンよ、全ての世界を支配する計画は進んでいるのか？」

D r. ボイズン 「はい！今進行中のプロジェクトC Kが進めばダークラスト様の望みが達成できるのです。」

ダークラスト 「プロジェクトC Kか、順調だな。」

ヒート 「D r. ボイズン、何ですか？そのプロジェクトC Kって？」

D r. ボイズン 「お前が知る必要はない。まっ、気が向いたら話すとしよう。」

悪兵士A 「D r. ボイズン！」

D r. ボイズン 「何事！」

悪兵士A 「ダークラスト様！お目覚めになられたのですね！」

ヒート 「どうしたんだ？」

悪兵士A 「あつ！大変です！檻に閉じ込めていたプリキュア達が脱走し兵士達が苦戦中です！」

ヒート 「なんだと！」

悪兵士A 「とても我々じゃ手に追えません！」

ダークラスト「さて、目覚めの一仕事でもするか。」

檻

キュアミラクル「はあ！」

悪兵士B「ぐあー！」

キュアフローラ「プリキュア・フローラル・トリビヨン！」

悪兵士「ぐああー！」

チャールズ教授「いいです皆さん！」

Dr・ボイズン「やってるな。」

キュアマジカル「あなたがDr・ボイズンね！」

Dr・ボイズン「そう、そして。」

ダークラスト「お初にお目にかかる。エクリプスのボス、ダークラストだ。」

キュアフェリーチェ「あなたがエクリプスのボスですね！」

キュアブラック「ならあいつを倒せばいいのね！はあ！」

ダークラスト「はっ！」

ビュン

キュアブラック「きやあー！」

キュアホワイト「ブラック！」



キュアブラック「なに今の？」

ルミナス「衝撃波です！」

ダークラスト「どうした？プリキュアの力はその程度か。」

キュアミラクル「はあ！」

ダークラスト「無駄な事だ。ふっ！」

キュアミラクル「あっ！」

ダークラスト「愚かな反逆者達よ、はあ！」

プリキュア「「きゃあー！」」

キラン

みらい「あっ！変身が！」

リコ「なんて力なの！」

ダークラスト「フッフ、Dr. ボイズン。」

Dr. ボイズン「はい。」

ビィ

ゆい「あっ！何これ」

レジーナ「体が言うこと聞かない」

真央「何したの！」

ダークラスト「ちよつと麻痺させてやったただけだ。捕らえろ、そいつらを張り付け刑にしておけ。ん?」

チャールズ教授「ひっ」

ダークラスト「そこで何をしている!」

チャールズ教授「ひい!」

ことは「チャールズ!逃げて!そしていちか達に伝えて!」

チャールズ教授「はい!」

ヒート「逃がすな!野郎共!」

チャールズ教授「あれだ!たあ!」

ヒート「チツ、逃がしたか。」

ダークラスト「まあいい、あいつじや何もならん。」

ヒート「それじゃ俺はクリスタルミニシャインを手に入れに行くか。」

ダークラスト「期待しておるぞ。」

ヒート「お任せ下さい。ルイーザを倒すのは勿論、残りのプリキュアと味方のバンカーは俺が倒して禁貨もクリスタルミニシャインも全してお持ちしますよ。」

ダークラスト「ほお、余裕だな。だが1つでも出来なければどうなるかわかってるだらうな?」

ヒート「はい、どうぞご期待下さい。」

Dr・ボイズン「ヒート、クリスタルミニシャインの力を改めて知った事だが。」

ヒート「えっ？」

その頃

あおい「もう少しでグランシユフ王国なのかな。」

ひまり「どんな王国なのでしょう？」

あきら「リゾットも楽しいかな。」

リゾット「そうだな。父上達会うのもいいだろう。」

ルイーザ「もう少しでクリスタルミニシャインも全部そろうのね。」

いちか「そろうか、今思えば私、コロツケに会ってからクリスタルミニシャインをこ

こまで集めて来たのね。」

コロツケ「そうだな、あつという間だったな。」

スフレ「エクリプスの幹部と戦ってきましたからね。」

シエル「そうね。」

ゆかり「ねえ、思ったんだけど。」

フォンドヴォー「なんだ？」

ゆかり「エクリプスの幹部、あのヒートが最後なんじゃないのかしら。」

ウスター「どういう事だ？」

ゆかり「まああくまでも推測だけだね。」

コロツケ「何人でもいいよ。どんな奴が来ても俺達は負けないよ！」

いちか「そうだね。」

ダイフク「それに諸刃の剣のクリスタルミニシャインで生まれた怪物も倒せるしな。」

ルイーザ「そうだけど。」

タロ「どうしたんじゃ？」

ルイーザ「クリスタルミニシャインの力で生まれた怪物は諸刃の剣にすぎないの。」

キャベツ「えっ? 今までの怪物は序の口って事ですか?」

ルイーザ「ええ、本当の諸刃の剣は」

ココア「みんな、グランシュフ王国が見えたよ！」

いちか「えっ? 本当ですか!」

シエル「あれがグランシュフ王国。」

コロツケ「ついたんだね！」

ソール「クリスタルミニシャインの反応が薄れてきてる。ペペロンチーノさんの言うとおりグランシュフ王国にあるんだ！」

ココア「着陸します。」  
その頃

チャールズ教授「うあ、なんとか逃げ知れました。でもここはどこなのか？」  
グランシユフ王国の城

兵士「王様！王妃様！飛行船がこつちに！」

国王「飛行船？パエリアが戻ってきたのか？」

王妃「お出迎えしましょう。」

中庭

国王「おお、あれか。」

ガチャ

リゾット「父上！母上！」

国王「リゾット！ズッキーニも！」

王妃「あら、コロツケ達も。」

コロツケ「久しぶりだね。」

いちか「あの人達がリゾットの」

ひまり「本物の王様と王妃様！」

国王「キミ達もリゾット達の友達か？」

いちか「はい。」

あきら「はじめまして。」

リゾット「父上、じつは聞きたいことがあります。」

国王「聞きたいこと？」

ルイーザ「ホイップの神殿のペペロンチーノさんから聞いた話なんです。」

王妃「あなたは？」

ルイーザ「あつ！はじめまして、サンサンキングダムのルイーザです。」

国王「サンサンキングダム？聞いたことないな。」

パエリア「そんなんです。サンサンキングダムは違う世界の国ですから。」

国王「どういう事だ？」

リゾット「次元を超えて来たんです。」

国王「なるほど、ようするにこの世界の人間ではないって事だな。」

ルイーザ「はい。」

王妃「それで聞きたい事って？」

ゆかり「この王国に赤い流れ星が落ちたって聞いてきました。」

あおい「それについて何か知りませんか？」

国王「赤い流れ星？それってあれか！」

シエル「何か知ってるんですか？」

王国「この前城下町に赤いのが落ちて見に行つたんだが、そしたら太陽のような赤い宝石があつてな。」

ソール「それってこんな形していませんか？」

国王「うむ、だがその後一人で動いてどこかにいつてしまったんだ。」

ソール「そうなんですか。」

チャールズ教授「あれは、ルイーザ姫！」

ルイーザ「えっ？チャールズ教授！」

コロツケ「誰だ？」

ルイーザ「サンサンキングダム of 科学者よ！でもどうしてここに？」

チャールズ教授「はい、捕まっていたプリキユア達の檻を開けてエクリプスと戦つていて脱走出来たのですが。」

コロツケ「みらい達は無事なんだね！」

チャールズ教授「それが・・・やられてまた捕まってしまったんです。エクリプスのボス・・・ダークラストに！」

いちか「ダークラスト！」

シエル「エクリプスのボスですって！」

リゾット「エクリプスの部下達が言つてたあの方つてそのダークラストつて奴の事だつたんだな。」

チャールズ教授「まさかボスが目覚めるなんて、クリスタルミニシャインがない今どうすれば」

ソール「大丈夫、後1つなんだ！」

チャールズ教授「本当にですか！」

ソール「うん！あれ？薄いけど光が出てる？あつちだ！」

ズッキーニ「あつちは海だな。」

国王「もしかしてあそこか！」

いちか「あそこ？」

海岸

ひまり「この辺なるんでしょうか？」

国王「うむ、来なさい。」

そして

ウスター「これは！あの時の大きな扉！」

あきら「これは何の扉なんですか？」

国王「これは禁貨、ゴーグルを封印していた扉だ。」



ゆかり「禁貨、ゴークル？」

コロツケ「かければ禁貨のありかがわかるゴークルだよ。」

あおい「へえ！そんなのがあるんだ。」

ソール「反応がない、もしかしてその扉の中に！」

国王「開けるぞ。」

ギイ

コロツケ「あれは！」

ルイーザ「最後のクリスタルミニシャインだわ！」

いちか「やった！」

ヒート「ご苦労だったな。」

いちか「あなたは！」

ルイーザ「エクリプスのヒート！」

ヒート「そのクリスタルミニシャインはもらったぜ！」

ガシツ

コロツケ「あつ！」

プリンプリン「右手が伸びやがった！」

ヒート「俺の右手は特別に改造してるんだよ。食らえ！デスファイア！」

コロツケ「うあ!」

あおい「あいつの右手は火炎放射気にもなるのかよ!」

ヒート「俺の炎食らったら貴様らはあつという間に黒焦げだぜ。エクリップスの幹部の残りが俺様だけになったためいどにこの辺を大火事にしてやりぜ!」

ゆかり「やっぱりあなたが最後の幹部なのね。」

ヒート「そうだぜ、最強の幹部の俺様が最後だ。フレイムブレード!」

ギイン

コロツケ「通用しないぜ!」

ヒート「ハンマーで受け止めたか。」

コロツケ「お前なんかに負けるもんか!ハンバーガー!」

ヒート「おっと、そんな技見切ったぜ。」

コロツケ「くそ!」

ヒート「Dr. ボイズンもこんな奴を調べてどうする気なんだ。」

リゾット「(確かにあいつらコロツケを調べてどうするつもりだ)」

ヒート「まっ、てめえを調べたところでどうしようもねえがな。なにしろてめえらはここで丸焼けになるんだからな!デスファイア!」

コロツケ「そんな炎に負けるか!スーパーハンバーガー!」

ボオーン

ヒート「なに！」

コロツケ「すきあり！108ハンバーグー！」

ヒート「ぐあー！」

コロツケ「とどめだ！ギュードン！」

ヒート「ぐあああー！」

バチャーン

チャールズ教授「凄い！あれがコロツケの強さなんですわ！」

ルイーザ「ええ！」

ヒート「くそ、こうなれば」

ドロップ「怪物を出す気ね！」

アユ「でも周りにあるのは海と岩だけ！」

メンマ「岩も海も攻略してるんだ！どうってことないぜ！」

ヒート「それはどうかな。」

ルイーザ「まさか！やめなさい！それはとても危険なのよ！」

ヒート「知った事か！」

ニューン

いちか「クリスタルミニシャインがヒートの体の中に!」

ヒート「ぐおおおお!!」

コロツケ「ヒートが怪物になった!」

ルイーザ「なんて事を! エクリプス、ついに禁断の使い方を」

ペコリン「どういう事ペコ?」

ルイーザ「これが諸刃の剣の正体よ、クリスタルミニシャインは人間の体内に入ると怪物になるの!」

フォンドヴォー「なんだと!」

ルイーザ「だけど下手したら命も危険になる恐れがあるのよ!」

いちか「そんな!」

ヒート「暗黒の炎を思い知れ!」

コロツケ「負けないぞ!」

いちか「うん! 絶対クリスタルミニシャインを取り戻してみせる!」  
つづく

## 第36話 炎の悪魔！

コロツケ「まさかヒートが怪物になるなんて！」

いちか「これが諸刃の剣の正体！」

ヒート「今度こそ貴様らを丸焼けにしてやる！」

いちか「いくよ！」

プリキュアアラモード「キュアアラモード！デコレーション！」いちか「ショートケー  
キ！」

ひまり「プリン！」

あおい「アイス！」

ゆかり「マカロン！」

あきら「チョコレート！」

シエル「パフェ！」

いちか「元気と笑顔を！」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ!できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード!できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート!できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン!できあがり！」

キュアショコラ「キュアショコラ!できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ!できあがり！」

国王「変身した！」

王妃「彼女達は一体！」

誠司「あれはプリキュアです！」

国王「プリキュア？」

ペコリン「みんな!頑張るペコ！」

ヒート「変身したか、だが怪物になった俺様には勝てん！」

キュアホイップ「やってみないとわからないもん！」

ヒート「やってみたってわかる事を思い知れ！」

ボオ

キュアホイップ「あっ！」

キュアカスタード「ホイップ！」

ポトフ「任せて！炎には水よ！アクアビーム！」

ヒート「そんな水で俺がやられるか！」

ボオ

ポトフ「きやあ！」

スフレ「ポトフ！」

ポトフ「私の技が押し返された！」

ポー「あれがクリスタルミニシャインの力なの！」

ルイーザ「ええ、人間に乗り移ったクリスタルミニシャインはその人間により倍の力を発揮するの。」

誠司「一体どうすればいいんだ！」

コロツケ「決まってるだろ、諦めずに戦うんだ！」

キュアホイップ「うん！必ずチャンスがあるはずだよ！」

ヒート「そんなのあつてたまるか！デスフレア！」

プリキュア「きゃあー!」

リゾット「なんて火炎力だ!」

キュアパルフェ「何とかかわせたけど食らってたら黒焦げだわ!」

ヒート「次は外さん!うっ!」

ルイーザ「?、今苦しみだしたような」

ヒート「なんだ今のは・・・気のせいかな、デスフレア!」

コロツケ「スーパードカンバーガー!」

リゾット「108魂キャノン!」

ドカン

ヒート「ほお、やるな。」

キュアホイップ「キラキラキラル!ホイップ・デコレーション!」

ヒート「そんなの通じるか!」

ゴォ

キュアホイップ「そんな」

ヒート「デスフレアグレート!」

プリキュア「きゃあー!」

バンカー「うわあー!」



ヒート「はっははは！どうだ！熱いだろ？俺様の地獄の炎は。」

コロツケ「まだだ！」

ヒート「なに！」

コロツケ「俺達はまだ諦めないぞ！」

キュアホイップ「そうだよ！絶対負けない！」

ルイーザ「みんな・・もうやめて！これ以上みんなを危険な目にあわせなれない！」

キュアホイップ「ルイーザ、私達は約束したのよ。サンサンキングダムを救うつて。」

コロツケ「俺達絶対勝つからね。」

ルイーザ「みんな」

チャールズ教授「ルイーザ姫、彼らを信じましょう！」

ソール「そうです！絶対やってくれます！」

コロツケ「いくぞ！スーパーハンバーガー！」

ヒート「うわ！チツ、諦めの悪い野郎だ！」

ストロベリー「何度でもいくわよ！ゴールドサンダー！」

ヒート「うっ！貴様ら！」

キュアホイップ キュアカスタード 「「はあ！」」

ヒート「なんだ！」

キュアジェラート キュアマカロン キュアシヨコラ 「「やあ!」」

ヒート「うあ!てめえら!そんなんで勝てると思ってるのか!今度こそデスフレアで丸焦げにして」

ズキツ

ヒート「ぐあああ!」

キュアホイップ「なに!」

ヒート「なんだ!ぐあああ!」

ルイーザ「どうしたの!」

チャールズ教授「いけない!クリスタルミニシャインが命まで飲み込まれかかっている!」

コロッケ「えっ!」

チャールズ教授「あのままではヒートは死んでしまいうえにクリスタルミニシャインは暴走してしまう!」

リゾット「どうする!」

キュアホイップ「みんな!一気に決めよう!」

キュアパルフェ「OK!」

プリキュアアラモード「キラッと輝け!クリスタルアニマル!」

コロツケ「いちか達の新たな技か！」

ヒート「なんだ！」

プリキュアアラモード「プリキュア・アニマルゴーランド！」

ヒート「ぐわあああ！」

ボン

ヒート「うあ！」

ドボン

コロツケ「やった！ヒートに勝ったぞ！」

キュアホイップ「うん！」

ソール「クリスタルミニシャインだ！たあ！」

ヒート「くそ、この！」

ソール「うわ！」

ルイーザ「ソール！」

ヒート「てや！」

ルイーザ「きやあ！」

チャラン

ルイーザ「あつ！集めたクリスタルミニシャインが！」

ヒート「もらった!」

ガシツ

ヒート「クリスタルミニシャインは全てもらった、あばよ!」

スツ

コロツケ「あっ!」

キュアホイップ「そんな・・・」

キュアパルフェ「これまで集めたクリスタルミニシャインが全部持っていかれるなん

て」

ルイーザ「一体どうすればいいの!」

つづく

## 第37話 サンサンキングダムへ！エクリプスの罠！

サンサンキングダム

ヒート「ダークラスト様、Dr. ボイズン、手に入れました！全てのクリスタルミニシャインを！」

ダークラスト「よくやった。クリスタルミニシャインが全部手に入ればこつちのものだ。」

ヒート「はい！」

Dr. ボイズン「ところで感じんの禁貨はどうした？ルイーザと邪魔者どもは倒せたのか？」

ヒート「いや、それは……」

Dr. ボイズン「自分で禁貨を手に入れ邪魔者を倒すと言っておきながらできなかつたよね、貴様も役立たずだ！消えろ！」

ヒート「まっ！待ってください！俺にいい考えがあるんです！」

Dr. ボイズン「どうせ下らん考えなのだろう？」

ダークラスト「Dr. ボイズン、聞いてみようではないか。素晴らしい作戦なら逃そ

う。」

D r. ボイズン 「わかりました。言ってみろ。」

ヒート 「はい、奴らをサンサンキングダムに誘い込むんです。」

ダークラスト 「どういう事だ? 何故誘い込む必要がある?」

ヒート 「この世界にはバンカーバトルの大会がありますそれをサンサンキングダムで開催してプリキュアとバンカーどもを誘き出すんです。賞金はたくさん禁貨と知らせれば他の雑魚バンカーも来るでしょう。」

ダークラスト 「なるほど、バンカーバトルの大会か。しかし賞金はどうするつもりだ。たくさんの禁貨はどこにある?」

ヒート 「詐欺ですよ。その大会には俺達エクリプスも参加します。敗れた雑魚バンカーを倒し持つてる禁貨を全部かつぱらうのですよ。」

ダークラスト 「なるほど! それは素晴らしい。その案に乗ろうではないか。」

ヒート 「ありがとうございます!」

D r. ボイズン 「命拾いしたな。しかしお前も参加して奴らに勝てると思うのか?」

ヒート 「それは・・・」

D r. ボイズン 「まあよい、お前だけじゃ不安だからな。来なさい。」

シークレットトラボ

ヒート「ここは？」

D r・ボイズン「ここは特別なラボだ。」

ヒート「何ですか？目の前のガラスカプセルは。」

D r・ボイズン「近づいて見てみな。」

ヒート「えっ？・・・これは！エレキ！ストーム！リーフ！バブル！フリーズ！サン

ド！なんで失敗して消された幹部達が!？」

D r・ボイズン「ヒート、クローンって知ってるか？」

ヒート「クローン？」

D r・ボイズン「そう、科学で造られたコピー。そいつらは消された欠片からよみが

えたのだ。」

ヒート「そうだったんですか・・・あっ！奥のカプセルは？えっ！なんで・・・なんで

コロツケが！」

D r・ボイズン「そいつもクローンだ。これがプロジェクトC Kの正体だ。」

ヒート「えっ？」

D r・ボイズン「我がエクリプスの最強戦士、クローンコロツケだ。こいつらを大会に出場させる。連れていけ。」

悪兵士「はっ！！」

ヒート「なっ!Dr・ボイズン何を!」

Dr・ボイズン「お前をパワーアップさせるだけだ。さて、大会の準備に入れ!」  
悪兵士「はっ!」

グランシユフ王国

ルイーザ「どうしよ・クリスタルミニシャインが全部とられちゃった」

いちか「私達、一体どうしたらいいの」

ひまり「今までクリスタルミニシャインの光に導かれてここまで来ましたから。」

コロツケ「そうだね。」

チャールズ教授「参りました、奴らが例の計画を進めているときに」

リゾット「例の計画?」

チャールズ教授「えっ!あっ!」

あきら「チャールズ教授、知ってる事があるなら教えてくれませんか?」

チャールズ教授「・・・わかりました。エクリプスは最強の戦士を生み出そうとして  
いるんです。」

ウスター「最強の戦士」

ゆかり「どんな戦士なの?」

チャールズ教授「それがコロツケなんです!」



スフレ「コロツケがエクリプスの最強の戦士！」

ストロベリー「どういう事！」

チャールズ教授「皆さん、クローンってご存知ですか？」

シエル「クローン？」

あおい「それってコピー人間だよね？」

フォンドヴォー「ようするにコロツケのコピーか。」

ゆかり「リゾット、もしかしてエクリプスのメンバーがコロツケを調べてたのはクローンと関係してるんじゃないのかしら？」

リゾット「なるほどな。エクリプスの奴ら、クローンのコロツケのデータを移す気だ。」

チャールズ教授「ああ、こんな事があつては……天国のルイーゼ王子に王様達に会う顔がない」

ルイーザ「チャールズ教授、ルイーザお兄様とお父様、お母様は生きてるのよ！」

チャールズ教授「えっ！」

ソール「タロさんの占いでルイーゼ王子も王様もお妃様もサンサンキングダムにいるって事がわかったんだ！」

チャールズ教授「そうだったのですか！王子達が生きてたなんて」

ペコリン「でもどうやってサンサンキングダムに行くペコ?」

キヤベツ「手掛かりは誠司さんが言った海の向こうだけ。」

誠司「なんだよな。」

ブウーン

アユ「飛行機?」

バラバラ

メンマ「何かばらまいてるぞ?」

コロツケ「チラシ?」

チラシの内容「世界一強いバンカーは誰だ!最強バンカーは誰だ!バンカーバトル大会!エクリプスカップ!開催決定!開催場所サンサンキングダム。賞品大量の禁貨。受付日〇月×日受付場所ベークン港」

コロツケ「エクリプスカップ?」

いちか「サンサンキングダムでやるの!」

リゾット「それにこの日付、三日後だ。」

ルイーザ「エクリプス・サンサンキングダムで大会を開いて何を企んでいるの?」

あおい「どうせ罠でしょ。」

コロツケ「それでも俺は行くよ!」

いちか「コロツケ？」

コロツケ「だってサンサンキングダムに行く方法ないんだろ？あいつら招待するならいつてやるさ！」

リゾット「そうだな。例えば罨で、あつても俺達はサンサンキングダムに行かなきゃならないんだ！」

いちか「そうだね。私達も行く！」

ルイーザ「みんな・・・行きましょう！サンサンキングダムへ！」

あきら「受付日は三日後だし、それまでそれまでグランシユフ王国で休んでく？」  
ズッキーニ「そうだな。」

そして三日後

ココア「皆さん、準備が出来ましたか？」

いちか「はい！」

ルイーザ「ついにサンサンキングダムに帰れるのね。」

いちか「みらいちゃん、みんな、待っててね！」

ココア「さあ飛行船へ！ペーコン港へ向かいます！」

ペーコン港

コロツケ「ついた！」

ひまり「ここがベーコン港ですね。」

オリーブ「受付はどこ?」

ゆかり「あれじゃない?」

受付員「エクリプスカップの出場者はここでサインしてください!」

フォンドヴォー「ここでいいんだな。」

受付員「はい、参加者ですか?」

コロツケ「うん!」

いちか「見学者はどうするんですか?」

受付員「そのまま船に乗って下さい。参加者のお名前を登録します。」

コロツケ「じゃあ、コロツケ!」

受付員「コロツケ。」

ウスター「どうした?」

受付員「いいえ、コロツケ、登録しました。次の方どうぞ。」

全員受付完了

コロツケ「よし、これで全員だな。」

ティーボーン「だっぺ!」

ドリアン「それじゃ船に乗るか。」

受付員「こちら受付、例の奴らが参加してきました。」  
悪兵士A「こちらブリッジ、了解した。計画道理だ。」

ボォー

シエル「出港したわ。」

ダイフク「おう！」

あおい「飛行船の次は船か。」

ひまり「長旅ですね。だからTーポーンさんは」

Tーポーン「ぐぐぐ！」

あきら「さっき飛行船の中で寝てたのにまた寝てるよ。」

いちか「よく寝ますね。」

ゆかり「それにしても随分いるわね。」

あきら「やっぱり、目的は禁貨だろうね。」

ウスター「サーデインもいるぜ。」

サーデイン「久しぶりね。あなた達。」

カラスミ「やはりお前達も来ていたか。」

リゾット「カラスミ！」

フォンドヴォー「お前達も参加していたのか。」

アンチヨビ「そうだ!エクリプスに仕返しするためにな!」

レモネード「それは俺達のやることよ。」

メンマ「BB7!」

マルゲリータ「またお会いしましたね。」

ユバ「エクリプスカップ、随分と面白い事考えるものだな。」

アユ「ビシソワーズの兄弟も来てたんだ。」

ひまり「みんな手強い人ばかりです!」

スウ

コロツケ「!このオーラ」

ブルックス「・・・」

コロツケ「ブルックス!」

いちか「1番手強い人だ!」

ブルックス「やはり来ていたか。」

コロツケ「お前も参加するの?」

ブルックス「ああ、貴様が参加すると思ってたからな。今度こそ蹴りをつけてやる!」

あおい「強敵がうじゃうじゃ集まってきた!」

シエル「みんな勝つのに苦労したのに。」

チャールズ教授「そんなに強いのですか？」

ドロツプ「うん、とても強いわ。」

ソール「姫、どうかしましたか？」

ルイーザ「サンサンキングダムに帰れるのが嬉しくて」

いちか「そうだね。サンサンキングダムはルイーザの故郷だもん。」

ルイーザ「でも私が留守にしている間にサンサンキングダムはどうなったのかしら。」

チャールズ教授「私もずっと檻に入っていましたから外の様子はわかりません。」

コロツケ「どんな事になっていても俺達は勝つよ！」

ルイーザ「うん」

いちか「みんな、いよいよ最後の戦いが近いよ。」

コロツケ「よし、待ってろよ！エクリプス！」

つづく

## 第38話 悪魔の大会!エクリプスカップ開幕!

船

あおい「まだサンサンキングダムはつかないのか?」

ルイーザ「そろそろのどと思うけど。」

アナウンサー「皆様、まもなくサンサンキングダムに入港します。」

スフレ「そろそろみたいですわ。」

いちか「コロツケ!あれを見て!」

コロツケ「あれがサンサンキングダムか。」

サンサンキングダム港

いちか「ここがサンサンキングダムなんだ。」

ひまり「大きなお城です。」

ゆかり「今やエクリプスの基地になってるって訳ね。」

ドロップ「そうね。」

案内人「それでは皆様、あのホテルにチェックインしてください!1時間後にあそこのエクリプスドームで大会をおこないます!」



あきら「あそこか、エクリップスカップをやる所は。」

シエル「ルイーザ、サンサンキングダムに何なのあつた？」

ルイーザ「いいえ、ないわ。」

ソール「エクリップスの奴ら、ホテルといい、ドームいい、勝手に建物を建てて！」

ドリアン「落ち着けよ、ソール。」

ダイフクー「気持ちはわかるけどよ。」

スフレ「とにかくエックインしましよ。」

コロツケ「うん。ん？」

???「・・・」

コロツケ「・・・」

いちか「コロツケ。どうしたの？」

コロツケ「なんでもない。」

エクリップスドーム

いちか「参加バンカーがいっぱいいるね！」

あおい「すごい数だな！」

ひまり「ドロップさんは参加しないんですか？強いのに。」

ドロップ「私は遠慮しとく。」

テキーラ「チツ、いつまで待たせる気だ?」

オリーブ「あら?あれが司会者かしら。」

XO「ええエクリプスカップ参加者の皆さん、ようこそ!」

アユ「お兄ちゃん!あいつ!」

メンマ「XOだ!」

コロツケ「あいつがエクリプスカップの司会者!」

リゾット「やはりこの大会、裏があるな。」

XO「それではエクリプスカップの大会委員、D r. ボイズンからご挨拶をいただきますしょう。」

D r. ボイズン「バンカーの皆さん、ようこそ!」

フォンドヴォー「あいつがD r. ボイズンか。」

ゆかり「チャールズ教授、彼女がD r. ボイズンなのね。」

チャールズ教授「はい。」

D r. ボイズン「あらためて私がエクリプスカップの大会委員、D r. ボイズンよ。

この国で力をぶつけ合い勝ちをつかみとるバンカーは誰なのか楽しみにしてるわ。そして優勝したバンカーには賞品としてすぐに願いが叶えられる禁貨をプレゼントしよう!」

バンカー達「「おおー!!」」

D r・ボイズン「ただし、敗北したバンカーは持つてる禁貨を全て没収させてもらいますよ。」

バンカー達「「えー!」」

バンカーA「なんだよ!聞いてないぞ!」

バンカーB「ちゃんと説明しろ!」

D r・ボイズン「黙れ!貴様らは負けた雑魚に禁貨を持つ価値はないんだ、没収されなくては勝ち上がる事だ!」

リゾット「いきなり態度が変わったぞ!」

ポトフ「本性を出したみたいね。」

D r・ボイズン「それではこのエクリップスカップの優勝候補を紹介しよう!」

パチン

タツ

コロツケ「あいつは!」

いちか「今まで私達と戦ってきたエクリップスの幹部達!」

あおい「なんで私達に敗れて消されたエレキ達が!」

D r・ボイズン「さあ禁貨を目当てに乗り込んできたおろかなバンカーどもよ!エク

リプスカップの始まりだ!思う存分に戦いがいい!

XO「ありがとうございます。それでは早速第1試合を始めたいと思います!まず登場するのはブルックス選手!」

コロツケ「いきなりブルックスの登場か!」

いちか「あの強いからね。」

XO「対するのは仮面を着けた謎のバンカー、ウコン選手!」

コロツケ「あいつはさっきの。」

XO「それではルールの説明します!試合は超シンプル!相手バンカーが倒れ審判がダウンと判定すればそのバンカーは敗北となります。」

あきら「確かにシンプルだね。」

ブルックス「始まる前に言わせておこう、貴様を本気出さず一撃で倒す。」

ウスター「でた!ブルックスの余裕宣言!」

ゆかり「普段のブルックスってこうなのね。」

ウコン「・・・」

XO「お二人とも用意はいいですね、バトル開始!」

ウコン「いくよ!はあ!」

パシッ

ブルックス「それで本気のもりか？」

シエル「ウコンってバンカーあまり強くなさそうね。」

リゾット「ああ、確かに力は弱いが本気の方だ。」

ブルックス「そろそろとどめをさせてもらうぜ。闇の魔神！」

ウコン「うわあ！」

ドサツ

ブルックス「無様だな。・・・？審判、何をしている。そいつはダウンしてるだろ。」

審判「ブイ」

ブルックス「何のつもりだ。」

タツ

XO「なんとウコン選手！立ち上がりました！」

ブルックス「なんだと！」

Dr. ボイズン「フツ」

スツ

ウコン「はあ！」

ブルックス「ぐああ！」

コロツケ「速い！」

シャーベット「それだけじゃない!。パワーも全て上がってる!」

ウスター「まるでコロツケみたいだ!」

フオンドヴォー「コロツケ・・・まさか!」

いちか「どうしたの?」

ブルックス「貴様! どうやらあの審判とグルのようだな。なら本当の本気で立てないようにしてやろう。」

プリンプリン「うっ!。ブルックスの奴、かなり本気にやった!」

ウインナー「うん、冷や汗がくるよ」

ブルックス「こいつでくたばるがいい!。暗黒の大魔人!」

ウコン「・・・」

ガチャン

ズガッ

パン

XO「ウコン選手! 背負ってる剣でブルックスの技を切った!」

ブルックス「なに!」

コロツケ「ブルックスの技が通じない!」

ブルックス「なんだこいつ、さっきの貧弱な力がいきなり上がったのか」

ウコン「お前はお前の技でくたばれ！ブラックハンバーグー！」

ドカッ

ブルックス「ぐあああ！」

ドサッ

審判「ダウン！」

コロツケ「ブルックスの技を！」

XO「決まった！勝者、ウコン選手！」

バジル「あのブルックスを倒しただと！」

フランク「いや、あの審判も如イカサマしていた！」

ズッキーニ「しかしやられたはずなのに力が進化するなんて！」

フオンドヴォー「間違いない、ウコンはコロツケのクローンだ！」

リゾット「なんだと！」

あおい「あいつがクローンなのか！」

タロ「確かにやられてからの進化、バトルのスタイル、確かにコロツケその者じゃ！」

ゆかり「思えばあの審判もエクリップスの仲間のようなね。」

あきら「やつぱりエクリップスカップはバンカー達を誘き出す罠だったんだ！」

Dr. ボイズン「早速禁貨いただいな、クローンコロツケ。ウコン、早速いい仕事し

てくれた。さあ愚かなバンカーどもよ、エクリプスの為に戦うのだ!はっはっはっはっは  
!」  
つづく



## 第39話 悲しみの気持ち、メンマの怒り！

エクリップスドーム 控え室

コロツケ 「まさかブルックスが負けるなんて」

リゾット 「エクリップス、幹部にコロツケのクローンを出場させて俺達の禁貨を奪う計画だったんだな。」

ウスター 「くそ、やっぱり俺達はエクリップスの作戦に乗ってしまったのかよ。」  
ルイーザ 「だとしても戦わなければならないわね。」

コロツケ 「ルイーザ、いちか。」

いちか 「あの審判もエクリップスの仲間ならエクリップスが勝つためにイカサマするわ。」  
XO 「おっとこれは凄い展開になってきた！」

試合ステージ

ポトフ 「アクアビッグバン！」

ヤキソバ 「ぐあ！」

XO 「ポトフ選手対ヤキソバ選手のバトル、ポトフ選手の勝利だ！」

ポトフ 「やった！」

ひまり「ポトフさん凄いです!」

ドロップ「本当に強くなったのね!」

控え室

コロツケ「ポトフスゲー!」

ソール「さすがコロツケと互角に戦ったことはある。」

フオンドヴォー「1回戦もだいぶ進んだ、次は誰が」

審判「コロツケ選手、出番です。」

コロツケ「うん!」

いちか「コロツケ、気をつけて。」

コロツケ「任せて!」

試合ステージ

XO「それでは次の試合をはじめていききたいと思います。まずはコロツケ選手!」

スフレ「コロツケ!頑張って!」

XO「対するのはアボカド選手!」

コロツケ「アボカド!」

アボカド「久しぶりだな、愚かなバンカーめ。」

テト「アボカドも参加してたのね。」

あおい「知ってるのか？」

テト「うん、コロツケと戦ったことバンカーよ。」

アボカド「今度はお前を痛い目にあわせてやる！」

コロツケ「俺は負けない！」

XO「それではバトルスタート！」

アボカド「先手必勝！いくぜ！死のロンド！」

コロツケ「ハンバーガー！」

Dr・ボイズン「さて、コロツケの実力をお手並み拝見といくか。」

ダークラスト「Dr・ボイズン、コロツケを倒すのにヒート達を戦わせないのか。」

Dr・ボイズン「焦ることはありません。まずウコンにコロツケの攻撃を暗記させるのです。それに参加バンカーにコロツケに恨みを持つ者もいる。そいつらが倒してくれるなら好都合ですがな。ウコン、しっかり見ている！コロツケの攻撃パターンを。」

ウコン「ああ。」

コロツケ「うおおお！」

アボカド「これでどうだ！カッチンプレス！」

コロツケ「うあ！」

アボカド「死のロンド！」

コロツケ「うわ!」

アボカド「どんどんいくぜ! 死のロンド!」

コロツケ「うわ!」

シエル「強い!」

ペコリン「コロツケがやられてるペコ!」

悪兵士「これはコロツケを倒せるかもしれません!」

ダークラスト「そう考えるな。私も奴は知らんが実力を見ようじゃないか。」

アボカド「もう一発! 死のロンド!」

コロツケ「ハンマー壊!」

ドオン

アボカド「うあ! あいつが居ねえ! どこにいきやがった!」

コロツケ「ここだ!」

ストロベリー「上に!」

コロツケ「いくぞ! テンツドンアックス!」

アボカド「ぐあ!」

ウスター「テンツドンのかかと落としバージョンだ!」

アボカド「貴様!」

コロツケ「決めるぜ！ローストビーフ！」

アボカド「ぐああ！」

ドサツ

審判「ダウン！」

XO「決まりました！勝者、コロツケ選手！逆転勝利です！」

コロツケ「やった！」

アボカド「ちくしょ！」

Dr・ボイズン「ダメか、禁貨を取り上げてこい。」

悪兵士「はい！」

ダークラスト「奴がコロツケ、想像以上の強さか？」

Dr・ボイズン「どうってことありませんよ、ウコンの恐ろしさはこれからなんです

から。」

控え室

スフレ「コロツケが勝ちましたわ！」

フランク「ああ！」

メンマ「次は俺達の番だな。」

???「あれ？メンマにじゃないか。」

メンマ「チエダーおじさん！」

キャベツ「メンマさんの知り合いですか？」

メンマ「ああ、俺とアユが小さかったときに面倒を見てくれたんだ。」

ヤキトリ「そうか、メンマの両親は死んでしまったんだよな。」

チヨコパイ「チエダーさんもエクリプスカップに？」

チエダー「もちろん、俺の最後のバトルになるかもな。」

ウイスキー「最後って？」

チエダー「俺、バンカーを引退するんだ。」

メンマ「えっ！引退するの。」

チエダー「ああ、だから負けても悔いのないバトルにしてみせるって。」

審判「チエダー選手、試合ステージへどうぞ。」

チエダー「おっ！出番だ、お前達も頑張れよ。」

メンマ「うん……」

スフレ「メンマ、どうしました？」

メンマ「いや……なんか嫌な予感がする」

試合ステージ

XO「それでは次のバトル、まずはチエダー選手！」

アユ「チエダーおじさんだ！」

コロツケ「知ってるのか？」

アユ「面倒見のいいおじさんだよ。」

ゆかり「知り合いも参加してるなんてね。」

あきら「でも誰と対戦するのかな。」

XO「対するのはエクリップスの戦士！エレキ戦士！」

エレキ「へへへ」

ルイーザ「エレキだわ！」

XO「それではバトルスタート！」

エレキ「いくぜ！ゴニヨゴニヨ」

チエダー「なにゴニヨゴニヨ言つて、！なんだ、体が弱つて・・・」

エレキ「これでも食らえ！デスパーク！」

チエダー「ぐあああ！」

メンマ「チエダーおじさん！」

チエダー「はあ、はあ」

エレキ「へへへ、苦しいか？」

チエダー「まだ終わらんぞ！」

エレキ「生意気だな、本当に終わりだ。」

メンマ「やめろ!」

エレキ「デスパーク!」

ビリビリ

チエダー「ぐあああ!」

ドサッ

XO「決まった!勝ったのはエクリップスのエレキ選手だ!」

Dr・ボイズン「お見事だ。」

控え室

メンマ「おじさん!しっかりして!」

チエダー「悪いな、カッコ悪いとこみせて」

フォンドヴォー「それ以上喋っちゃダメだ!すぐに医者をも!」

チエダー「待ってくれ、メンマ最後に聞いてくれ」

メンマ「最後って!」

チエダー「アユと共に前に進めよ」

カクン

メンマ「チエダーおじさん!おじさん!」



審判「メンマ選手、ステージに移動してください。」  
メンマ「・・・」

試合ステージ

XO「それでは続いて、メンマ選手対アンチヨビ選手の対決です！」  
ウスター「メンマの相手はアンチヨビか、ついてないな。」

アユ「お兄ちゃん・様子が変わる」

コロツケ「メンマの様子？」

XO「それでははじめ！」

アンチヨビ「いくぞ！お前なんかすぐにあの世行きだ！デスクロー！」  
ガシツ

アンチヨビ「なに！」

メンマ「あの世行き？ふざけるな！」  
ドカツ

アンチヨビ「ぐああ！」

メンマ「うおお！シャイニングパンチ！」

アンチヨビ「ぐああ！」

メンマ「お前のように平気で人を死なせている奴がいるからいけないんだ！」

コロツケ「メンマ強い!」

プリンプリン「あのアンチヨビを圧倒してるだど!」

アユ「違う・・お兄ちゃんの戦いかたじゃない!」

いちか「メンマの戦いかたじゃない?」

ルイーザ「確かになんか乱暴過ぎる!」

XO「メンマ選手!なんて半端ない攻撃の連続!まさに怒りがこもっているようだ!」

ペコリン「メンマ怖いペコ!」

アンチヨビ「ぐあ!」

メンマ「ビッググシャニングパンチ!」

アンチヨビ「ぐああ!」

ドーン

XO「なんと!勝ったのはメンマ選手だ!」

メンマ「はあ、はあ」

Dr.ボイズン「ほお、あいつ、エレキにやられた奴が死んで怒り走っているようね。次の戦いが見ものだわ。はっはははは!」

こうして1回戦は終了した

つ  
つ  
く

## 第40話 悪魔のコロッケ!

サンサンキングダム 城

D r. ボイズン「ウコン、コロッケの攻撃と技はわかったかい？」

ウコン「ああ、次の相手はコロッケか？」

D r. ボイズン「いや、お前にはやってもらわなければならない事があるからね。」

ダークラスト「組み合わせを決めたのか。」

D r. ボイズン「勿論です。明日が見ものですよ、コロッケ一味がやられる瞬間が。」

大会2日目

X O 「皆さんようこそ！本日エクリプスカップ第二回戦が始まります！」

いちか「いよいよ二回戦か。」

ひまり「みんな無事でいらればいいんですけど」

X O 「さあそのあとメンマ選手対エレキ選手の決戦が始まります！」

コロッケ「メンマの相手はエレキか。」

控え室

メンマ「・・・」

アユ「お兄ちゃん。」

メンマ「アユ、あきらも。」

あきら「アユちゃんがメンマのところにいくつてついてきちゃった。」

アユ「ヤキトリ達から聞いたよ。チエダーおじさんがエレキの攻撃で死んだって、だからお兄ちゃんはアンチョビに凄い怒りをぶつけていたのね。」

あきら「メンマはもう大丈夫かな？」

メンマ「ああ、エクリプスのエレキが相手なら今の俺には丁度いいよ。」

あきら「気をつけて、エレキは私達が戦ったときより強くなってる。」

アユ「お兄ちゃん、頑張つて」

メンマ「任せろ、俺にはゆかりからのアドバイスがあるからな。」

あきら「ゆかりから？」

バトルステージ

XO「お待たせしました！第1試合、メンマ選手対エレキ選手のバトルが始まります！」

いちか「アユちゃん、あきらさん。」

コロツケ「間に合ったな。」

アユ「うん。」

あきら「ゆかり、メンマに何のアドバイスを？」

ゆかり「見てればわかるわ、彼、おこないがいいからエレキの雷には当たらないわ？」  
ドロップ「どういう意味？」

チャールズ教授「見ててください、彼は勝ちます。」

XO「それではバトルスタート！」

エレキ「へへへ、貴様も俺の雷で黒焦げにしてやるぜ。ゴニョゴニョ」

メンマ「またそれか。」

バトル前のホテル

メンマ「それって本当か！」

チャールズ教授「はい、調べた所エレキの呪文みたいな小声は意味がないただの時間稼ぎです、しかし何かの弾みで相手の体がマイナス化してしまうみたいです。」

メンマ「そうなると俺もチェダーおじさんの二の前になってしまうな。」

ゆかり「だとすれば方法があるわ。」

メンマ「ゆかり？」

ゆかり「あなたはおこないがいいから。」

そして

エレキ「ゴニョゴニョ」

メンマ「ん！体が・・そうか、フィールドに細工してあるのか。やはりエクリップスに  
たいした事ないうるだな。」

エレキ「なんだと!?!」

メンマ「そんな汚いやりかたしななければエクリップスはただの腰抜けどもだ!」

エレキ「黙れ! デススパーク!」

チャリーン

ビリッ

エレキ「なに!」

悪兵士「しまった!」

コロツケ「禁貨でエレキの雷を防いだ!」

あきら「そうか! 避雷針か!」

コロツケ「避雷針?」

ひまり「雷は金属に落ちやすいんです。」

あおい「ゆかりさんはそれをメンマに伝えたのか!」

メンマ「いくぜ!」

スッ

XO「メンマ選手が消えた!」

エレキ「ど、どこだ!」

アユ「後ろね。」

エレキ「なに!」

メンマ「うおお!」

エレキ「ぐあ!」

メンマ「シヤニングパンチ!」

エレキ「うあ!」

メンマ「お前にバンカーの誇りを味はらせてやる!ビッグシャイニングパンチ!」

エレキ「ぐああ!」

ドサツ

悪兵士「どうします!」

D r. ボイズン「奴はもう無理だ、ダウンでいい!」

審判「はい、ダウン!」

X O 「決まりました!勝ったのはメンマ選手!」

メンマ「おじさん、仇をとったよ。」

ダークラスト「期待外れだな。」

D r. ボイズン「まだです!次はこれでいく!」



XO「第2試合！コロツケ選手対サンド選手だ！」

コロツケ「サンドか。」

サンド「コロツケ、今度はおいどんが倒すでござす！」

ダークラスト「本当にサンドでコロツケは倒せるのだろうか。」

Dr. ボイズン「大丈夫です！」

XO「バトルスタート！」

サンド「コロツケ！覚悟するでござす！お前を倒しておいどんがエクリプスの最強幹部になるでござす！大地の刃物！」

コロツケ「うわ！」

いちか「サンドも新技！」

サンド「おいどんがお前を倒せばエクリプスの天下でござす！」

コロツケ「エクリプスに負けるもんか！」

サンド「その強がりもここまででござす！大地の刃物！」

グサツ

サンド「なっ！」

ひまり「ハンマーで受け止めた！」

コロツケ「ハンマー伸！」

サンド「うわああ!」

コロツケ「スーパーハンバーガー!」

ドカーン

サンド「ぐああ!」

ドサツ

サンド「くそ!」

コロツケ「とどめだ! ローストビーフ!」

サンド「ぐああ!」

ドサツ

D r・ボイズン「くっ、サンドもダウンさせろ!」

審判「はい! ダウン!」

X O「勝者、コロツケ選手!」

いちか「やった!」

あおい「これでエクリプスの幹部を2人倒したぞ!」

メイン室

エレキ「申し訳ございません!」

サンド「またやられてしまい」

D r・ボイズン「黙れ！」

ビィィィ

エレキ サンド「ぐあああ！」

カチーン

パリーン

ダークラスト「どういう事だ、エクリップスの幹部が奴らを倒せなかったぞ。これで余裕言えるのか。」

D r・ボイズン「待つてください！そもそもメインは幹部ではありません。」

ダークラスト「だとすると？」

D r・ボイズン「メインはウコンです。ウコンがこの大会の主役ですから。」

ダークラスト「ほお。」

ヒート「・・・」

リゾット「魂キヤノン！」

パンプキン「ぐあ！」

X O「リゾット選手！B B 7のパンプキン選手を下し3回戦に進出！」

ゆかり「さすがリゾットね。」

シエル「後はアーモンドね。」

XO 「続きまして、アーモンド選手!」

アーモンド 「出番か、相手は誰だ? エクリプスだろうと負けねえぞ。」

XO 「対戦相手はウコン選手!」

ペコリン 「アーモンドの相手はコロッケのコピーのウコンペコ!」

アーモンド 「まあいい、エクリプスの奴なら倒してやるぜ!」

コロッケ 「頑張れよ!アーモンド!」

XO 「それではバトルスタート!」

アーモンド 「いくぜ!ムゲンボム!」

ドカン

ウコン 「ウツ!」

アーモンド 「よし!どんどんいくぜ!」

ウコン 「うおお!」

グサツ

ウコン 「はっ!」

アーモンド 「パペットボンバー!

ドカン

ウコン 「うああ!」

アーモンド「どうだ！おい審判、ダウンだぜ。」  
ウコン「どうかな。」

アーモンド「なに！」

いちか「立った！」

アーモンド「くっ、ムゲンボム！」

スツ

アーモンド「なっ！」

ウコン「108ブラックハンバーガー！」

アーモンド「ぐああ！」

ウスター「108だど！」

あおい「あいつ！コロツケの108回の連続攻撃を！」

ウコン「うおお！」

アーモンド「ぐあ！まいった」

ウコン「ダメだ、オラ！」

アーモンド「ぐあ！」

あきら「まいったと言ってるのに関わらず攻撃！」

ひまり「ひどいです！」

リゾット「バトルスタイルはコロツケその者、弱つても容赦しない攻撃、まさに悪魔だ!」

コロツケ「悪魔の俺・・・」

ウコン「ブラックハンバーガー!」

アーモンド「ぐあああ!」

ドサツ

XO「決まりました!勝者、ウコン選手!アーモンド選手の禁貨は没収します。」

コロツケ「・・・」

ホテル

いちか「アーモンド、大丈夫?」

アーモンド「ああ、エクリプス、卑怯な奴らだぜ。」

ルイーザ「チャールズ教授、何してるの?」

チャールズ教授「エクリプスのコンピューターをハッキングです。何かあるか?と思

います。」

ピッ

チャールズ教授「ありました!」

ソール「何か分かったの?」

チャールズ教授「ウコンが産まれたについてです。」

いちか「ウコンが産まれた？」

エクリプスの基地

Dr. ボイズン「ウコンはどうやって産まれたかですか？」

ダークラスト「そうだ、コロツケのクローンを作った事について聞かせてくれ。」

Dr. ボイズン「わかりました、今から4週間前ですね。」

4週間前

悪兵士「Dr. ボイズン！手に入れました！コロツケの！コロツケの・・・から取った液体です！」

ズコツ

悪学者「なんでそこから取ったんだ！」

悪兵士「そこしかなくて」

Dr. ボイズン「別にどこでもいいわよ。コロツケのDNAが入ってるならね。」  
ピッピッピッ

悪学者「成功しました！」

Dr. ボイズン「おお！エクリプス最強の戦士、完成した！」

4週間後

チャールズ教授「そしてエクリプスはウコンに悪の心を宿しエクリプス最強の戦士と  
なった」

ルイーザ「コロッケのコピーの心を悪に染めるなんて」

ゆかり「エクリプスが産み出した悪魔のコロッケね。」

コロッケ「・・・」

つづく



## 第41話 複雑な決戦、コロツケ対ウイスキー！

コロツケの夢

バンカー「ぐああ！」

悪のコロツケ「はっはははは！」

ホテル

コロツケ「あつ！・・・夢か・・・嫌な夢だ・・・俺に悪の心が・・・いや、そんなわけない」

スフレ「・・・」

エクリプスドーム

XO「大会は早く4日目に入りました！」

ヒート「バーニングトレイン！」

メンマ「ぐああ！」

ドサツ

XO「決まった！ヒート選手、メンマ選手を倒しました！」

アユ「お兄ちゃんが負けちゃった」

いちか「ヒートも強くなってる。」

ペコリン「確かにかなり強いペコ!」

ルイーザ「ええ」

ゆかり「ところでコロツケは?」

あきら「そういえばさつきからいないね。」

海岸

コロツケ「・・・ウコンは俺のコピー、悪の俺・俺に悪の心があるのか」

スタツフ「コロツケ選手! 出番ですのでスタンバイしてください!」

コロツケ「うん!」

バトルステージ

XO「それでは本日の最終戦! コロツケ選手対フリーズ選手です!」

あおい「コロツケの相手はフリーズか。」

シエル「大丈夫! コロツケなら勝てるわ!」

いちか「?、なんかコロツケの元気がないような。」

スフレ「やっぱり夢を気にしているのね。」

リゾット「夢?」

XO「コロツケ選手対フリーズ選手! バトルスタート!」

フリーズ「（どうやらDr. ボイズンの計画通り、コロツケの心が弱くなっているようですね）、ではいきますよ！アイスアックス！」

スツ

フリーズ「なっ！」

コロツケ「ハンバーグー！」

フリーズ「ぐあ！」

ゴオン

フリーズ「バカな」

XO「一瞬で決まった！勝ったのはコロツケ選手！」

Dr. ボイズン「あの役立たず！」

ダークラスト「しかも一撃でやられてしまうとは情けないな。」

ひまり「エクリプスの幹部を一発で倒すなんて！」

あおい「元気がないように見えたけどなんともないみたいだな。」

シャーベット「それでもなさそうだ。」

ルイーザ「えっ？」

フォンドヴォー「コロツケのパワーがダウンしてる。」

ウィンナー「それでも一撃でフリーズを倒すなんて運がいいとしあ言えないかもしれ

ない。」

XO「これで本日の試合は以上です!」

ホテル

ルイーザ「大会もついにベスト16名となった、そこに生き残ったのはコロツケ、リゾット、ターボーン、フォンドヴォー、ウィスキー、カラスミ、マルゲリータ、レモネード、ニガリ、ユバ、ブーケガルニ、ヒート、リーフ、バブル、ストーム、ウコンとなった。」

メンマ「エクリプスの幹部も残つてるとなるときつい戦いになるぞ。」

ソール「そうだね。」

いちか「みんな勝ち上がってくればいいけど」

サンサンキングダム 城

Dr. ボイズン「一撃でやられた役立たずめ!」

フリーズ「ぐあああ!」

カチーン

パリーン

バブル「エレキもサンドもフリーズも復活したのにやられるなんてだらしないうね。」  
ダークラスト「どうする気だ? Dr. ボイズン、コロツケの心が弱ってないではない

か。」

Dr. ボイズン「こうなればもつと複雑な組み合わせにしてやるか。」

翌日 エクリプスドーム

XO「さあエクリプスカップもついにベスト16！早速第1試合は同対決！マルゲリータ選手対レモネード選手のバトルが始まっています！」

レモネード「水のリボルバー！」

マルゲリータ「おろかな、混沌フレア！」

レモネード「ちっ！」

マルゲリータ「リーダーに逆らった事を後悔するがいい！」

レモネード「誰がテメエをリーダーと認めるか！リーダーは俺様だ！やれチェリー！」

チェリー「ピューイ！」

レモネード「水のドラゴン！」

マルゲリータ「フフフ、そんな技通じませんよ。シャインフレア！」

ボオー

チェリー「ピューイ！」

レモネード「チェリー！」

ドカーン

レモネード「ぐあああ!」

ドサツ

XO「決まった!勝者、マルゲリータ選手だ!」

マルゲリータ「私を窒息させた罪は大きかったようですね。レモネード君。」

レモネード「ちくしょ」

控え室

リゾット「マルゲリータが勝ったか。」

ウイスキー「コロツケ、いつまでしょげてるんだよ。」

コロツケ「いや、いやな夢をみてから」

ウイスキー「気にするなよ。クローンはクローン、お前はお前だからコロツケらし

くすれいいんだよ!」

フオンドヴォー「ウイスキーの言う通りだ。コロツケはコロツケだからな。」

コロツケ「うん!ありがとう!」

ウイスキー「よし!頑張ろうぜ!」

スタツフ「コロツケ選手、ウイスキー選手、試合会場へ。」

コロツケ ウイスキー「「えっ!?!」」

## 試合会場

XO「さあ続く第2試合！こちらも同対決でなんとコロッケ選手対ウイスキー選手との激突です！」

ホテル

ヤキトリ「なんだって！」

ウスター「コロッケとウイスキーが戦うだと！」

チヨコパイ「メンマ！アユ！みんなに知らせてきてくれ！」

アユ「うん！」

メンマ「わかった！」

エクリプスドーム

ダークラスト「コロッケと仲間とのバトルか面白い事を考えたな。」

Dr. ボイズン「もちろんですとも。カメラをセットせよ！」

悪兵士「はっ！」

コロッケ「・・」

ウイスキー「よりによって心が弱ってるコロッケと戦うなんて」

ホテル

ウスター「マジかよ、こんなことって」

あおい「エクリプスの奴ら、コロツケとウイスキーを戦わせてどうする気だ!」

エクリプスドーム

コロツケ「まさかウイスキーと戦うんな」

ウイスキー「コロツケ、全力で戦おう!」

コロツケ「ウイスキー・・・」

ウイスキー「気持ちは俺もわかる、だけど俺もお前と全力で戦戦いたかったんだ!」

コロツケ「・・・うん!よしウイスキー!いくぞ!」

XO「さあ両者動きました!」

コロツケ「ハンバーガー!」

ウイスキー「鏡返しアタック!」

ガン

ウイスキー「これがコロツケのハンバーガー、効いたぜ!」

コロツケ「俺もウイスキーの技効いたよ!」

リゾット「あいつら、本気で戦ってるみたいだな。」

フオンドヴォー「ああ!」

コロツケ「うおお!108ハンバーガー!」

ウイスキー「うあ!ガード仕切れないぜ!」



いちか「すごい戦いになるわ！」

ルイーザ「うん！2人も全力で戦ってる！」

コロツケ「ハンバーガー！」

ウイスキー「ミラーガード！」

ガン

コロツケ「うあ！」

ウイスキー「デイメンショントルネード！」

コロツケ「うわ！」

ウイスキー「どんどんいくぞ！デイメンションハリケーン！」

リゾット「ウイスキーの新技だ！」

コロツケ「それなら俺はこれだ！ギュードン！」

ギョルルル

コロツケ ウイスキー「うおお！」

ドカーン

ウイスキー「うわ！」

コロツケ「はああ！」

ウイスキー「あっ！」

コロツケ「ハンバーガー!」

ドカツ

ウイスキー「ぐあああ!」

ドカツ

XO「決まりました!勝者、コロツケ選手!」

ウイスキー「負けたよ。コロツケ、ありがとな。」

コロツケ「うん」

Dr. ボイズン「映像は撮れたか?」

悪兵士「はっ!」

ダークラスト「しかしコロツケの奴も複雑だっただろうな。仲間同士で戦うのは。」

Dr. ボイズン「だからこそですよ。今のバトルでコロツケの心もさらに弱ってるだろう!」

悪兵士「しかしコロツケには負けてもらわないとなりませんが。」

Dr. ボイズン「安心しな、今のコロツケなら十分倒せるだろう。エクリプスの恐ろしいさを思いしるがいい!」

つつく

## 第42話 正義か悪か！悩むコロツケの心！

エクリプスドーム

XO「第3試合！フォンドヴォー選手対ニガリ選手は白熱しています！」

ニガリ「円月斬！」

ギイン

ニガリ「なに！」

フォンドヴォー「残念だったな。シャドーブレイク！」

ザン

ニガリ「外したか。」

フォンドヴォー「それはどうかな？」

ニガリ「なに！動けん！」

フォンドヴォー「ハンバーガー！」

ニガリ「ぐああ！」

ドサツ

XO「決まった！フォンドヴォー選手、ニガリ選手を下しました！」

ホテル

ウスター「フオンドヴォーが勝ったぞ！」

ルイーザ「ええ！」

スフレ「後はリゾットとTーボーンが勝ってくればいいだけですわ。」

ゆかり「そうね。」

あおい「ねえ、そういえばコロツケは？」

ひまり「えっ？確かにいませんね。」

いちか「もしかして」

海岸

コロツケ「メンチ、俺に悪の心があるのかな」

メンチ「ブヒ！ブヒブヒ！」

コロツケ「そうだよな、俺に悪の心があるはずないよな」

いちか「やっぱりここだったんだ。」

ペコリン「ウイスキーとバトルのときは大丈夫そうだったけどまた元氣なくしてるペ

コ。」

ね。あきら「無理もないよ。いくらバンカーバトル大会でもこれはエキリプスの罠だから私達が何かしたところでどうにかできる訳でもない。」

いちか「そうですけど」

コロツケ「あれ？いちかにあきら、ペコリンも。」

いちか「ちよつと様子を見るに」

ウオオオ！

あきら「ドームが盛り上がってる。」

ペコリン「見に行くペコ？」

コロツケ「そうだな。」

再びエクリプスドーム

XO「エクリプスカップ第4試合のブーケガルニ選手対ストーム選手はストーム選手

の余裕の勝利で終わり第5試合、リゾット選手対リーフ選手の試合が始まります！」

コロツケ「リゾットか。」

いちか「頑張つて！」

リーフ「リーフブーメラン！」

リゾット「そんなの！108マシンガン！」

リーフ「なに！」

リゾット「トリックキャノン！」

リーフ「ぐあ！」

XO 「決まりました!リゾット選手の勝利です!」

バブル 「バブルボンバー乱れうち!」

Tーボーン 「ぐお!」

XO 「第6試合!Tーボーン選手対バブル選手はバブル選手が圧しています!」

Tーボーン 「カルシウムハリケーン!」

バブル 「はっ!うあ!」

ドサツ

XO 「逆転!Tーボーン選手が勝ちました!」

Dr・ボイズン 「チツ、バブルもリーフもやられてしまったか。」

ダークラスト 「消すのか?」

Dr・ボイズン 「当然です。エクリプスに役立たずは必要ない。」

いちか 「やったねコロツケ!リゾットとTーボーンが勝ったよ!」

コロツケ 「うん!」

XO 「続きまして、ユバ選手対ヒート選手!スタート!」

ユバ 「エクリプスの幹部、消えろ!デリートプロミネンス!」

ヒート 「消えろだど?てめえが消えろ!バーニングリング!」

ユバ 「ぐあ!」

ヒート「俺の炎で地獄に落ちろ！フレイムキラー！」

ユバ「うわああ！」

ドサツ

XO「ヒート選手！ユバ選手を下しベスト8に入りました！」

あきら「ヒートも強くなってる。それに次はウコンの登場だ。」

コロツケ「うん。」

XO「それでは本日最終戦！カラスミ選手対ウコン選手！」

カラスミ「ウコン、コロツケのコピーか。」

XO「最終戦スタート！」

カラスミ「コロツケのコピーだろうと誰のコピーだろうと関係ない！勝たせてもらう

ぞ！メテオインパクト！」

コロツケ「いきなりカラスミの大技だ！」

ウコン「フツ、ブラックハンバーガー！」

ガアーン

カラスミ「うっ！」

Dr.ボイズン「ウコンよ、研究した成果をみせる。」

ウコン「ブラックハンバーガー！」

カラスミ「ぐあ!」

いちか「コロツケのハンバーガー!」

ウコン「これで終わりにするよ!108ブラックハンバーガー!」

カラスミ「ぐああ!」

ペコリン「108ハンバーガーも使ってるペコ!」

XO「ウコン選手!容赦のない攻撃だ!まるで殴るのを楽しんでいるようだ!」

コロツケ「殴るのを楽しんでる・・・」

いちか「コロツケ・・・」

ウコン「ブラックハンバーガー!」

カラスミ「ぐああ!」

XO「決まりました!勝ったのはウコン選手!これでベスト8が決まりました!明日

の試合をお楽しみに!」

コロツケ「やっぱり俺に悪の心が・・・」

いちか「コロツケ・・・」

つづく



## 第43話 コロツケのストレス！

サンサンキングダム之城

リーフ バブル 「うわあー！」

カチーン

パリーン

D r. ボイズン 「役立たずは消えるがいい。」

ストーム 「これで幹部が2人になりましたね。」

ヒート 「あんな奴ら俺様で十分なんですよ。」

ダークラスト 「調子に乗るな！ D r. ボイズン、残った幹部とクローンで勝てると思ってるのか？」

D r. ボイズン 「それが何か？」

ダークラスト 「言わせてもらおう、今のままでは奴らには勝てん！」

ヒート 「なっ！」

ダークラスト 「今の奴らで100%勝てるとは思えん。」

D r. ボイズン 「それならウコンの力を100%にしていきましょう。」

ホテル

コロツケ「……」

キラリン「コロツケ、元気ないキラ。」

リゾット「そうだな。食事もそんなに食べなかつたし。」

ゆかり「多分ストレスね。」

いちか「ストレス!」

スフレ「明るくつて元気なコロツケにストレスは無縁と思いましたが」

フォンドヴォー「無理もない、今のコロツケの気持ちになるとそうなるだろう。」

あおい「そうだろうけどな。」

ルイーザ「立ち直るかしら。」

ウスター「そうなればいいがな。」

コロツケ「……」

ソール「みんな!テレビを見てください!」

ルイーザ「どうしたの?」

XO「お待たせしました!明日の組み合わせを発表いたします!」

ひまり「エクリプスカップの組み合わせみたいですな。」

XO「第1試合、コロツケ選手対ストーム選手!第2試合、フォンドヴォー選手対T」

ボーン選手！第3試合、マルゲリータ選手対ヒート選手！第4試合、リゾット選手対ウコン選手との組み合わせが決まりました！」

「ボーン「オラの相手はフォンドヴォーだったっぺか。」

リゾット「俺はウコン。」

ストロベリー「コロツケの相手はエクリプスのストームで幸いね。」

誠司「そうだな。」

テト「みんな、頑張つて。」

次の日 エクリプストーム

XO「皆さん、お待たせしました！エクリプスカップもいよいよ準々決勝！勝利して準決勝に行くのは誰なのか！それでは第1試合、コロツケ選手対ストーム選手からはじめます！」

ストーム「久しぶりね。コロツケ！」

コロツケ「ストーム」

いちか「相手もかなりパワーアップしてるはずだよ！」

ダイフクー「だろうな、けどコロツケなら大丈夫だ。」

XO「それではバトルスタート！」

ストーム「ダークラスト様の為にあなを倒す！ハリケーンラッシュュ！」

コロツケ「うあ!」

メンマ「自分が竜巻になって体当たりする技か!

ストーム「思った通りの状態ね、コロツケは。」

コロツケ「ハンバーガー!」

ストーム「トルネードタックル!」

コロツケ「うわ!」

プリンプリン「コロツケが圧されてるぞ!」

チョコパイ「しっかりしろ!コロツケ!」

コロツケ「くそ」

ストーム「あなたもおしまいね。」

悪兵士「順調ですね、このままならコロツケを倒せます!」

ダークラスト「そう思うか。」

ストーム「ダークラスト様もコロツケ勝てないって言ってたけどこの私がエクリプスのトツプよ!」

コロツケ「ローストビーフ!」

ストーム「うあ!」

コロツケ「お前達に負けるもんか!ギュードン!」

ストーム「はっ！きやあ！」

ドサツ

XO「決まりました！コロツケ選手、準決勝に進出！」

ルイーザ「やったわコロツケ！」

いちか「うん！」

ダークラスト「やはりダメではないか。」

Dr・ボイズン「そんな事ありません！最後に笑うのは我々ですから！」  
つづく

## 第44話 進化する強さ!リゾット対ウコン!

XO「さあ準々決勝第2試合!Tーボーン選手対フォンドヴォー選手が激突しています!」

Tーボーン「カルシウムクラッシュ!」

フォンドヴォー「うお!」

いちか「フォンドヴォーとTーボーン、どっちも互角だね。」

コロツケ「うん!」

ルイーザ「さすがコロツケの仲間ね。」

フォンドヴォー「ハンバーグ!」

Tーボーン「ぐお!これならどうだっぺ!カルシウムハリケン!」

フォンドヴォー「ぐあ!」

ドサツ

XO「決まりました!勝者、Tーボーン選手!」

あおい「Tーボーンが勝ったな。」

あきら「フォンドヴォーさんも惜しかったね。」

ひまり「そうですね。」

シエル「後はリゾットが勝つだけね。」

ゆかり「それならいいけどね。」

XO「つづく第3試合！BB7のマルゲリータ選手対エクリップスのヒート選手が激突します！」

バジル「ここはマルゲリータに頑張ってもらいたいが。」

ズッキーニ「相手はユバを余裕で倒したヒートだ。難しい。」

XO「さあはじまりました！」

マルゲリータ「混沌フレア！」

ヒート「てめえの技なんてその程度か？デスファイアGX！」

ボオー

マルゲリータ「なに！」

ヒート「貴様も大した事無さそうだな。」

マルゲリータ「おのれ！シャワーエッジ！」

ヒート「フレイムキラー！」

ボオー

ヒート「効かねえな。」

マルゲリータ「なら私の凶器でやられるがいい!ソウルイーター!」

ヒート「バーニングリング!」

パリーン

マルゲリータ「なっ!」

ヒート「デスファイアGX!」

マルゲリータ「ぐああ!」

ドサツ

XO「決まりました!ヒート選手の圧勝です!」

あきら「やっぱりヒートは強い!」

XO「本日最終戦、リゾット選手対ウコン選手です!」

コロツケ「頑張れよ!リゾット!」

テト「負けないで!」

リゾット「コロツケとTーボーンが勝ち上がったんだ、俺もいくぞ。」

ウコン「フッフッフ」

XO「それではバトルスタート!」

リゾット「クローンと言えどもコロツケだ、バトルスタイルはコロツケそのもの」

ウコン「来ないのか?こっちからいくぞ!」



シエル「ウコンが動いた！」

ウコン「ブラックハンバーガー！」

リゾット「108マシンガン！」

ガン

リゾット「魂キャノン！」

ウコン「ぐあ！」

ああ「決まった！」

ウコン「くそ、うおお！」

リゾット「エクリプスに負けない！ソウルバスター！」

ウコン「ぐあ！」

リゾット「決めるぞ！トリックキャノン！」

ウコン「ぐああ！」

ドサッ

XO「リゾット選手の技が炸裂！決まったか！」

コロツケ「これでリゾットの勝ちだ！」

ゆかり「待って、審判がコールしてないわ。」

あきら「ブルックスのときと同じだ！」

リゾット「またイカサマか。」

ムクツ

XO「ウコン選手立ち上がりました!」

リゾット「くっ、それなら108魂キャノン!」

ウコン「108ブラックハンバーガー!」

ガンガン

リゾット「なに!」

スッ

リゾット「なっ!」

ウコン「ブラックハンバーガー!」

リゾット「ぐあ!」

テト「リゾット!」

ウスター「あいつ、さっきより強くなってるぞ!ブルックスのときよりさらに!」

リゾット「なんてパワーだ」

ウコン「おしまいだ、108ブラックハンバーガー!」

ドカドカ

リゾット「ぐあ!」

ドサツ

コロツケ「リゾツト！」

XO「決まりました！ウコン選手の勝利です！これで準決勝者が決まりました！」

あおい「あいつら、どれだけイカサマすれば気がすむんだ！」

いちか「これでこつちの仲間が勝ち上がったのはコロツケとTーボーンになったわ。」

ルイーザ「ええ。」

Dr・ボイズン「これでウコンの強さが50パーセント。我がエクリプスの最強兵士

ウコンがもうじき完成する！」

ヒート「……」

つづく

## 第45話 プラレタリウムの罠!コロツケ対Tーボーン

!

サンサンキングダム之城

D r・ボイズン「ウコンの強さも半分の50パーセントに来た今順調に進んでいるな。」

ダークラスト「ほお、それで計画は上手くいく自信はあるんだな。」

D r・ボイズン「もちろんです。最後にウコンが完全な100パーセントの力を手にすれば敵はありませんよ!」

ヒート「気に入りませんね。」

D r・ボイズン「ヒート。」

ヒート「エクリプスにはこの最強の幹部、ヒートがいるんですぜ!それを産まれたばかりの奴に最強だなんて図々しい!」

ダークラスト「貴様も大した自信だな。」

D r・ボイズン「面白い、それならウコンより強いと証明してみろ!明日にな。」  
ヒート「えっ?」

Dr. ボイズン「コロツケにはなんとしても負けてもらわなければ。」  
次の日 エクリプスドーム

XO「それでは皆さん、お待たせしました！エクリプスカップもついに準決勝が始まります！」

いちか「あつという間に準決勝か。」

ひまり「そうですね。」

あおい「エクリプスはどんな組み合わせにする気だ。」

XO「それでは準決勝の組み合わせを発表します！」

コロツケ「俺は誰と戦うんだ。」

XO「第1試合はコロツケ選手対ターボーン選手！」

コロツケ「えっ！」

ターボーン「オラがコロツケと！」

シエル「よりにもよってコロツケがターボーンと戦うなんて！」

ルイーザ「ん？ちよつと待って。」

ソール「どうしました？」

ルイーザ「準決勝に残ったのはコロツケにターボーン、ヒートにウコン、それじゃ次は」

XO 「その第2試合はヒート選手対ウコン選手です!」

あきら 「エクリプス同士で対決!」

ゆかり 「向こうはどういうつもりなのかしら。」

XO 「それでは準決勝は特別に!」

パチン

いちか 「天井が!」

キラーン

ひまり 「プラレタリウム?」

XO 「そうですね!これはプラレタリウムです!映し出される惑星のもとで戦ってもらいます!」

ソール 「でもなんで準決勝でそんな仕掛けを?」

ペコリン 「きっと何かあるペコ。」

XO 「それでは両選手、準備はよろしいでしょうか!」

コロツケ 「まさかTーボーンと戦うなんて・・・」

Tーボーン 「コロツケ、オラも辛いつぺ。でも戦わなければエクリプスの思うつぽだつぺ!」

コロツケ 「うん、よし!戦うぞ!」

XO 「それでは準決勝第1試合、コロッケ選手対Tーボーン選手、スタート！」

Tーボーン 「いくつペよ！カルシウムクラッシュ！」

コロッケ 「ハンマー掌！」

ガン

コロッケ 「ハンバーガー！」

Tーボーン 「カルシウムアタック！」

ガン

XO 「いきなりの大激突！両選手に火花が出ています！」

Dr. ボイズン 「そろそろ面白くなりますよ。」

ダークラスト 「何の事だ？」

Dr. ボイズン 「出ました。」

ペコリン 「ペコ？ 大きなお月様ペコ。」

ソール 「月？」

ウスター 「まずい！」

チャールズ教授 「どうしました？」

Tーボーン 「うおおお！」

プリンプリン 「なっちまった！」

Tーボーン「きやうくん!」

チャールズ教授「犬になった!」

ドロツプ「相変わらずかわいい!」

ルイーザ「本当!」

いちか「そうじゃなくて、確かTーボーンは犬になったら通常の10倍は強くなるんだっけ?」

リゾット「ああ。」

チャールズ教授「10倍!」

誠司「てかプラレタリウムの月でも変身できるのか?」

キャベツ「はい、Tーボーンさんは月型の風船で変身したくらいですから。」

ルイーザ「つまり完璧な月似なら変身するって事?」

ゆかり「そう言う事ね。」

あきら「何が?」

ゆかり「このプラレタリウムもエクリップスの罠なのよ。」

フオンドヴォー「そうか!犬になったTーボーンの強さでコロツケを倒す作戦か!」

「ダークラスト「変身すると通常よりかなり強くなるか、そのために仲間対決で戦わせたのか。」」



Dr. ボイズン「そう言う事です。」

ダークラスト「面白い考えだな。」

Tーボーン「きやうーん！」

ドカ

コロツケ「うあ！」

チャールズ教授「本当に強い！」

Tーボーン「きやうーん！」

コロツケ「お手！」

ボン

Tーボーン「あれ？オラは何を？あつ！コロツケがボロボロだつぺ！」

コロツケ「Tーボーンからもらったダメージだよ！」

Tーボーン「えっ？オラがいつコロツケを？あつ！うおおお！」

あおい「また！」

Tーボーン「きやうーん！」

コロツケ「くそ、ハンバード！」

ルイーザ「あれじゃコロツケがやられるわ！」

コロツケ「まさかこんな形で犬になったTーボーンと戦う事になっちゃうなんてね」

Dr. ボイズン「フッフ、思う存分苦しむがいい!」  
つづく

## 第46話 悪の同対決！ヒート対ウコン！」

XO「さあ！エクリップスカップ準決勝！コロッケ選手対ターボーン選手の試合はターボーン選手がコロッケ選手を圧倒しています！」

ターボーン「きやうーん！」

コロッケ「ぐあ！」

Dr. ボイズン「順調ね、この組み合わせは成功だ。」

ダークラスト「このままコロッケの敗北は確定だろうか？」

Dr. ボイズン「確定です。」

いちか「あのままじゃコロッケが！」

あおい「くそ、コロッケかターボーンのどちらが勝ってほしいと思ったけどエクリップスの罠じゃ！」

あきら「何度ももとのターボーンに戻してもあのプラレタリウムの月が出てきてるんじゃない。じゃどうにもならない。」

ペコリン「ペコ？」

いちか「どうしたのペコリン？」

ペコリン「あそこ」

ひまり「あの兵士がプラレタリウムを操っているんですね。」  
ゆかり「そうですね。」

ペコリン「ペコリンに任せるペコ!」

リゾット「どうする気だ?」

ボオン

キラリン「キラリンも行くキラ。」

悪兵士「へへへ、これでコロツケも終わりだな。」

タン

悪兵士「ん? 誰だ。」

ペコリン キラリン 「セーの」

クイ

悪兵士「うお!」

ゴチン

悪兵士「ふにゃ〜」

キラリン「やったキラ!」

ペコリン「後は、これペコ。」

ポチッ

ギツギツギ

XO 「おっと！どうしたのですよ！突然プラレタリウムが切れてしまいました！」

ダークラスト 「一体どうした？」

Dr. ボイズン 「何が、おい！何やってんだ！状況移せ！」

悪学者 「はい！」

ポチッ

悪学者 「気を失っています。」

Dr. ボイズン 「ムッ！あれはプリキュアの妖精！余計なことを！」

Tーボーン 「きやうーん！」

コロツケ 「お手！」

ボン

Tーボーン 「あれ？オラはまた何を？」

コロツケ 「はあ、はあ。」

ダークラスト 「どうするんだ、Dr. ボイズン。」

Dr. ボイズン 「ええい、今のコロツケなら確実に倒せるはずだ！」

Tーボーン 「コロツケ！いくつぺよ！カルシウムアタック！」

コロツケ「負けるもんか!108ハンバァグー!うおおお!」

Tーボーン「ぐおお!」

コロツケ「はあ!」

Tーボーン「ぐあ!」

ドサツ

XO「決まりました!勝ったのコロツケ選手!決勝進出です!」

Tーボーン「コロツケ、やるっぺな!」

コロツケ「うん。」

Dr・ボイズン「くそ!」

ダークラスト「勝ってしまったではないか。」

Dr・ボイズン「まあいい、優勝するのは我々エクリップスだ!」

ヒート「優勝するのはこのエクリップスの最強戦士、ヒートですよ。このクローンの馬の骨より最強なところを見せてあげましょう。」

ウコン「Dr、やっていいんだね。」

Dr・ボイズン「かまわん、やってもよい。」

ステージ

XO「続きまして、準決勝第2試合!ヒート選手対ウコン選手の試合です!」

いちか「エクリプス同士の対決」

ルイーザ「どうなるのかしら。」

コロツケ「前よりかなり強くなってるヒートに俺のコピーのウコン」

ヒート「ウコンよ、てめえにこの俺様が最強戦士だつて事を思い知らせてやるぜ。」

ウコン「その言葉、このまま返すよ。」

ヒート「なんだと？」

XO「それでバトルスタート！」

ヒート「先手必勝！デスファイアGX！」

ウコン「うあ！」

ヒート「デスフレア！」

ウコン「うっ！」

XO「ヒート選手の炎技がウコン選手を苦しめています！」

ヒート「へっ、コロツケのクローンなんてたいしたことねえな、しよせんてめえはコ

ピーなんだよ！バーニングリング！」

ウコン「ぐあ！」

ヒート「こいつでとどめだ。フレイムキラー！」

ウコン「ぐあ！」

ドサツ

ヒート「決まったぜ。審判、何してんだよ。」

コロツケ「ブルツクスのとくと同じだ!」

ヒート「どう見てもやられてるだろ!」

ムクツ

ヒート「なに!」

XO「ウコン選手!立ち上がりました!」

ヒート「バカな!あれだけの攻撃を食らわせたのに!Dr.ボイズン、どこまでこいつをひいきするつもりだ。」

ウコン「まだやるのかい?」

ヒート「なんだと!だったら二度と立てないようにしてやるよ!バーニングリング!」

ウコン「・・・」

パシツ

ヒート「なに!」

ウコン「ブラツクハンバーガー!」

ヒート「ぐあ!」



リゾット「また一段と強くなった！」

ヒート「デスファイアGX！」

ウコン「はあ！」

ボオ

ヒート「消しやがった！」

ウコン「やっぱりお前は捨てゴマなんだよ！」

ヒート「このやろ！」

ウコン「フツ」

カチャ

コロツケ「剣に？まさか！やめろー！」

ザン

ヒート「あっあああ・・・」

ドサツ

観客「「うわあああ！」」

XO「決勝進出はウコン選手！」

ルイーザ「なんて事を！」

ウスター「よりもよってヒートを！」

マスタード「このバトル大会はテレビ中継されているんだぞ!」

チャールズ教授「中継もエクリプスの思いで動いています!」

コロツケ「俺のコピーがとうとう人を殺してしまった」

Dr. ボイズン「これでウコンの強さが80%アップ。明日の決勝戦は確実に勝ちますよ!」

ダークラスト「期待していいんだな。」

Dr. ボイズン「もちろんですとも!今のでコロツケもかなり心が弱ってますから

な、はっはははは!」

つづく

## 第47話 命がけの決戦！コロツケ対ウコン！

サンサンキングダム之城 監禁ルーム

D r. ボイズン 「ハロー、プリキユア達。」

なぎさ 「D r. ボイズン」

D r. ボイズン 「明日お前達に最高のショーをお見せしようと思ってるね。」

みらい 「最高のショー？」

D r. ボイズン 「コロツケがやられサンサンキングダムがエクリプスの国になる  
ショーさ。」

リコ 「どんな奥の手を使ってもコロツケは負けないわ！」

D r. ボイズン 「ほざいてろ。さて、ウコン、明日はこれを着けて戦うんだ。」

ウコン 「これは？」

D r. ボイズン 「パワーレット、腕に着ければ自分のパワーがわかるは。」

ウコン 「それが全て消えるかどうか？」

D r. ボイズン 「もちろん死ぬだけだ！」

その頃海岸

コロツケ「……俺……本当に悪の心があるのかな」  
メンチ「ブヒ」

いちか「やつぱりここだったんだね。」

コロツケ「いちか」

いちか「暗くなるから戻ろう。みんな待つてるよ。」

コロツケ「そうだね、明日の決勝戦にそなえないとな。」

ペコリン「コロツケ、かなり落ち込んでるペコ。」

いちか「無理もないよ、コロツケのクローンがあんなことしちゃったんだもん。」

ペコリン「どうするペコ?」

いちか「これはコロツケの戦いだから私達じやどうにもならない、立ち直れるかはコロツケしだいだから。」

コロツケ「いちか、戻ろう。」

いちか「うん!」

ホテルのロビー

ザツ

いちか「なに!」

コロツケ「なんだお前達は!」

バンカーA 「コロツケ、明日の決勝戦、俺達の方も頑張ってくれ！」  
コロツケ 「えっ？」

バンカーA 「俺達はお前に勝ってもらいたい、いや、勝ってもらわないとダメなんだ！」

いちか 「待ってください！ 一体どうしたんですか！」

バンカーA 「俺達は禁貨を手に入れるためではなくバンカーの誇りを持って大会参加した。だがこの大会は俺達のプライドをスタポロにしゃがった！ この大会はエクリプスが勝つために仕組んでいたんだ！」

バンカーB 「そうだ！ 俺達はエクリプスのエサだったんだ！」

バンカーC 「あいつの思い通りにはさせね！」

バンカーD 「だから決勝戦で勝ってエクリプスにバンカーの誇りを思い知らせてやってくれ！」

バンカーE 「頼むぜコロツケ！」

コロツケ 「みんな・・・」

廊下

いちか 「プリキュアを助けるだけじゃなく応援してくれたみんなの為の戦いになったね。」

コロツケ「うん」

部屋

いちか「ただいま。

コロツケ「ごめん、遅くなったよ。」

スフレ「お帰りなさい。みんな待ってたわよ。」

コロツケ「うん。」

オリーブ「あつ、コロツケ。戻ってたのね。」

あおい「オリーブ。」

あきら「コロツケを探してたの。」

オリーブ「まあ部屋に戻ろうとしたときエクリプスの兵士がこれをコロツケに渡せつて。」

ひまり「何ですか?」

オリーブ「なんだか知らないけどそのブレスレットを腕に付けて決勝戦に挑めって言ってたわ。」

ゆかり「何かありそうね。」

シエル「それ罫じゃないの。」

オリーブ「何も仕掛けはないって言ってたわ。」

コロツケ「これを着ければいいのか。」

ルイーザ「コロツケ。」

コロツケ「ルイーザ。」

ルイーザ「いよいよ明日ね。」

コロツケ「うん！」

リゾット「頼むぞ、サンサンキングダムとプリキュア達の運命はお前にかかっているんだ。」

コロツケ「わかっている」

いちか「・・・あつ、キラツとひらめいた！」

翌日 エクリプスドーム

あおい「「すごい人だな。」

シエル「決勝戦だからお客さんは満員ね。」

あきら「よく見るとカラスミ達やユバ達やBB7もいるね。」

スフレ「戻りましたわ。」

ドロツプ「スフレ、いちか。」

ウスター「コロツケの様子はどうだった？」

スフレ「心は相変わらずですわ。」

フォンドヴォー「無理もない、相手はクローンだからな。」

いちか「大丈夫、コロツケに元気付けのスイーツを渡したから。」  
ストロベリー「スイーツ?」

控え室

コロツケ「ふう、ありがとう、いちか。」

数分前

スフレ「コロツケ、調子は大丈夫ですか?」

コロツケ「うん」

ペコリン「やっぱり怖いペコ?」

コロツケ「怖いよ・俺・本当に悪の心があるのか不安なんだ」

いちか「コロツケ、これ食べて元気出して。」

スフレ「それは?」

いちか「コロツケのパンケーキ!ヘルメットはイチゴソース!」

スフレ「コロツケに似てますわ!」

ペコリン「ペコ!キラキラルがいっぱいペコ!」

数分後

審判「コロツケ選手、そろそろ試合会場へどうぞ。」



コロツケ「よし！」

エクリプスの控え室

悪学者「いいか、D r. ボイズンの命令だ。コロツケの始末しろ！」

ウコン「ああ。」

カパツ

悪学者「あつ！なんて顔だ！」

ステージ

チャールズ教授「皆さん、あそこ！D r. ボイズンの隣に居るのがエクリプスのボス、  
ダークラストです。」

リゾット「あいつがエクリプスのボスか。」

いちか「エクリプスの幹部達が言ってたあの方ね。」

プリンプリン「そんなことよりまだ始まんねえのかよ。」

誠司「少し緊張しろ！」

X O「大変長らくお待たせしました！エクリプスカップもついに決勝戦！それでは選  
手の入場です！まずはどんな強敵にも逆転勝ちをしてきたミラクルバンカー！コロツ  
ケ選手！」

観客「コロツケ！コロツケ！コロツケ！コロツケ！コロツケ！」

ひまり「すごい声援です!」

シエル「全席の人達が応援してる!」

ストロベリー「ええ!」

ウコン「フッフッフ」

コロツケ「!」

XO「コロツケ選手に対するのはエクリプスカップの優勝候補!エクリプス最強の戦士!ウコン選手!」

コロツケ「あっ!」

ユバ「仮面を外してろぞ!」

ブーケガルニ「まるで魔王だわ!」

コロツケ「あれが俺・・あれが悪の心を持つ俺の顔なのか」

アーモンド「あれのどこがコロツケのクローンなんだ!」

メンマ「全然似てないな!」

リゾット「おそらくエクリプスがウコンの心を揺るがし顔を歪めんだろ。」

アユ「何あれ?」

XO「皆さん、スクリーンをご覧ください!今映り出されたのが両選手のパワーメーターです!今両選手のパワーポイントは100の満タンとなっております!どちらか

のポイントが0になれば負けとなります！」

ゆかり「あのブレスレットでパワーポイントを表示してるのね。」

あきら「そのためのブレスレットか。」

XO「ちなみにパワーポイントは命を表しています！」

あおい「それじゃ0になれば負けは死ぬってことか！」

ダークラスト「本当にコロツケに勝てるんだらうな。」

Dr. ボイズン「当然ですよ、なんとたつてコロツケはウコンの攻撃をかわせない！」

XO「それでは決勝戦始めます！バトルスタート！」

ウコン「いくぞ！」

ダッ

ルイーザ「ウコンが動いた！」

ウコン「ブラックハンバーガー！」

コロツケ「ぐあああ！」

いちか「コロツケ！」

ドロップ「コロツケパワーポイントが！」

コロツケ「かわせなかった」

ウコン「うおお！」

コロツケ「うあ!」

ウコン「ふん、この程度か?やはり俺の悪の心ほうがかなり上のようだな。」

コロツケ「そんな事あるもんか!俺に悪の心なんてあるもんか!」

ウコン「ほざくがいい、俺はお前から産まれた悪のバンカーだ!」

コロツケ「ぐあ!」

フオンドヴォー「まずい!このままじゃコロツケが!」

ルイーザ「コロツケ!」

ウコン「とどめだ!」

ガシツ

ウコン「!」

Dr. ボイズン「ウコンのパンチを受け止めた!」

ウコン「この!」

スツ

Dr. ボイズン「今度はかわした!」

ダークラスト「どういう事だ?コロツケはウコンの攻撃かわせないのではなかったのか?」

か?」

Dr. ボイズン「ええ!まぐれよ!ウコン!コロツケにとどめをさすのよ!」

スツ

いちか「またかわした！」

シエル「まるで見切ったみたい！」

リゾット「コロツケが強くなり始めたんだ！」

ひまり「えっ？ 追い込まれたの？」

ウスター「コロツケは追い込まれるほど強くなるんだよ！」

あおい「いちかが気にしていたコロツケの強さの秘密か？」

Dr・ボイズン「どういう事！ あんなのデータなかつたはずよ！ それにパワーポイントが回復してるし！」

コロツケ「俺は正義の心の父さんに育てられた！」

ウコン「くっ！」

コロツケ「父さんは教えてくれた！ 力は人を守る為にある！ 弱気を守り人を救う物だと！ そして悪に立ち向かう心が本当の力なんだ！」

ウコン「ぐあ！ くっ、なにが人を救うだ！ なにが本当の力だ！ 俺は悪の存在！ そんなものに負けるか！」

XO「ウコン選手、コロツケ選手の一撃で半分のパワーダウンだ！」

あおい「今ので半分も？」

あきら「もしかしてウコンはまだ心が弱いのかもしれない。」

リゾット「そうかもしれないな、今のウコンにとってはコロツケは初めての強敵だ!」

コロツケ「108ハンバーガー!」

ドカドカドカドカ

コロツケ「テンツドンアックス!」

ウコン「ぐあ!」

ひまり「クローンのパワーが30に!」

スフレ「ここからですわ、ウコンはあなたではないって事を」

コロツケ「ハンバーガー!」

ガン

ドサツ

D r・ボイズン「残り10ポイント、十分ね。」

観客A「何してんだ審判!やられてるだろ!」

観客B「またイカサマする気かよ!」

フォンドヴォー「またパワーアップする気だ!」

シエル「ブルックスとリゾットとヒートのときと同じように!」

ゆかり「計算済みのようね。」

ルイーザ「それならパワーアップする前にとどめをささないと！」

スフレ「無理ですわよ、コロツケがそんな卑怯な事するなんて。」

ダイフクー「これも計算済みかよ！」

Dr. ボイズン「ヒートの戦いで80%、これでウコンの真の強さとコロツケに勝てる確率が100%！これでエクリプス最強の戦士が完成だ！」

ダークラスト「なるほど面白い戦士を産み出したな。」

ゴゴゴゴゴゴ

Dr. ボイズン「なに！」

ダークラスト「様子がおかしいぞ。」

いちか「一体どうしたの！」

ルイーザ「ウコンの体が悲鳴をあげている」

タロ「やはりな、思った通りじゃ！」

ポー「思った通りって？」

タロ「無理がでてきたんじゃ！」

テト「どういう事？」

タロ「ウコンは産まれてそんなに長くない、それなのにいきなりコロツケの強さにさせるのに体が馴染んでおらんのじゃ！」

ムクツ

アユ「立ち上がった」

メンマ「見ろ!立ち上がったのにパワーが回復していない!」

チャールズ教授「クローンに限界がきています!」

ウコン「くたばれ!ブラックハンバーガー!」

コロツケ「ぐあ!」

ガアーン

ドロップ「コロツケ!」

スフレ「コロツケのパワーが!」

コロツケ「はあ、はあ」

ウコン「これでお前に勝ち目は無い、悪の力を思いしれ!」

つづく



## 第48話 見守つてた父の魂！

コロツケ「はあ、はあ」

ウコン「いい加減に諦めろ、お前に勝ち目はない。」

コロツケ「俺は負けない！ハンバーグー！」

スツ

ウコン「遅い、ブラックハンバーグー！」

コロツケ「ぐあ！」

ウコン「そろそろとどめといくか、エクリップスに歯向かう奴は死ぬがいい！」

いちか「コロツケ！」

リゾット「みんな！」

タツ

ウコン「！」

コロツケ「来ちゃダメだ！」

リゾット「負けても構いはしない！」

フォンドヴォー「だがコロツケ！」

「Tーボーン「オラ達の前でオメエを死なせはしないっペー!カルシウムクラッシュユー!」  
ウコン「ふん、助っ人か。」

「いちか「みんな、私達も行こう!コロツケは命がけでプリキュアを助けようとしてる、  
今度は私達がコロツケを助けないと!」

ひまり「はい!」

あおい「試合には負けてもいい!だが!」

ゆかり「エクリプスには」

あきら「負けるわけにはいかない!」

シエル「うん!」

プリキュアアラモード「キュアラモード!デコレーション!」

いちか「ショートケーキ!」

ひまり「プリン!」

あおい「アイス!」

ゆかり「マカロン!」

あきら「チョコレート!」

シエル「パフェ!」

いちか「元氣と笑顔を!」

ひまり「知性と勇気を！」

あおい「自由と情熱を！」

ゆかり「美しさときめきを！」

あきら「強さと愛を！」

シエル「夢と希望を！」

プリキュアアラモード「レッツ・ラ・まぜまぜ！」

キュアホイップ「キュアホイップ！できあがり！」

キュアカスタード「キュアカスタード！できあがり！」

キュアジェラート「キュアジェラート！できあがり！」

キュアマカロン「キュアマカロン！できあがり！」

キュアシヨコラ「キュアシヨコラ！できあがり！」

キュアパルフェ「キュアパルフェ！できあがり！」

プリキュアアラモード「はあ！」

ウコン「たあ！」

XO「なんと言う事でしょうか！リゾット選手達や見知らぬ物まで乱入してきました！これはコロツケ選手の反則により失格！」

D r・ボイズン「待てXO！」

XO 「えっ?」

Dr. ボイズン 「ちようどよくなってきたではないか。最大に強くなったウコンにコロッケの仲間とプリキュアを倒すのにちようどよい展開だ、このまま試合続行させろ

!

XO 「なるほど、わかりました。試合続行の許可が出ましたのでこのまま続行します  
!

キュアホイップ 「はあ!」

ウコン 「くっ! 余計なことを」

キュアジェラート 「おりゃ!」

ウコン 「フツ! はあ!」

キュアジェラート 「うあ!」

キュアカスタード 「ジェラート!」

ウコン 「コロッケ! くだばれ!」

パシッ

ウコン 「また貴様か。」

コロッケ 「ブルックス!」

ブルックス 「コロッケを倒すのは俺だ、貴様に手出しはさせない。」

ウコン「俺は負けた奴がでしゃばる気か？」

ブルックス「負けたのは貴様らの不正行為だ！ブラックハンバーガー！」

ウコン「うっ！」

ブルックス「俺の技パクるなんて100年早い事を思いしるがいい！」

キュアマカロン キュアシヨコラ「はああ！」

ストロベリー「大丈夫！コロツケ。」

コロツケ「うん」

スフレ「竜巻切り！」

ウコン「うっ！」

キュアパルフェ「はあ！」

ウコン「くっ！俺の邪魔をするな！」

ドオン

プリキュアアラモード「キャア！」

バンカー「うわあ！」

ウコン「今度こそ消えろ！」

ストロベリー「危ない！」

ザン

ストロベリー「アッ！」

ドサツ

コロツケ「ストロベリー！」

ストロベリー「うう」

ウコン「ふん、余計な事を。だがそのせいで自分が犠牲になった、おろかな女だ。それで貴様を助ける邪魔な奴はいない、エクリップスに齒向かう愚か者、死ぬ！」

キュアホイップ「コロツケ！」

ゴオー

ウコン「なに！うあ！」

バーグ「コロツケ、俺の所に来ちゃダメだ！立ち上がれ！」

ルイーザ「何なのあれは!？」

フォンドヴォー「バーグ師匠！」

キュアホイップ「そうか、わかったよ。コロツケが強くなる秘密が、あれじゃコロツケがどんどん強くなる訳だよ。お父さんはいつもコロツケを守っていたんだ。」

キュアカスタード「お父さん？」

キュアホイップ「そう、コロツケのお父さん、伝説のバンカー、バーグさんに！バーグさんは死んでもずっとコロツケのそばに居てコロツケを見守っていたんだ、これじゃ

コロツケは進化し続けるはずだよ。」

バード「コロツケ、立ち上がれ！負けるなよ。」

しゅん

ウコン「手間とらせやがって、だが貴様の親父の霊が消えた今もうお前に何もパワーも残っていない、今度こそ貴様を！」

カラスミ「見るんだ！コロツケのパワーレベルを！」

ルイーザ「あっ！」

ピピピ

リゾット「コロツケのパワーが回復してく！」

キュアパルフェ「しかもすごい勢いで！」

Dr. ボイズン「そんなバカな！」

ピー

ドカーン

ウコン「パワーが上がりすぎだど！」

コロツケ「迷いは消えた！そのお陰で力がわいてきた！バンカー魂！フルパワー！」

ボォー！

キュアホイップ「すごい！」

ストロベリー「コロツケ・・・」

ポトフ「ようやく気づいたのね!」

コロツケ「いくぞ!108ハンバーガー!」

ドカドカドカ

コロツケ「テンツドンアックス!」

ウコン「ぐお!」

コロツケ「108ハンバーガー!」

ドカドカドカ

コロツケ「はあ!」

バキ

パリーン

悪学者「あー!」

Dr. ボイズン「プリキュアでも壊せない特集金属の仮面が!」

キュアマカロン「ストロベリー、こっちに。コロツケ、後は任せるわ。」

コロツケ「うん!うおおお!」

ブルックス「!、これは」

フォンドヴォー「ブルックスも気づいたか。」



キュアジェラート「どうした？」

フオンドヴォー「コロツケの攻撃だ。」

キュアカスタード「えっ？どうかしたんですか。」

リゾット「見てみる、ウコンのパワーを、あれだけ殴られて全然下がっていない！」

キュアシヨコラ「確かに。」

フオンドヴォー「コロツケはただ攻撃をしてる訳でない、その拳に強い思いをのせてるんだ、あいつは他のバンカーとは違って死を望まないばかりに。」

キュアホイップ「コロツケは悪のクローンにも持ち味の優しさで」

コロツケ「うおおお！ハンバーガー！」

ガン

ウコン「ぐああ！」

ドサッ

D r. ボイズン「ウコン！もう一度パワーアップよ！」

D r. ボイズン「何してるの！」

ウコン「もうダメだよ」

D r. ボイズン「なに！」

ウコン「勝てないよ、こんな奴に俺の負けだよ」

D r. ボイズン 「そんな」

X O 「えくと」

ポー 「勝者、コロツケ選手！」

観客 「「ウオー！」」

ルイーザ 「やったのね！」

ソール 「エクリプスに勝ったんだ！」

ダークラスト 「結局役立たずだったな。」

D r. ボイズン 「ダークラスト様！」

ダークラスト 「仕方ない、こんな大会などようはない、プリキュアとバンカーもここに  
でくたばってもらおうぞ！うおおお！」

コロツケ 「なんだ！」

ポー 「観客の皆さん！大至急避難してください！」

X O 「ここにいたらヤバイ、くそ！」

キュアホイップ 「ダークラストが怪物に！」

ルイーザ 「あれは！あるときサンサンキングダムを襲った怪物！」

ダークラスト 「そうだ、サンサンキングダムを襲ったのは私だ！そして貴様の家族を  
消したのも私だ！」

ルイーザ「そんな・・・」

D r．ボイズン「ついにダークラスト様の力が甦られた！」

ダークラスト「私の力を思いしれ！」

プリキュア「待ちなさい！」

キュアホイップ「みんな！」

キュアミラクル「ホイップ、コロツケ！」

コロツケ「無事だったんだ！」

キュアブラック「コロツケのパワーレベルが爆発したら十字架の拘束が外れて。」

ダークラスト「プリキュアが、またやられに来たのか？」

キュアフローラ「私達は何度でも立ち上がるよ！」

ダークラスト「だったらこれでもか！があ！」

プリキュア「「キュアア！」」

バンカー「「うわ！」」

ダークラスト「素晴らしい！復活した私の力は素晴らしい！」

D r．ボイズン「これでサンサンキングダムは完璧にエクリプスの物だ！」

ウコン「D r．ボイズン」

D r．ボイズン「失せろ、もうお前は必要ない！」

ウコン「・・・」

コロツケ「まだ終わらせないぞ！」

キュアホイップ「私達は絶対サンサンキングダムを救ってみせる！」

ルイーザ「みんな、お願い！どうかみんなを救って・・・お父様、お母様、ルイーゼお兄様！」

つづく 次回第3部最終回

## 第49話 太陽に向かってホイップ・ステップ・ジャンプ

!

ダークラスト「うおお！」

キュアホイップ「あっ！」

コロツケ「まさかダークラストがこんな力持っていたなんて」

スフレ「コロツケ、ストロベリーは下がってて、あなた達のダメージは大きいわ！」

コロツケ「大丈夫だ！まだやれる！いくぞ！」

キュアブラック キュアホワイト「プリキュア・マーブルスクリュー・マックス！」

ダークラスト「うう！ぐおお！」

ルミナス「あんまり効いていません！」

キュアマジカル「そんな！」

リゾット「トリックキャン！」

ダークラスト「そんな攻撃で私を倒せると思ってるのか！」

D r. ボイズン「完全な力を取り戻したダークラスト様に貴様らが勝てる訳がない

！」

コロツケ「俺達は絶対サンサンキングダムを救うんだ!ハンバーグー!」  
ダークラスト「失せろ!」

コロツケ「うわ!」

キュアホイップ「コロツケ!」

キュアシヨコラ「やっぱりウコンからのダメージが大きい!」

キュアマカロン「それに私達もウコンの攻撃を食らっていたからね。」

キュアパルフェ「どうすればいいの」

ルイーザ「そういえば」

キュアカスタード「どうかしました?」

ルイーザ「あのときお兄様がダークラストを倒すとき光を出していたわ。」

キュアジェラート「光?」

ルイーザ「まるで太陽の光のような暖かい光」

ダークラスト「うおおお!」

プリキュア「キュアアア!」

ダークラスト「がああ!」

バンカー「うわあ!」

ルイーザ「みんな!」

ソール「そんな・・もうダメだ」

チャールズ教授「せっかくここまで戦ってくれたのに」

コロツケ「まだ諦めないぞ！」

キュアホイップ「私も！諦めない！」

ルイーザ「コロツケ、いちか！」

ダークラスト「目障りなやつらだ、それならこいつで2度と立てなくしてやる！」

ペコリン「ホイップ！コロツケ！」

ルイーザ「お願い！どうかみんなを守って！」

キラーン

ルイーザ「えっ？」

パリーン

ウスター「なんだ！」

プリンプリン「でっけえ！」

ルイーザ「クリスタルシャイン！」

キュアカスタード「あれがクリスタルシャイン！」

キュアジェラート「サンサンキングダムのお宝か！」

キュアフェリーチェ「でもどうして独りでに！」

キラー

チャールズ教授「クリスタルミニシャインも！」

キラーン

コロツケ「えっ？」

キュアホイップ「キラパティに！」

長老「な！な！何が何が起きてるジャバ！」

スツ

キュアホイップ「あれは！私が作った生きてるバンクのスイーツ！」

キラーン

キュアパルフェ「クリスタルアニマルの結晶になった！」

キラー

リゾット「さらに光がコロツケに！」

コロツケ「これは・太陽のように暖かい」

ルイーザ「あれは！ルイーゼお兄様が出した光！」

誠司「それがコロツケに！」

ダークラスト「なんて目障りな光なんだ！」

コロツケ「いこうぜ！いちか！」



キュアホイップ「うん！」

ダークラスト「くそ！」

コロツケ「いくぞ！ダークラスト！」

キュアホイップ「私達に太陽が味方になってくれた！だからあなたの思い通りにはさせない！」

ダークラスト「うるさい、はあ！」

コロツケ「うおおお！」

ダークラスト「うわあ！眩しい！」

コロツケ「いくぞ！サンシャインハンバーガー！」

ダークラスト「ぐあああ！」

キュアホイップ「今だ！みんな！」

プリキュアアラモード「キラッと輝け！クリスタルバンク！」

ダークラスト「なに！」

コロツケ「いちか達がメンチ達に乗ってる！」

プリキュアアラモード「プリキュア・アニマルバンクゴーランド！」

ダークラスト「ぐあああ！」

ドサッ

コロツケ「やった!」

キュアホイップ「勝った、ダークラストに勝ったのね!」

Dr・ボイズン「ダークラスト様!」

ダークラスト「バカが・・・このくらいでやられてたまるか!」

ウスター「あいつまだ立てるのかよ!」

Tーボーン「しぶとい奴だっぺ!」

Dr・ボイズン「さすがです!ダークラスト様!」

ダークラスト「この世界はエクリップスの物だ!」

ウコン「もう止しなよ。」

ダークラスト「ウコン!」

Dr・ボイズン「それは敗北したバンカーから巻き上げた禁貨!」

チャーリン

キラーン

バン王「バンキン〜グ!」

誠司「バン王だ!」

キュアジェラート「あれがバン王!」

ウコン「バン王、俺の願いは、エクリップスをこの世から絶滅させてくれ!」

Dr. ボイズン「やめろ！」

バン王「わかった！エクリプスを絶滅させる！バーン！」

ダークラスト Dr. ボイズン「うわああああ！」

悪学者 悪兵士「うああああ！」

コロツケ「ウコン！」

ウコン「迷惑かけたな・・・コロツケ」

しゅん

ルイーザ「ダークラストにエクリプスのメンバーが消えた」

コロツケ「バン王がエクリプスを消したんだ。ウコンも」

ウコン「うう」

コロツケ「ウコン！」

キュアホイップ「どうして！あなたも消されたんじや」

ウコン「わからない。俺も消されたはず」

バン王「消したのはエクリプスのときのウコンの心。今居るのはコロツケの心を持つ

たウコン。」

ウコン「えっ！」

バン王「今のお前なら新たな一步を踏み出せるだろう。」

キラー

ウコン「……」

ルイーザ「ついに取り戻せたのねサンサンキングダム」

ピカー

ルイーザ「えっ?」

ペコリン「クリスタルシャインが!」

キュアブラック「光が人影に!」

ルイーザ「あれは……お父様!お母様!ルイーゼお兄様!」

国王「お妃「ルイーザ!」」

ルイーゼ「心配かけたね、ルイーザ。」

ルイーザ「でもどうしてクリスタルシャインに?」

ルイーゼ「あのとき僕達はダークラストの呪いを受けてクリスタルシャインに閉じ込められていたんだ。クリスタルシャインの中でもずっとルイーザの声は聞こえていた。」

ルイーザ「そうだったのね。よかった!」

長老「タロの占いは当たってたことジャバナ。」

タロ「ウム!」

ルイーゼ「ありがとう、いちか、コロッケ、プリキュアの皆さん、バンカーの皆さん。」  
お妃「あなた達のお陰でサンサンキングダムはもとの明るい平和な国に戻りました。」  
国王「心から感謝を申し上げます。」

キュアホイップ「いやそんな。」

コロッケ「それにエクリプスから救ったのはウコンだ。」

ウコン「いや、俺は」

ルイーザ「ウコン、あなたはこれからどうするの？」

ウコン「いや俺は・・・」

ルイーザ「それならサンサンキングダムの兵士にならない？」

ウコン「俺が？」

ルイーザ「あなたはもうエクリプスでも悪の戦士でもない、だからエクリプスの兵士  
になつてください。」

ウコン「・・・俺でよければ。」

ルイーゼ「歓迎するよ。」

湊

ルイーザ「皆さん、本当にありがとう！」

いちか「うん、だけどここでお別れなんだね。」

ルイーザ「うん、私も名残惜しいけどあなた達と過ごした時間はいつまでも忘れないわ!」

コロツケ「俺も忘れない!」

ルイーゼ「それじゃサンサンキングダムをもとの世界にもどすよ。」

ルイーザ「みんな! さようなら!」

スツ

ひまり「サンサンキングダムが消えました!」

あおい「無事に戻れるといいよな。」

いちか「コロツケ、ありがとう。プリキュアのみんなを救えたのはあなた達のおかげだよ。」

みらい「今度は私達が助けられたね。」

コロツケ「うん、大変だったけど楽しい冒険だったよ!」

シエル「それじゃ私達ももとの世界に戻ろう。」

いちか「うん!」

みらい「それじゃ異次元空間の鍵で開くよ、開け!」

ピカーン

ゆかり「これで帰れるのね。」

あきら「それじゃ行こうか。」

いちか「コロツケ、さようなら！あなたがお父さんを生き返らせる事を信じるからね。」

コロツケ「サンキューな！いちか。またな！」

いちか「じゃあね！」

ピカーン

スフレ「行っちゃいましたわ。」

コロツケ「もしかしたらまた会えるかもしれないよ。」

リゾット「そうだな。そしたらどんな旅になるだろうな。」

プリキュアの世界

いちか「帰れた！」

あおい「長い旅でここが懐かしく感じるな。」

ひまり「そうですね。」

いちか「コロツケ、太陽のような子だったよ。なんだかウキウキしてきた！ホイップ・

ステップ・ジャーンプ！」

第3部おしまい